支那事變
聖戰博覽會大觀

朝日新聞社發行

序文

忠烈なる皇軍の武威赫々、敵都南京を攻略し着々戰果を收め、銃後の國民もまた奉公の赤誠を致し、東亞の安定力たる實力と國威とを遺憾なく全世界に發揚することを得、時局は新しき段階に移つて深刻重大さを加へ來つた昭和十三年春より初夏の候に亘り阪急電鐵沿線西宮球場および外園（總坪數三萬五千坪）にて開催せる『支那事變聖戰博覽會』は各方面の絕讃の下に入場者實に百五十餘萬の多數に上り空前の大成功を得たることは本社の欣幸とし且つ衷心より感謝に堪へないところである。顧れば本博覽會開催を企圖し準備に着手してより開會日まで二ケ月未滿の短時日であつたが幸に陸軍省、海軍省の後援を初め各關係諸官衙、在支諸機關並に一般各方面の絕大なる協力と聲援を得て戰利品、輝く武勳品、現代兵器、戰況の全貌、日本精神總動員、戰時重要產業、支那の眞相、其他各種資料を豐富に蒐集出陳することを得、日日多數の來觀者に深き感銘を與へ、もつて、皇軍の勇戰奮闘のあとを偲び、護國の英靈に感謝すると共に重大時局の認識を一層深からしめ擧國一致、終局の大目的達成に邁進すべき銃後の精神作興にいさゝか貢献し得たることを確信するものである。

今回本博覽會の全貌を表はす寫眞帖を編纂し關係各方面に記念として贈り感謝の微意を表することゝした。各位の御淸鑑を得ば幸甚である。

昭和十三年十二月

大阪朝日新聞社

探知するに利用

五、艦船が航海疾走しながら海底の深さを知るに利用

一、音源標定機（壁畫）

一發の敵の砲聲を聞いて其陣地の位置を正確に標定する事が出來る。これには三個のマイクロフォンを離れた位置に置き、同一フキルムの上に砲聲の遲速を記錄させ、これをもとにして音源を標定するものである。

東京研精社出品

一、未來戰實演（模型）　一場

日本精神發揚

福岡筥崎宮藏

一、「敵國降伏」扁額拓本掛軸　一幅

一、醍醐天皇御宸翰「敵國降伏」（模本）　一冊

一、孝明天皇蠻夷拒絶御綸旨（寫眞）　二通

一、神功皇后三韓御征伐繪卷一部（同）　一枚

一、東郷元帥戰捷感謝報告式文（寫し）　一點

熱田神宮藏

一、源頼朝公より寄進狀　一通

大阪　住吉神社藏

一、住吉神社の祭禮練り込み人形　二體

一、神功皇后と武內宿禰を謹寫した繪馬　一枚

三重　光明寺藏

光明寺藏書殘缺

一、結城宗廣軍中日記　一冊

一、同軍中日記（寫眞）　一卷

一、同軍中日記解釋　一冊

一、同軍中日記木版　一卷

一、北畠親房卿袖判　一枚

一、新田公袖判　一枚

三重　稱念寺藏

一、新田公御墳墓御菩提所寫眞　二葉

三重　神宮皇學館藏

一、神武天皇御陵御修覆石採繪卷　一卷

一、橿原神宮神域擴張設計圖　一枚

三重　神宮徵古館藏

一、齋內親王御參宮圖　一卷

一、井伊直弼攘夷祈願文　一通

一、御蔭群參圖（文政度）　一卷

一、昭和四年神宮式年遷宮繪卷玉串行事　一卷

一、同　遷御　一卷

一、池田輝政寄進狀　一通

三重　神宮文庫藏

一、內宮々中參道行程の圖　一冊

一、明治四十五年皇大神宮遷宮附屬諸祭行事之圖　一卷

一、遷宮溫故帳　一冊

一、大々御神樂之圖　一幅

一、近代勅使宣命使御參宮次第　一冊

一、伊勢大神宮神異記　二冊

一、伊勢大神宮續神異記　一冊

一、明和續神異記　一冊

一、お蔭げ參り文政神異記　二冊

一、明治天皇伊勢御參宮之圖（錦繪三枚つゞき）　一組

一、神宮錦繪集　一冊

一、大日本史奉獻烈公添文　一葉

一、洗心洞劄記　二冊

一、朱子文集　二冊

一、內宮一ノ鳥居前御橋造營料寄進請文　四葉

一、浪花神榮講書附　一葉

一、浪花講定宿帳廣告　一葉

一、永代日供御供獻備願望文記　一冊

一、國難打開一萬神社祈願帳　一〇冊

一、大日本史　二冊

一、大日本史奉獻掲札　一枚

一、新田義貞佩刀圖　一卷

一、楠木正成腰刀圖　一幅

一、伊勢國司代々御系圖書　一冊

一、多氣國司系圖北畠氏法名帳　一冊

一、結城氏系圖　一冊

三重　神宮神部署藏

一、支那事變下に於ける神宮崇敬統計表　一組

德島　光慶圖書館藏

モラエス氏奉掲の

一、伏見桃山御陵御札　一枚

一、恩賜の御紋章入煙草　一本

一、明治天皇御尊像（額）　一面

同氏著

一、Relance da Historia da Japas　一冊

一、Seraes no Japas　一冊

一、Dai Nippon　一冊

一、德島の盆踊　一冊

一、日本夜話　一冊

一、日本精神　一冊

同氏愛用の

一、オルゴール　一個

一、立體寫眞鏡並各繪　一點

一、袖なし　一點

一、足袋　一足

一、同氏蒐集の錦繪　二點

一、モラエス氏住宅門標　一個

一、同氏宅室內寫眞　四枚

一、モラエス氏寫眞　一枚

一、およね　こはる　像（寫眞）　二枚

モラエス氏は元ポルトガル軍艦のキャプテン壯年時代より東洋の地に親しみ二十餘年間も神戸駐在の外交官として嘗ては畏きあたりの拜謁をも賜はつたことさへある。一朝深く感ずるや、一切の榮譽を捨てゝ、愛妻の故郷德島に隱遁、身も魂も全く日本人化して了つて後には眞に孤獨の生活數十年、昭和五年七月一日行年七十六歲永眠す。生前鴨長明に心醉するところあり、生活はさながら「方丈記」そのまゝのやうであつた。每日の日課は亡き妻の墳墓に詣でありし日の追憶をなすことである。ひたすら古き日本の歷史、自然の風物を熱愛し全く人と離れて國と懷しんでゐたのである。常にわが皇室を尊敬し佛教の篤信者で同時にまた神秘な情熱の詩人である。わざと世に示すためのものでもなく秘かに送つてゐた故國への通信文章が歿後一躍世界に紹介されて日本の生んだ特異の一大文豪と稱せらるゝに至つた。最近その記念事業が企てられ著書の多くはすでに日本譯となつて現はれ德島市圖書館には貴重な遺品が保存され翁の墓地隱棲の陋屋等今は新しい德島名所となつてゐる。

各府縣廳藏

一、各府縣國民精神總動員ポスター及パンフレット　數種

東京暹羅協會藏

一、山田長政の軍艦圖（額）　一面

奈良縣櫻井高等女學校藏

一、國民精神總動員實踐要項　數枚

大阪 愛日小學校藏

一、乃木將軍筆教育勅語　一額

右は嘗て大阪朝日新聞の特別附錄として公刊したもの。

大阪 市藏

一、聖德太子御畫像　一軸
一、豐太閤像（額）　一面
一、神武天皇御東征の圖（額）　一面
一、小野妹子の歸朝圖（額）　一面

大阪市立衞生試驗所藏

一、食品廢棄物の利用一覽表　一枚

大阪遞信局藏

一、愛國貯蓄及軍事郵便に關するポスター　數枚

〇八十億の貯蓄を目指して

一、貯蓄は公債を消化する
政府―日本銀行―金融機關―國民の間の金及び公債の循環

二、貯蓄は物價安定の基
彪大豫算に依る國民經濟の物價水準を高めぬため貯蓄のポンプで吸はねばならぬ

三、貯蓄は國防充實のもと
國民消費と國防充實の分水嶺が貯蓄の額で左右する

四、一石三鳥の貯蓄運動
國民貯蓄は ①自己の幸福 ②社會の安寧 ③國家の隆興を結果する。

國旗宣揚會藏

一、正しい國旗の取扱ひ法說明圖　一枚

歷史研究會藏

一、皇國日本と世界の興亡對照大扁額　一面

風俗研究會藏

一、最も簡素な檜兜　一個

一、五月幟　一本
一、立雛さん　一體

大昔からわが大和民族の祖先は淸潔を貴んだ。ひな祭りはその祓禊のため海川に流した人形から發達變遷してきた世界に類のない優雅な風習である。新しい贅澤な雛よりも元始をしのぶ簡素なものをいづれの家庭でも女兒のため飾つていたゞきたい。

三月三日でも五月五日でも昔は不吉の日としてゐた。そんな日に却つて偉人が生れた。迷信はいつか破られて愛兒のための祝日となつた。端午は支那の故事にも遠由してゐるが日本でも純日本風になつてしまつた。菖蒲は尙武にも通じて聖戰中の今日一層意義ふかい。端午かざりの本體はどうしても兜と太刀とである。これもこゝに最も簡素な檜兜と菖蒲太刀を選んだのもそのためである。別に鯉のぼり、金太郎など勇壯で健康で頗るよろしい。

一、近世具足（甲冑一式）　一箱
一、奉納の鏑矢　一本
一、日本室と臺所の設備と人形　一式
一、床の間敬神の軸　一幅
一、眞の藥玉　一個
一、子供の枕屛風　一個
一、太刀と川柳の額　一面
一、健康男女兒の版畫額　一面

御陵參拜會藏

一、歷代御陵巡拜地圖　一枚

南朝勤王史蹟顯彰會藏

一、南朝勤王戰蹟地圖　一枚

樂正會藏

一、住吉踊の大傘その他　一式

風俗研究會江馬務氏其他會員藏

一、上代の出征の式（寫眞）　一枚
一、奈良朝時代の神詣（同）　一枚
一、藤原時代の裳批式（同）　一枚

一、鎌倉時代の出陣飾り（同）　一枚
一、同　陣屋（同）　一枚
一、天照皇大神の文字ある冑の前立　一個
一、獅子頭の兜（鍬形）　一個
一、提灯兜（昔の鐵兜）　一個
一、鉢金　一個
一、半首（はつぶり）　一個
一、八幡大菩薩の幡　一帳
一、梨子地螺鈿の太刀　一口
一、皮包の太刀　一口
一、重籐の弓　一張
一、黑漆の弓　一張
一、壺胡籙　一個
一、箙　一個
一、胡籙弦卷　一個
一、空穗　一個
一、桐紋のうつぼ　一個
一、楯　一枚
一、日の丸陣羽織　一着
一、筑紫長刀　一本
一、長卷　一本
一、小刀　三本
一、槍の穗先　三本
一、十手　一本
一、金棒　一本
一、六尺棒　一本
一、ねじ（昔の關所用）　一本
一、鐵のわらぢ　一足
一、菖蒲輿（宮中に獻納するもの）　一個
一、草の藥玉（五月に用ひるもの）　一個

藥玉端午節について
藥玉は劍難と疾病を防ぐものとして、昔宮中や公卿では端午の節句に飾られたもので、これには直行草の三つの形式があり、菖蒲、蓬、丁子などで作られ、香り床しく垂らされた五色の絲は、支那では續命の絲といはれるおめでたい絲で、木、火、土、金、水の五行說に則る靑赤黃白黑の五色は地球上の人種の色でもあり、平和を表象するものとも云へる。この意義深く、しかも優雅な藥玉を古式に則つて五月に復活せしめ「文」の象徵として兜の「武」に對して文武を現はす標準型の端午飾りが斯界の權威者によつて提唱され近ごろ盛んに用ひられる樣になつた。

一、守り袋（端午飾り用）　一個
一、盾　一面
一、五月幟（大小）　二本
一、繪馬のいろ〳〵　數個
一、立雛　一對
一、流し雛　一個
一、天勝　一個
一、大張り子　一對
一、貝桶（貝合せ）　一式
一、毬杖（ぎつちよ）　二組
一、江戸時代の毬杖　一個

落合 勇氏藏

一、伊東巳代治譯日本帝國憲法　一冊
一、憲法發布の官報號外　一枚

日本古樂面研究會藏

一、伎樂及舞樂面　三個

雅亮會藏

一、舞樂裝束古樂器　一式

一、萬歲樂（まんざいらく）
舞樂は奈良朝の盛時世界音樂の粹をぬいて完成された豪華樂である。昔名君世に現はる時は鳳凰來つて鳴くといふ故に此曲を一に「鳥歌萬歲樂」とも稱する。明治四年、大正四年、昭和三年いづれも御卽位式大嘗會に太平樂と共に此樂を奏せられた實に目出度い曲である。
大阪には四天王寺の伶人から傳統された大阪雅亮會があり、此の裝束、樂器類はその所藏にかゝる。

一、還城樂（中曲大食調）

一名「見蛇樂」とも云ふ。一人舞。獰猛な面を附けて、手に一尺ばかりの棒を持ち足拍子面白く踊りながら廻る。中頃蛇を見付け之を取巻いて打ち遂に之れを捕へて欣ぶ。天平時代渡來した印度の人佛哲の傳へたものと謂はれてゐる。支那の玄宗皇帝の時に出來たとの説あるも本來は印度の神話だと高楠博士は云つてをられる。

大阪文樂座藏

一、文樂人形（國姓爺合戰） 一場

文樂の人形淨瑠璃は世界に比類ない國粹藝術であり、外國使臣には必ず觀覽に供するほど日本の誇りとしてゐる。「國性爺」は正德五年十一月一日、竹本座初演、文豪近松門左衞門の作にかゝる。

和藤内は無双の英雄明國の遺臣老一官の子でその母は日本人である。異腹の姉なる錦祥女の力を借りて韃靼を亡さんとす、義にからまる親子の血涙人情の機微を描き異國に日本人の武德を輝かした稀代の名曲である。

人形はまた天下一品國寶的の價値あるもの。日支事變に因み此の古典劇を表示したのである。

三崎清二郎氏藏

一、久米舞（等身人形） 一體

その昔 神武天皇大和國御征伐の際、賊兄猾を誅し給ふて後軍士達に饗宴を賜ふた時天皇自ら御作りになつたものと承はる。御製は軍士これを歌ひ舞は道臣命や大久米命などが敵を切つた振りを模してある。後世にはこの武臣の子孫が代々傳へたが中世全く滅びたのを江戸時代に復興され、明治十一年始めて紀元節の饗宴に用ひさせられ以後宮中の恒例となつてゐる。

一、能樂人形（小鍛冶） 一式

三條の小鍛冶宗近は勅命により御劍を打つことゝ成つたが、相槌を打つ程の弟子無きに思ひ悩み、神力を仰がんと稻荷の明神に祈願をこめたところ、一人の童子現はれ劍の威德を懇に說き『漢王には三尺の劍、我朝には草薙の御劍あり、それに劣らぬ名劍を打ちて君に捧げよ、我必ず來りて汝を助け相槌をなすべし』とて行方も知れずなつた。宗近は壇を構へ幣を立て祈願し御劍を打たんとする時稻荷の神體現はれ宗近の相槌をなし打上げ遂に天下の名劍を造つたといふ神への信仰と精神とを表示したものである。

大阪 森下博氏藏

一、賴山陽五十鈴川の詩拓本 軸 一幅

松井光之助氏藏

一、歷代御陵全部御判の軸 一本

一、同 御判入寫眞帳 一冊

大阪 福田芳穗氏筆

一、神話物語額（日本畫） 五面

一、天の浮橋

いざなぎの尊
いざなみの尊
この二柱の神さまが日本の大八洲（おほやしま）をお創りになりまた澤山な神々をお產みになつた。

二、天の岩屋

天照大神がおかくれになつたので世がくらやみ。お出ましを願ふため神々たちは神樂を奏しいろ〳〵工夫をなされた。

三、すさのをの命

出雲國へおこしになつたら八頭のおろちを退治て悲しんでゐた乙女をお救ひになつた。

四、すくなひこなの命

高天原からおこしになつた小さな神さまであるが、智惠のある偉い方で大國主命を助けていろ〳〵とこの國の產業をおすゝめになつた。

五、國ゆづり

高天原からお遣はしになつた神々に大國主命のお子さまたちはその國をおゆづりになつた。

玉嶋實雅氏藏

一、弘法大師いろは歌拓本 一枚

木崎好尚氏藏

一、柴野栗山神武陵の詩軸 一幅

兵庫 岡野養之助氏藏

一、勤王書家贈從四位浮田一蕙筆 水戸光圀公像 一幅

一蕙は土佐派の名手なり。慷慨氣節あり。嘉永六年米艦浦賀來航に際し其子をして進んで警伍隊に加はらしむ。常に神風夷艦を覆すの圖を作り國民の志氣を鼓舞し又時勢策一篇を草して朝廷に上り、嘉納せらる。安政の獄に連るも義を執りて毫も屈せず、獄中疾を得て遂に仆る。明治廿四年勤王の功を頌せられ從四位を追贈せらる。

森繁夫氏藏

一、神功皇后御書像と武内宿禰書像 一幅
一、豐太閤書像の軸 一幅
一、淸正公書像 一幅
一、山田長政公書像 一幅
一、契沖眞淵宣長三人書像 一幅
一、弘法大師書像 一幅
一、菅公書像 一幅
一、松陰先生書像（木版） 一幅
一、護良親王御書像 一幅
一、佐久間象山書像 一幅
一、山鹿素行木像 一體
一、杉田玄伯木像 一體
一、柴野栗山木像 一體

兵庫 大江素天氏藏

一、楠公合戰屛風（六曲半双） 一點
一、藤田東湖正氣の歌（扁額） 一面
一、聖德太子十七條憲法（寫） 一面

兵庫 村山長擧氏藏

一、神武天皇御即位油書 一額

今田忠兵衞氏藏

一、明治二十七八年戰勝記念繪本（百笑畫録） 一冊

出雲路敬豐氏藏

一、山崎闇齋の書像 一枚
一、山崎闇齋の神祠寫眞 一枚
一、山崎闇齋碑拓本軸 一幅

伊東信吉氏藏

一、御巫清直翁南朝忠臣詠歌（兒島高德） 一幅
一、同（楠中將） 一幅
一、同（新田中將） 一幅
一、同（名和長年） 一幅
一、織田信長公朱印文書 一通

米山梧朗氏藏

一、北畠親房卿書像軸 一幅

畑嘉聞氏藏

一、高山彦九郎像軸 一幅
一、高山彦九郎書軸 一幅

川喜田久太夫氏藏

一、北畠顯家公書像軸 一幅

田中正治氏藏

一、大楠公書像軸 一幅
一、新田公書像軸 一幅
一、後醍醐天皇御遺詔（寫） 一枚

東京 藤澤衞彥氏藏

一、日本名婦鑑（錦繪） 二五枚

奈良朝時代

一、中將姫（孝謙天皇の御代奈良大佛開眼の年、右大臣藤原豐成の息女中將姫十六歲にて佛道に歸依し、大和國當麻寺に籠り蓮の糸にて曼陀羅を織り給ふ。）

平安朝時代

一、小野小町（淸和天皇の御代、歌道に秀で、大伴黑主

と歌論をなし、草紙洗によつて「うきくさの」の歌を殘す。）

一、安壽姫
（山桝太夫といふ富貴なれど邪智非道の聲高き主人に使はれ、弟對王丸を助けてさまざまの憂き苦勞をなし、その犠牲となる。）

一、伊勢大輔
（一條天皇の御代、能宣朝臣の孫、上東門院に仕ふ。偶々奈良より櫻の花を献上ありこれにて歌詠めと仰せありて「いにしへの」といふ歌をよむ。）

一、紫式部
（上東門院に宮仕し、源氏物語を編む。）

院政時代

一、大井兒
（高倉天皇の御代、近江の國に生る。孝行娘と稱へらるゝを妬んだ者達が、大石を運んで大井兒の田の水口を塞いだ。大井兒は易々とそれを取り退け、更に大なる石を運んで惡戯者の田の水口を塞いだ。若者達はそれを取退ける力なく、大井兒に詫びた。）

一、袈裟御前
（源渡の妻、夫に操を立て遠藤盛遠に殺さる。盛遠發心して文覺上人となる。）

一、巴御前
（和田義盛の妻。粟津に奮戰して勇名を轟かす。朝比奈三郎義秀の母なり。）

一、官女松蟲
（八島の戰に源氏に呼びかけて那須與一に扇を射さしむ。）

一、典侍の局
（安德天皇を守護しまつり、西海に沈む。）

鎌倉時代

一、靜御前
（源義經の妾。堀川の邸にて、土佐坊昌俊の襲撃を前知し、鎧を投げかけて義經の眠を覺まし、自らも薙刀を取つて戰ふ。後捕はれ、鎌倉八幡宮神前にて舞を舞ひ、義經を慕ふ歌を唄つてその貞節を知らる。）

一、梶原源太景季の妾
（後鳥羽天皇の御代、櫻の枝を侍女に持たせ鎌倉幕府の門前を通り、咎められて櫻の花を惜しむ名歌を詠む。）

南北朝時代

一、勾當內侍
（新田義貞越前藤島に戰死、妻勾當內侍は剃髪、嵯峨に草庵を結び夫の冥福を祈る。）

室町時代

一、山吹の里の女
（太田道灌、放鷹の歸り驟雨に逢ひ、農家に雨具を借らんとせし時、山吹の枝を差し出してその才を讃へらる。）

一、山內一豐の妻
（安土の馬市にて名馬を見て、屈托する夫の爲、生母より貰ひたる黃金を差し出し、主信長の馬揃ひに夫をして名を成さしむ。）

一、明智光秀の妻
（光秀浪々中、髮の毛を賣つて夫の旅費となす。光秀山崎に滅びて後、江州坂本城にて自刄す。）

江戸時代

一、お初
（松平周防守の中老尾上に仕へ、老女岩藤にいぢめられて自害せし主人の爲に、卽日岩藤を討ちて尾上の志を果す。）

一、加賀千代
（俳名を以て名高し。）

一、登幾女
（水戸烈公の侍女。水戸公の命を受け、京都に使して密奏す。安政の大獄に當り、自刄して烈婦の名を殘す。）

一、尼崎里也女
（尼崎幸右衞門の娘なり。三歳の時岩淵傳內の爲に父を殺され、長じて後憂憤に堪へず、二十餘年の後、遂に仇を討つ。）

一、木戸翠香院殿
（木戸孝允の夫人、以前に妓名を幾松と云ひ蛤御門の變に桂小五郎（孝允の前名）を匿ひ、逮捕を逃れしめ、後迎へられて夫人となる。）

一、河瀨の妻
（姿美しく賢婦人の聞え高し。勤王の夫、囹圄の人となりゆくゆく戮せられんとするを悲しみ、刄に伏す。）

一、武田耕雲齋の別室時子
（耕雲齋勤王の義軍を加津山に擧げ、諸所に轉戰、時子これに從ひ共に奮戰、遂に越前敦賀に於て斬らる。）

一、田丸稻之右衞門の女松子
（加津山一擧に、一方の大將田丸の娘松子は孝義貞烈を以て聞え、田山峠の合戰に薙刀を水車の如く振り廻して敵を惱ます。）

明治時代

一、岡崎島子
（官軍會津征討の際、兄會津藩士岡崎武夫手負ふと聞き、戰地に馳けつけて敵の圍を斬りはらつてその場を逃れしむ。時に十五歳なり。）

一、白虎隊の産衣と使用の木刀　二點

一、威化の横笛　一管
（嘉留爾丸墓の文献付）
山井治部卿兼仍作を加治禎胤摹す。松平定信これを愛で奏づるに惡心の者をよく感化すと云ふ。
後次男衡にこれを與へ衡は林家を繼ぎ大學頭となり代々林家に傳はりたるものである。

一、林玄蕃頭試殺箭　一揃
（兜及馬標付）
眞田家の臣林玄蕃頭は强弓を以て聞え、或日酒井雅樂頭御前にて、罪人に兜を冠せ遠矢にてこれを射るに罪人を少しも傷つけず兜を射拔き、當座の褒美に酒井家の馬標を賜はる。右はその時射透されたる兜とその時使用せる弓矢と賜はりたる馬標である。

一、日露媾和成立に際し御下賜の詔勅（寫）　一枚

一、戊申詔書（寫）　一枚

一、教育に關する御沙汰書（寫）　一枚

一、學制發布五十年に際し御下賜の勅語（寫）　一枚

一、帝都復興に關する詔書（寫）　一枚

一、明治節制定の詔書（寫）　一枚

一、光明皇后御仁慈の圖（錦繪）　一枚
聖武天皇の皇后、宮職に施藥院を設けらる。傳說に、皇后千人の垢を流し給ひ、千人目の乞丐の膿汗を洗ひ給ふ時、乞丐は頭より光明を放ち、御佛の姿になり給ひしとあり。

一、弟橘姫御入水の圖（錦繪）　一枚
景行天皇の御代、日本武尊をして蝦夷を討たしめ給ふ。途上暴風雨に遭ひ、弟橘姫は自ら海に飛び入り尊の難を救ひ給ふ。

大阪朝日新聞社藏

一、五箇條の御誓文額　一面
明治元年三月十四日　天皇公卿諸侯を率ゐて紫宸殿に出御、親しく幣帛玉串を奉献、天神地祇を拜せらる。三條實美　天皇に代りてこの五箇條の御誓文を奉讀された。御誓文は由利公正、木戸孝允、福岡孝悌等が起草したといはれてゐる。この扁額の文字は卽ちその樞機に參した一人福岡孝悌翁の筆なり。
朝日新聞の社寶として常に會議室に掲げられてあるものをこゝに出陳した。
福岡翁は元土佐の藩士、山內容堂侯の献言を捧げて後藤象二郎らと共に將軍慶喜公に二條城に會見、大政奉還を促した人である。參議兼文部卿、司法卿、元老院議官、樞密・顧問官となり、子爵、正二位、勳一等、大正八年八十五歳にして薨ず。

一、皇威八紘の文字（扁額）　一對

一、御神勅文奉掲　一額

一、古代神々御名奉掲　一八額

一、神宮・神社寫眞　一五額

一、乃木神社寫眞　一葉

一、日露役奉天總司令部に於ける陸軍主腦部會合の寫眞　一葉
（參列者右より）
陸軍大將　川村景明
參謀長　陸軍大將　兒玉源太郎
軍司令官　陸軍大將　乃木希典
軍司令官　陸軍大將　奥保鞏
軍總司令官　陸軍大將　大山巖
軍司令官　陸軍大將　山縣有朋
陸軍大將　野津道貫
陸軍大將　黑木爲楨

一、日本海海戰記念三笠艦上における聯合艦隊主腦部會合寫眞　一葉
（明治三十八年七月二十六日寫）
（後列右より）
參謀　海軍大尉　淸川純一
副官　海軍中佐　永田泰次郎
參謀　海軍少佐　飯田久恒
主理　川地彌作
（前列右より）
先任參謀　海軍中佐　秋山眞之
機關長　機關總理　山本安次郎
司令長官　海軍大將　東郷平八郎

参謀長　海軍大將　加藤友三郎
軍醫正　軍醫總監　山本景行

一、本朝皇胤紹運錄　一冊
一、日本書紀　五冊
一、古事記　三冊
一、小泉八雲著神國日本　一冊
一、水戸義公修大日本史　六卷
一、山鹿素行著中朝事實　二卷
一、本居宣長著古事記傳　五冊
一、僧契沖著萬葉代匠記　一冊
一、賴山陽著日本外史　二二卷
一、同　著日本政記　一六卷
一、蒲生君平著山陵志　一冊
一、吉田松陰著幽囚錄　一冊
一、杉田玄伯著解體新書　一冊
一、伊藤博文著憲法義解　一冊
一、明治天皇御製謹解　一冊
（文學博士　佐佐木信綱謹註）
（大正十二年三月朝日新聞社發行）

不世出の聖帝明治天皇は和歌の道に大御心を寄せ給ふこと深く金玉聖藻の御製はさきに宮内省において編纂せられ日夕拜誦銘記景仰し奉るべくなほ御製の一般弘通を希ふため宮内省編纂委員の一人佐佐木博士にその謹解を請うて發行したものである。

一、元曆萬葉集　一六卷
（佐佐木信綱編、天平文化記念出版、朝日新聞社發行）

萬葉集はわが國最古の歌集にして古事記と並びて古典の双璧、天平文化の精華を代表すべきものといふべく、典據たるべき古寫本の刊行をなし以て不朽に傳へんとした。萬葉集古寫本中、分量最も多く、平安朝の能書家の手に成り古筆としてその名高く、夙くは　靈元法皇、近くは　明治天皇の天覽に供したもの卽ちこの元曆萬葉集である。

原本は現に高松宮家と古河男爵家とに分藏せられてある宮家の允許を忝ふし古河家の認諾を得、且つさらに諸家散在の斷簡を集めて原本と同寸法、また裝幀は粘葉といふ上代の様式である。（昭和三―四年出版）

一、昭憲皇太后御歌謹解　一冊

日本と列强

一、健康優良兒寫眞及標語ポスター　數種
一、勤勞奉仕寫眞　數十枚
一、體位向上各種運動の寫眞　數十枚
一、海と山への運動寫眞　數十枚
一、小泉八雲寫眞　一枚

內閣情報部藏

一、獨伊宣傳省組織表　一枚
一、內閣情報部職掌表　一枚
一、世界通信網圖　一枚
一、スパイ戰　八枚
一、ソ聯のポスター　二枚
一、コミンテルンの表　二枚
一、スパイ戰様相　一六枚

遞信省藏

一、世界電信電話圖　一枚
一、遞信關係ポスター類　七枚

大阪府立貿易館藏

一、我國を中心にしての對外貿易表　一枚
一、日本と諸列强との通商條約　五點

伊藤金二郎氏藏

一、軍艦「扶桑」模型　一個
一、軍艦「愛宕」模型　一個
一、軍艦「三笠」模型　一個
一、軍艦「神通」模型　一個
一、砲艦「熱海」模型　一個
一、驅逐艦「曙」模型　一個
一、驅逐艦「追風」模型　一個
一、巡洋艦「夕張」模型　一個
一、水雷艇「友鶴」模型　一個
一、英艦「ロドネー」模型　一個
一、英艦「デボンシャイヤー」模型　一個
一、米艦「インディアナポリス」模型　一個
一、米艦「サラトガ」模型　一個
一、獨艦「アドミラルシュッペー」模型　一個
一、潜水艦「イ一號」模型　一個

大阪朝日新聞社藏

一、日本國旗　一旒
一、伊太利國旗　一旒
一、獨逸國旗　一旒
一、世界大戰ポスター　二〇枚
一、英・米・蘇軍艦の寫眞　九枚
一、國際關係漫畵（立體）　七點
一、近衞公及ヒットラームッソリーニ兩氏の寫眞　三枚

支那關係

天津〇〇部隊藏

一、狛犬　一對

天津市政府正門にあつたもの昨夏北支事變中天津の支那軍はこの市政府に根據をおいてゐたのでわが陸の荒鷲に徹底的に爆擊され市政府は全く破壞しつくされ正門は基礎まで跡形もなく吹き飛ばされたがこの狛犬だけは一對とも不思議に無疵で一頭は爆彈で出來た孔の中に轉げ落ち他の一頭は半回轉して傾いてゐた。重量は一頭で三噸あります。

北京特別市藏

一、萬壽山所藏の洋車　一臺

曾つて西太后の使用したもの。

一、芝居衣裳　一二揃

支那演劇に使用するもので道士四天達表、佛僧袈裟、佛教最高位僧の袈裟、孔明の上衣、外國駙馬の衣裳、滿洲公主の衣裳、項羽の衣裳。

一、芝居冠　四頭

支那演劇に使用するもので劉皇叔（劉備）冠、滿洲公主帽、僧帽四郞探母（外國駙馬）帽に分れる。

一、一輪車　一臺
一、芝居面（模型）　二一個
一、職業別人形（模型）　一二組
一、嫁入行列人形（模型）　一組
一、馬車（模型）　一個
一、現代花嫁輿　一臺
一、寺（模型）陶器　一個
一、芝居冠（模型）　一個
一、芝居人形（模型）　三個
一、凧　四個
一、小學校成績品　數種
一、現用小學校教科書　數種

北京興中公司藏

一、井陘鑛煙煤　一點
一、正豐鑛煙煤　一點
一、井陘コークス　一點
一、陽泉炭　一點
一、北支鑛石　一點
一、西山炭坑無煙炭　二點
一、六河溝石炭　一塊
一、怡立產石炭　一塊
一、龍烟鑛石　一箱
一、山西省大同塊炭（第一層）永定莊坑炭　一箱
一、同炭（第二層）　一箱
一、下花園炭坑 寶興二坑有煙炭　一箱
一、同花園坑無煙炭　一箱

大阪地方專賣局藏

一、青島鹽見本　一點

鐘紡中津工場藏

一、北支羊毛見本　七種

團野特派員藏

一、抗日宣傳パンフレット　一四冊

大阪府立貿易館藏

一、高粱その他農產物見本　數種

長谷川春子氏藏

一、官渡・ロ夕陽（油畫）　一點

陸軍省新聞班藏

一、淸水登之戰線スケッチ　一七面

內閣情報部藏

一、支那女學生の作文綴　一〇冊
一、抗日ポスター　一三枚
一、抗日ビラ類　九枚
一、抗日ポスター　四枚
一、應當參加公民訓練ビラ　四枚
一、初小國語讀本　一冊
一、短期小學讀本　一冊
一、民衆學校讀本　一冊
一、生活晚報　一九部
一、上海市政府情報處小看板　一枚

舞鶴要港部藏

一、支那軍側調製防毒教育圖　一〇點

蒙疆聯合委員會藏

一、蒙古婦女用冬服ズボン　一枚
一、蒙古婦女用冬服胴着　一着
一、蒙古婦女用冬服チョッキ　一着
一、蒙古婦女用帽子　一個
一、蒙古婦女用靴　一足
一、蒙古婦女春秋用胴着　一枚
一、蒙古婦女春秋用長チョッキ　一枚
一、蒙古婦女春秋用ズボン　一點
一、蒙古婦女春秋用帽子　一個
一、蒙古男子用冬服胴着　一着
一、蒙古男子用冬服上着　一着
一、蒙古男子用冬服ズボン　一枚
一、蒙古男子用夏服　一着
一、蒙古男子用夏用チョッキ　一着
一、蒙古男子夏服ズボン　一枚
一、蒙古男子夏服用三尺帶　一本
一、蒙古男子用毛皮付帽子　一個
一、蒙古男子用カバー付黃帽子　一個
一、蒙古の財布　二個
一、蒙古の箸とナイフ（サック入）　二個
一、蒙古のお守入　三個
一、蒙古の長靴　四足
一、蒙古赤へり取り合羽　一枚
一、蒙古赤へり取り帽子　一個
一、蒙古數珠　一個
一、蒙古天幕（內容付）　一組
一、北支農產物見本　一點

東京自治會館藏

一、蒙古包　一組

遊牧民蒙古族が、生活、氣候、風土に最も適切に創造しあげた家屋で、寸鐵を用ひず唯細小なる木材と獸皮と獸毛とを以て構成することの移動運搬に便利な家屋は、金屬の使用を關知しなかつた時代に於ても建て得たもので、この包の規模は外裝極めて狹小に見えるも內の設備、裝飾等から見れば上流階級に屬するものと思はる。

橋本關雪氏藏

一、支那スケッチ畫　二三點

淸水登之氏藏

一、戰線スケッチ（水彩畫）　六點

小早川篤四郎氏藏

一、同　五點

中村直人氏藏

一、同　二點

等々力巳吉氏藏

一、同（油畫）　九點

向井潤吉氏藏

一、同　八點

鶴田吾郎氏藏

一、同　五點

鈴木榮次郎氏藏

一、同　三點

大阪朝日新聞社特派員出品

一、在太原軍需調査　一冊

田中萬宗氏藏

一、山西省大同縣雲岡靈巖第十一窟所在色子法宗（太和七年造僧銘拓本）　一本
一、武周山靈巖石窟全景スケッチ　一卷
一、河南省洛陽縣伊闕龍門山スケッチ繪卷　一卷

右スケッチ繪卷二卷について、山西省太同府城の西北三里の地にある武州山雲崗の石窟はこんどの北支戰線にあたり、皇軍によつて千古の名蹟がいま完全に保護されてゐる。石窟は最も大なるものだけでも二十を以て數へられ、第五、六、七の窟前には三四層の樓閣が巖窟に接し建てられてゐる。佛像の大きさは七十餘尺にも及ぶ。創建は北魏文成帝（わが安康天皇卽位二年）の命を受け僧曇曜これを開き、その後三十九年間に掘鑿彫琢されたもので、實に我が飛鳥藝術の源をなすものといはれてゐる。

明治三十五年伊東忠太博士初めて發見、その論文によりフランスの東洋學者シャッンヌ氏佛政府援助のもと洛陽龍門及び鞏鼎等の石窟と共に寫眞集に收められ世界の學界を驚かした。雲崗の佛像は所謂北魏式で龍門の慈悲圓滿なるに對し、これは智慧剛健を表はし、近千五百年前からの貴い文化の遺蹟である。近頃まで信仰のない外人らのため破壞、持ち去られた箇所も少くないが、今後の完全な保護こそ東洋文化のため必要である。このスケッチ筆者田中萬宗氏は三度まで實地踏査に行つた篤志な研究家であり又北支佛敎古蹟保存の熱心な主唱者でもある。

魚谷吉二郎氏藏

一、支那各種看板見本　數枚

三崎淸二郎氏藏

一、支那ガラス繪　二一枚

仁木積一氏藏

一、新浙江日報　一部

足立義春氏藏

一、親日ビラ　六枚
一、親日ポスター　一枚
一、日本語會話讀本　一冊

久　琢磨氏藏

一、支那繪はがき集（額入）　一面

田中特派員藏

一、中華民國臨時政府のビラ類（文章繪畫大小色々）

一、親日ポスター（大小）　一八點

田畑特派員藏

一、寒山寺の詩（石刷）　一枚

一、盧溝曉月（石刷拓本）　一枚

乙三洞氏藏

一、蒙古ラマ教の祭に用ひる面　四個

日本の伎樂面と相通ずるものあり、奈良二月堂水取りの行ひも遠くこれに因るところあるかと思はれる。

一、支那の傘提燈　一個

松村泰男氏藏

一、民國宣傳ポスター　四枚

大阪朝日新聞社藏

一、支那風景及人物寫眞各種　數枚

一、王克敏氏書　一枚

一、余晉龢氏書　一枚

一、江朝宗氏書　一枚

一、吳承湜氏書　一枚

一、中華民國臨時政府國旗　五旒

一、北支診療班ポスター　三枚

同社特派員藏

一、中國聯合準備銀行鈔票様本　一冊

通州事件記念室

通州居留民會
會長　宇佐見義雄氏藏

一、トランク　一個

一、日傘　一本

一、鐵面　一個

一、電話機　二個

一、日めくり（日繰）　一點

一、帶劍　一口

一、座布團　一枚

一、カレンダー　一枚

一、軍刀折　一個

一、壁板　三枚

一、殷汝耕の寫眞　一枚

一、殷汝耕書　二軸

一、五色旗　一旒

一、祝幟　三旒

一、地圖　一揃

一、下駄　一足

一、寫眞　一葉

一、ネクタイ外　三點

一、書籍　七冊

一、下駄櫛　三個

一、書籍外　七點

一、帽子外　三點

一、帽子　三個

一、スタンバット外　三點

一、玩具汽車　一個

一、杓子外　三點

一、茶卓外　七點

一、食器　一組

一、着席表　二枚

一、受話機　一點

一、刀掛　一個

一、小銃彈藥筒　一包

一、醫療器　一點

一、子棒　二本

一、金庫　一個

一、金庫ドアー　一個

一、地圖　一枚

その他

臺灣軍司令部藏

一、盲爆の寫眞　七枚

陸軍科學研究所藏

一、毒ガス濾過器　一組

國產緬羊協會藏

一、蒙古緬羊　二六頭

平川時彌氏藏

一、鐵兜　一個

一、飯盒　三個

一、水筒　七個

大阪朝日新聞臺北支局藏

一、爆彈　一個

一、青竹の破片　一本

大阪朝日新聞社藏

一、愛國行進曲圖表　一枚

一、皇軍戰鬪寫眞　數十葉

一、軍用機献納運動圖表　一枚

一、陸海軍への献納圖表　一枚

一、內地開催事變展寫眞　一冊

一、江南戰線を彷徨せる野犬（一名コロと計畫部員命名）　一匹

右犬は戰火に喰ふものがなくなり人馬の死骸を求めて閘北戰線をうろついてゐた野犬ですが今は本會場係員の愛撫にすつかりなれきつてゐます。

守山特派員藏

一、南京親日ポスター　七枚

一、抗日的枕覆　一枚

末藤知文氏藏

一、戰線スケッチ及ポスター　二一枚

本館內建設物

大阪朝日新聞社出品

一、愛國行進曲ヂオラマ　一場

一、戰況進展解說圖解（電燈點滅式）　三場

一、中支鐵道破壞修理圖　一場

一、戰場巡覽大パノラマ　百間

第一場面、蘆溝橋
第二場面、仿山の戰鬪
第三場面、八達嶺山岳戰
第四場面、琉璃河敵前渡河
第五場面、保定へ突入
第六場面、太原攻略
第七場面、國際都市大上海
第八場面、閘北パンテオン附近の戰鬪
第九場面、三義里踏切
第十場面、商學院
第十一場面、八字橋
第十二場面、上海市政府附近の攻擊
第十三場面、大場鎭
第十四場面、南京へ南京へ
第十五場面、輝く南京入城
第十六場面、徐州陷落（兩將軍の劇的會見）

外園建設物

一、靖國神社遙拜所
一、皇軍萬歳塔
一、北京正陽門模型
一、北京正陽橋模型
一、南京市政府門模型
一、軍艦出雲艦首模型
一、演藝映畫館
一、野外演藝場
一、日・獨・伊防共道路
一、子供用運動場
一、同パラシュート降下練習臺
一、同旋回飛行塔
一、同戰車式自動車飛行機操縱練習場
一、朝日新聞野戰通信本部　一棟
一、同野戰移動鳩舍　二臺
一、近代機械化部隊演練場　一萬五千坪
一、支那大陸鳥瞰、大パノラマ　七千坪
一、我が荒鷲隊編飛翔模型　十六機
一、摸擬野戰陣地　各種

一、地下大本營

これは國民政府の地下大本營です。蔣介石以下幕僚參謀がこゝを本據として頑張り隣りの鷄鳴寺地下無電本部と連絡し更に有線無線の電信電話を以て最前線と連絡して作戰をねつた所ですが勇敢なる皇軍に一たまりもなく占領されました。

一、彫刻に僞裝した鐵路管理局の銃眼

この鐵路管理局は上海の我海軍陸戰隊本部の道路一つ隔てた北側に立つてゐる鐵筋コンクリート六階建ての立派な建物であるが此の屋上パラペットの隅々にはこの模型の樣に鳥の羽の彫刻を型取つた意匠があるが驚くなかれこの意匠板を一皮めくると御覽の通り鐵扉でカムフラージの蓋をした堅固なコンクリート銃眼でこゝから建物の四周に押し寄せた我軍に猛射を浴せたもので所謂典型的な「街の要塞」です、然しこの堅牢無比の建物に最初より計畫的に造つたこの要塞も我軍の正確な爆擊と砲彈とによつて蜂の巣のやうに粉碎されてゐます。

一、地下無線本部

南京鷄鳴寺の地下は地下大本營に連る無電本部となつてゐるがその入口を隱蔽する爲に小樓閣を急造して僞裝してゐる。これはその模型です。

一、防空監視所

我が荒鷲隊の爆擊に戰慄したる敵は南京城を中心に周圍到るところの高地に防空監視所を設け無電で大本營に連絡してゐたが此の監視所は堅固な鐵筋コンクリートで構造した八方には銃眼を設けてゐる。卽ち防空監視所であると同時に立流な要塞となつてゐます。

一、南京防空宣傳模型大爆彈

これは南京市内の目拔の大通たる中山路と中山北路の交叉點に當る中央廣場の眞中に立てられてゐる防空宣傳の大爆彈の模型です。說明宣傳板はこの爆彈模型の前に立てられてあつた本物です。國民政府が我が空軍の爆擊に如何に恐れ此の防空宣傳に狂奔したかを窺ふことが出來ますが今は哀れにも我が荒鷲隊の南京空爆の記念碑となつてゐます。

一、僞裝された火藥庫
（麒麟胴附近珠山火藥庫）

敵軍が命とたのむ火藥庫は如何に大切に保護したか、ありとあらゆる智惠をしぼつた結果出來上つたのが「農林試驗所」で米麥を始め棉花白菜を植ゑた平和な農園となつてゐるが下には砲彈、爆彈、小銃彈を始め我皇軍を苦しめた機關銃の連彈、手榴彈等が無數に貯藏されてゐる恐ろしい火山です。

一、公共防空壕

此の公共防空壕は空襲時に路上を通行してゐる人たちを保護する爲に造られたるものにて市街の中央廣場を始め目拔の街路の兩側に三百米置きにたくさん入口を突出してゐます。此の壕は「軍事工程團」と云ふ工作班の造つたものでこの構造は地形によつていろ〳〵ありますが、大體似たりよつたりで普通五十名位收容出來る樣になつて居ります。此の模型は南京市政府前のもので壕の入口の「公共防空壕」と云ふ看板はこの壕に附けてあつた本物です。

一、ベトン・トーチカ

上海戰線には到るところにいろ〳〵の變つたトーチカがありますがこのトーチカはその最も典型的なものでありまして全部鐵筋コンクリート構築で堅牢無比です。

一、戰車防止柵

閘北市街の主要道路の到るところに道幅全部深さ十尺の落合を掘り或は斯の如き（レール）を逆向に植ゑて戰車の進擊を防止する裝備を致し我が戰車を防がんとせしものなり。

一、蔣介石邸内の防空壕

防空壕は道路のみならず個人の家の地下室や庭園等に設けられてありますがこの模型は軍官學校内にある蔣介石官邸の庭園にあつたものを實物大に型取つたのです彼が幾度か周章狼狽して逃げ込んだ珍風景が想像されます。

一、交通整理六角堂に隱蔽したトーチカ

南京挹江門から市内に入つた北中山路の眞中に模型の樣な交通整理の六角堂がある。ゴーストップの親切な顏の下から四方に口を開けた物凄いトーチカの中は交通壕で連絡して進退自由になつてゐる。

一、未完成のベトン・トーチカ

大場鎭の方面に此の樣な未完成のトーチカが寂しく支那兵の狼狽振りを物語つて居りますコンクリートの厚さ鐵筋構造などに御注意下さい。

一、南京挹江門要塞

下關の埠頭から南京城内に入る挹江門の內壁北側は小高い丘になつてゐて此の斜面は「忠孝仁愛信義和平」と國民政府同志の標語がもつともらしく揭げられいかにも平和な風景ですがこの平和のシンボルこそ一度開けば恐るべきトーチカ重機關銃の連續です、然も中はどこまでもつゞく堅固なコンクリート造りの要塞になつて南京城南方の固めとなつてゐますが水鳥の羽搏きに戰いた平家勢の如く我が皇軍の猛擊の一步前に退却した爲にかくの如き堅固な要塞も何の効もなく放棄されるまで不發彈の樣になつてゐるのは笑止千萬です。

一、煉瓦塀に伏せたトーチカ

これは南京中山碼頭にあるガソリン油庫ですがたゞ見れば何の變つた事もない平和な壁も一皮むければ恐ろしいトーチカで、チエッコの機關銃が牙をむき出してゐます、この隱蔽トーチカは、南京市内至る所に毒牙を伏せてゐました。

一、中山陵の僞裝

國民政府の元祖たる孫文の廟中山陵を守らんが爲には金目いとはず必死の努力を拂つた形跡があります。卽ち長い石疊の參道には周圍の芝生と紛らはしくする爲三色の雲形迷彩が試みてあり更に廟の本殿は勿論樓門と云はず建物には悉くこの模型のやうに竹網で僞裝を施してゐます、惜しいことには建物の方は僞裝が未完成の內に南京が陷落してしまつたので頭かくして尻かくさずのやうな形で殘つてゐます。

戰時重要產業出品會社

汽車製造株式會社

一、廣軌蒸氣機關車模型說明

本機關車は弊社に於て從來製作せる中の最大なる廣軌機關車にして各種の最新式附屬裝置を完備す

主要寸法

シリンダ直徑	六三〇粍
同　行程	七六〇粍
使用壓力	一七瓩每平方糎
動輪直徑	一、五〇〇粍
引張力	二五、六〇〇瓩
重量	二〇二瓲

一、寫眞說明（其の一）

本機關車は昭和十二年支那隴海線鐵路局へ納入せし廣軌機關車にして其主要寸法左の如し

主要寸法

シリンダ直徑	六三〇粍
同　行程	七五〇粍
使用壓力	一四瓩每平方糎
動輪直徑	一、四〇〇粍
引張力	二五、三〇〇瓩
重量	一九〇・五瓲

一、寫眞說明（其の二）

本機關車は昭和十一年暹羅國へ納入せるものにして歐米製品を凌ぎ優秀なる成績にて絕讃を博せり

主要寸法

シリンダ直徑	四五〇粍
同　行程	六一〇粍
使用壓力	一三瓩每平方糎
動輪直徑	一、一〇六粍
引張力	一〇、九〇〇瓩
重量	九〇・一瓲

東洋紡績株式會社

支那事變聖戰博覽會の趣旨に基き弊社製品の內より特に非常時纖維に業界の代表的製品を蒐め陳列す

聖戰博會場本館スタンドより支那大陸大模型及び萬歳塔を見る。

聖戰博會場大觀

阪急西宮球場及びその外園三萬五千坪の地域に建設せる聖戰博の大鳥瞰寫眞（本社機上より撮影）で壯大なる規模と連日數萬の入場者を收容せる盛況を見ることが出來る。（中部防衛司令部許可濟）

3

梨本宮殿下御台臨

五月十一日梨本宮守正王殿下には聖戦博に台臨、上野社長、村山會長の御案内にて場内を御巡覽遊ばされた。

久邇宮殿下御成り

五月十一日久邇宮朝融王殿下には聖戰博に台臨あらせられた。

有馬大將來觀

四月二十六日有馬良橘大將は明治神宮主典惠川孝安氏らを伴ひ來場讃嘆の辭を連發しながら視察した

米内海相來場

四月十日米内海相は及川海軍航空本部長らと共に聖戰博に來場、全會場を熱心に巡覽した。

松井大將來場

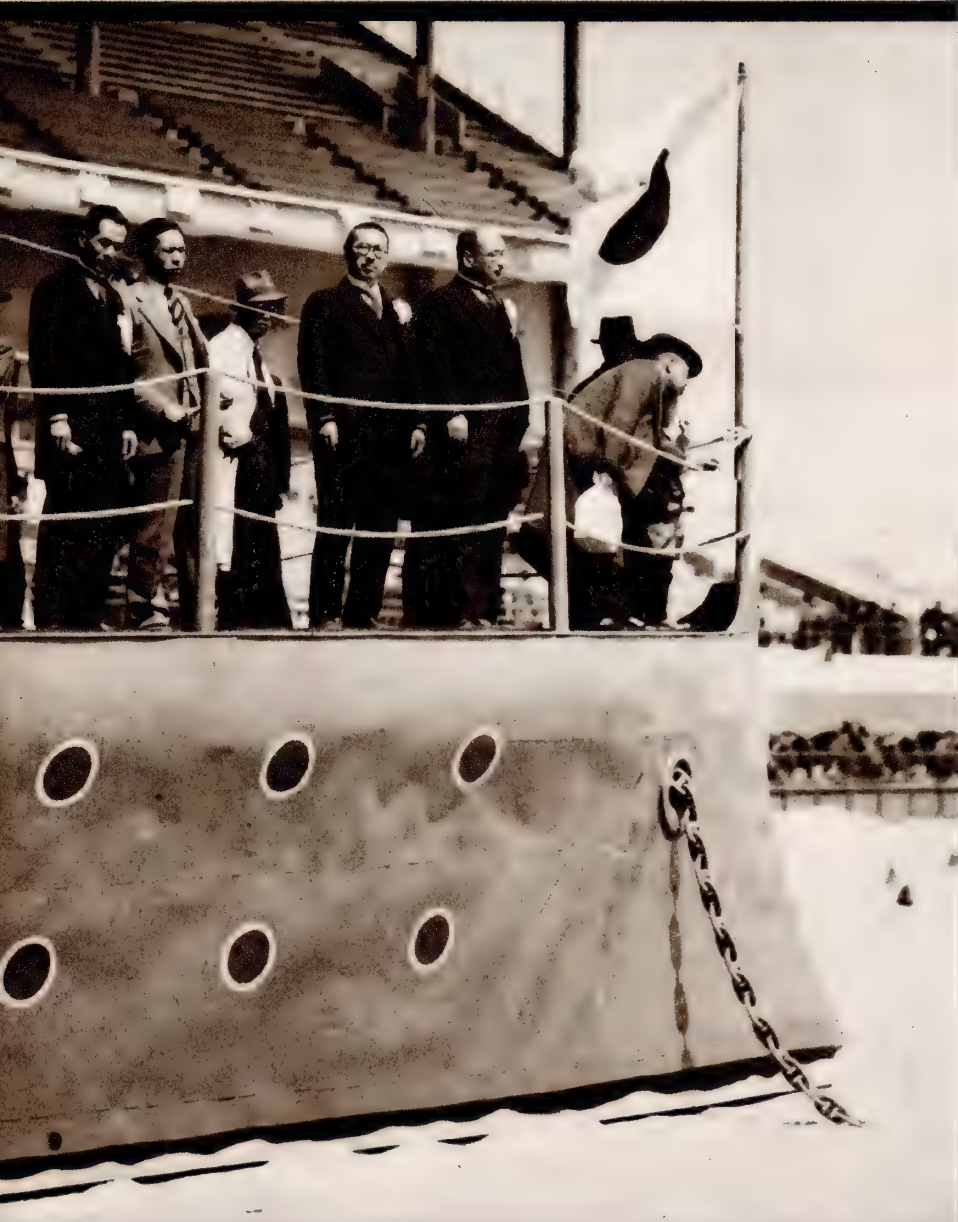
前上海方面最高指揮官松井石根大將は五月二十八日來場した。寫眞は南京中山陵門模型前を步む松井大將。

吉野商相來觀

四月十三日吉野商相は蓑澤秘書官らを伴ひ聖戰博へ來場熱心に巡覽した。

末次内相參觀

四月二十三日末次内相は勝田政務次官を同伴、岡田兵庫縣知事らに案内されて來場、その内容の充實を賞讃し熱心に參觀した。

谷中部防衛司令官來觀

池田大阪府知事來場

聖戰博開會式

聖戰博開會式招待宴會場における村山本社會長の挨拶。

聖戰博開會式は四月一日朝野の名士數百名を招待して華々しく擧行された（野外劇場にて）

四月一日聖戰博開會式に先立ち靖國神社遙拜所の修祓式を行ふ。

聖戰博開會式における上野本社長の挨拶。

聖戰博開會式來賓。

聖戰博開會式招待宴

四月一日開會式に次いで野戰糧食をもつて事變色濃き招待宴を開く

聖戰博本館より見たる北京正陽樓と南京市政府門の大模型。

聖戰博來觀者

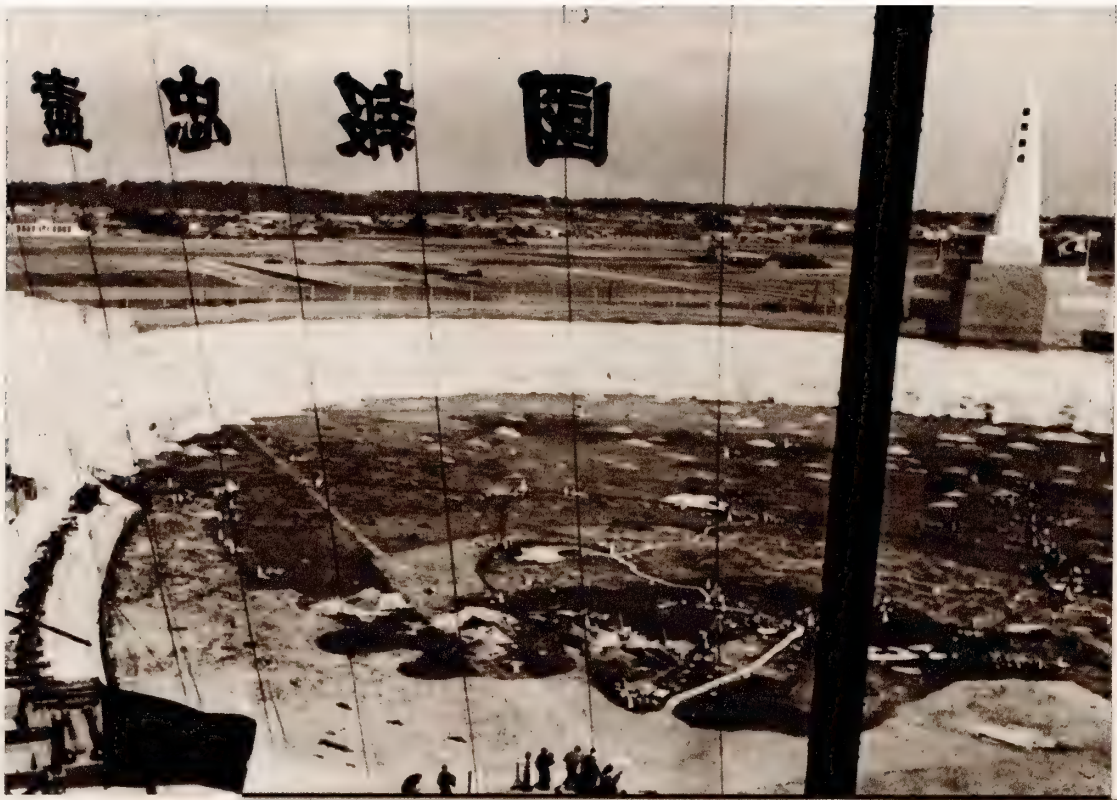
阪急西宮北口驛及び阪神國道方面より陸續として會場へ。

軍艦「古鷹」乘組員の聖戰博見學

歩兵第八聯隊將兵の來場

歩兵第八聯隊機關銃隊、歩兵砲隊は演習の途次聖戰博へ立寄り熱心に見學した（寫眞は正陽樓前を進む）

阪急西宮北口驛より會場へ。

輝く皇軍奮戰塔
會場本館スタンドより支那大陸大模型を通して皇軍奮戦塔を望む偉觀

支那大陸大模型

支那大陸模型

本館四階スタンドより支那大陸大模型を見る。

皇軍兵器タンクと支那大陸模型の上を進む編隊飛行模型。

本館スタンドの大觀衆

本館スタンドに飾られた[illegible]

E十六型機

わが荒鷲空軍に撃墜されたる敵E十六型戰鬪機、右上はわが軍飛行機、左下方は鹵獲の敵軍各種砲。

戰利品の數々

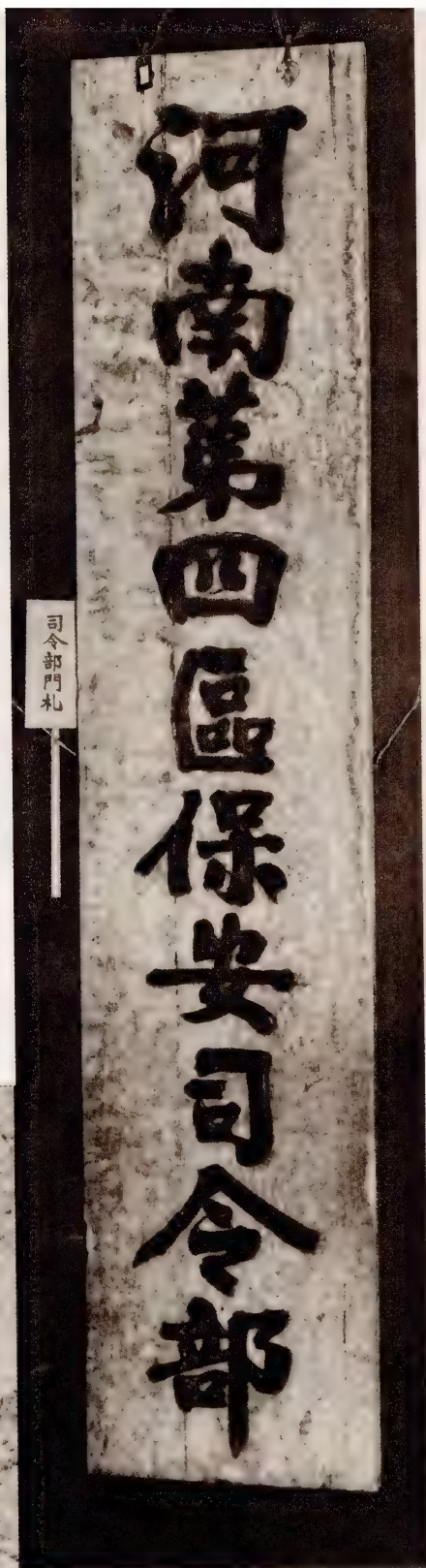
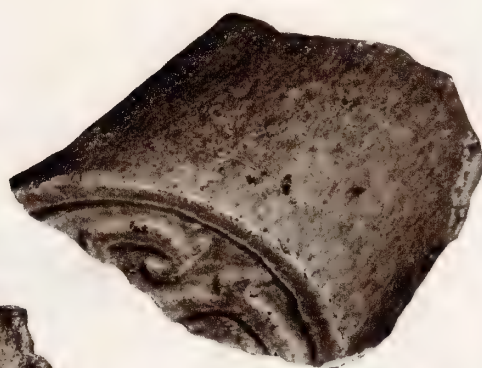
鹵獲せる敵軍使用の青龍刀、鐵兜槍、小銃、軍旗等。下は本館二階の觀衆。

河南第四區保安司令部の看板。

南京の抗日學生隊の旗。

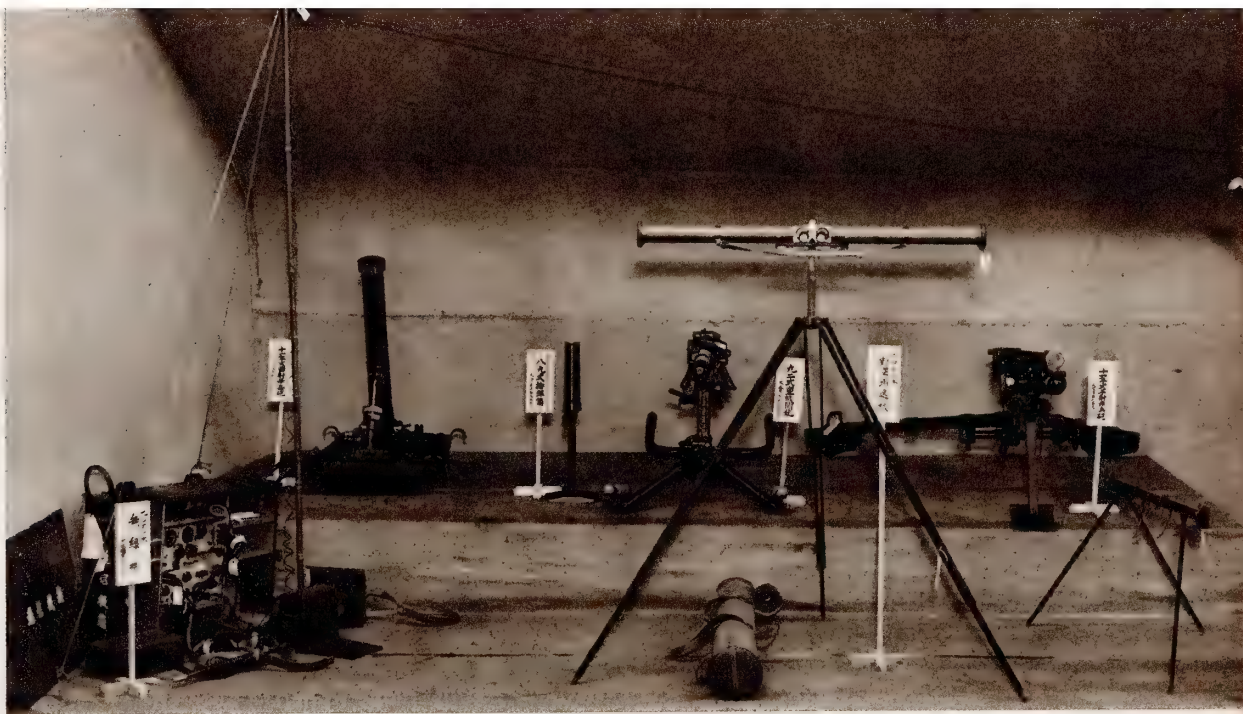
鹵獲戰利品の一部。

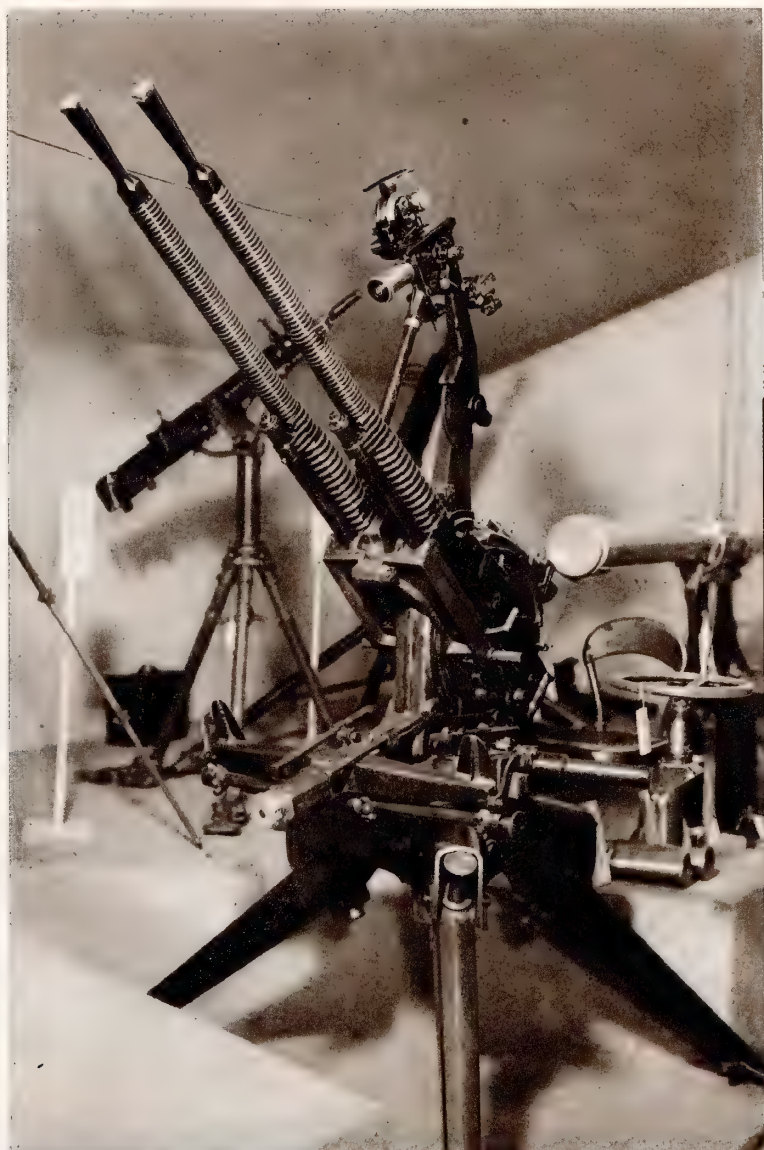
支那軍の軍服と機關銃。

南京中山陵の屋根瓦。

南京中華門鐘の一片。

寒山寺の瓦。

皇軍兵器

九四式對空測遠機、十一年式平射步兵砲、九二式重機關銃、八九式擲彈筒、十一年式曲射步兵砲、九四式無線機。

皇軍兵器

上海虬江路並にハスケル路の戰鬪におてわが海軍陸戰隊の勇士が考案使用し多大の效果を收めた原始的な兵器、弓、火箭砲、石投具。

皇軍兵器

ホ式十三粍高射機關銃、高射機銃
芭斯式測遠機。

松井石根大將の色紙

昭和十二年秋、出征せる台灣軍部隊の戰死者慰靈祭に供へられた松井最高指揮官の色紙。

忠靈前　敬呈　松井　石根

悉戰力闘三閲月、包攬超壘甃不已
神哉敵陣旭旗翻、欲餞忠靈幽冥裏
十月二十六日於陣中

支那事變勃發より十三年三月までの間に西日本より出征し赫々たる武勳を樹てたる殊勳者並に戰死者百數十名の寫眞、手澤品、軍帽、軍服、軍刀、拳銃、双眼鏡、飯盒、水筒、勳章、陣中便りなど、殊勳を物語る品を展觀し銃後に絶大なる感銘を與へ赤誠の喚起に貢獻した。

（右より）山本重藏航空兵軍曹（桑名）、富田仙太郎少佐（京都）、横井喜代藏少佐（桑名）、澤田彥次郎中尉（奈良）諸氏の遺品。

内田眞二軍醫大尉（岡山）、土岐覺次郎中佐（廣島）、須藤久中佐（廣島）、只友猛步兵中佐（岡山）諸氏の遺品。

藤井勇藏上等兵（大阪）、淺井良次伍長（大阪）、富久達雄中尉（大阪）重矢才夫伍長（大阪）、下田庄太郎上等兵（大阪）諸氏の遺品。

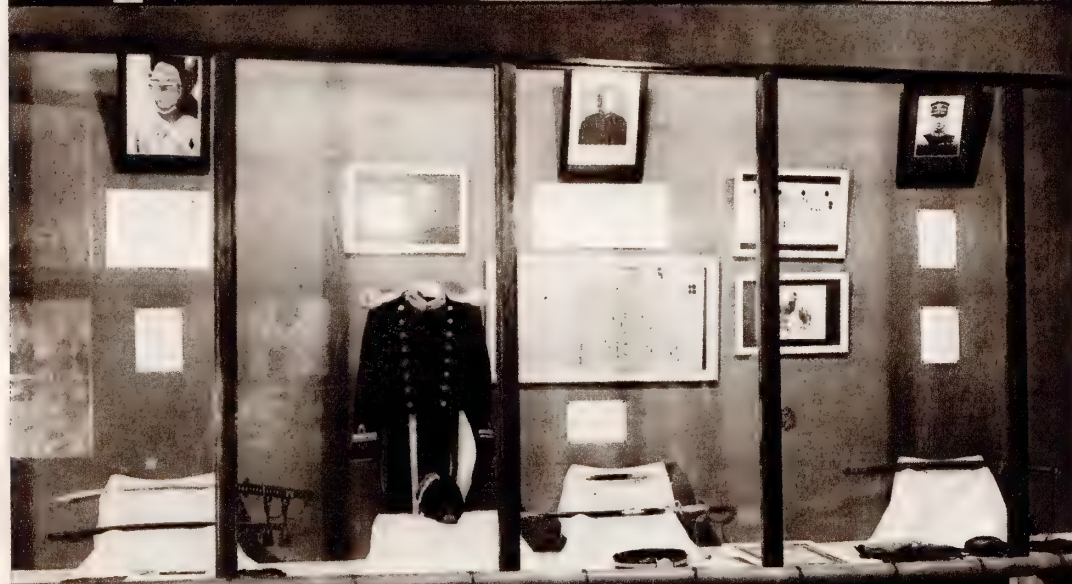
輝く武勳室

淺間長之助中佐（和歌山）、岩井薦男海軍中佐（和歌山）、貴志金吾海軍大尉（和歌山）、大前旭憲兵曹長（和歌山）諸氏の遺品。

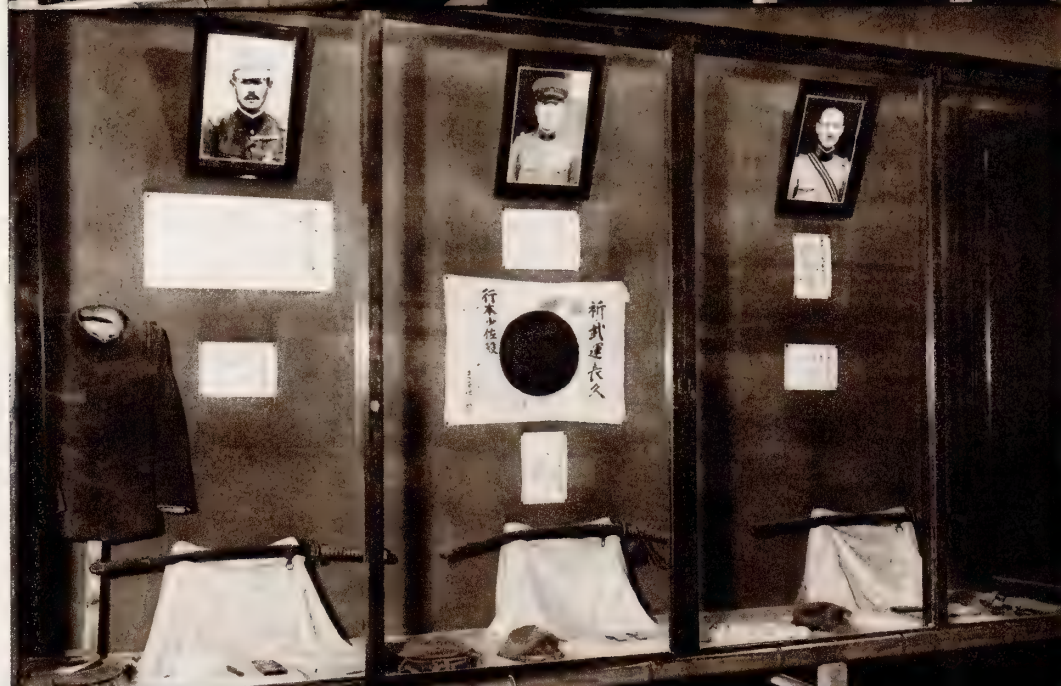
中島平三郎少佐（京都）、稱村文江航空兵大尉（山口）、安藤元一中佐（名古屋）、廣川伊之助少佐（富山）河合外夫少佐（富山）諸氏の遺品。

佐藤傳治郎少佐（金澤）、河嶋政一少佐（金澤）、疋田外茂海軍大尉（金澤）、川口茂彦海軍少佐（大阪）諸氏の遺品。

谷内利晴少佐（徳島）、掘金一一少佐（善通寺）、西内久美大尉（高知）中村寛工兵少佐（高知）、二ノ井寛雄中尉（大阪）諸氏の遺品。

大隈庄蔵少佐（鹿児島）、山内達雄海軍大尉（長崎）、木村致世少佐（熊本）諸氏の遺品。

久渡忠俊伍長（大阪）戦傷の諸品、百武俊吉中佐（佐賀）、山口巖中佐（廣島）、水野正一少尉（徳島）、権林孝次海軍大尉（徳島）諸氏の遺品

下坂正男中佐（高知）、澤本勝少佐（高知）、池田源信中佐（高知）、永田直航空兵少佐（長崎）諸氏の遺品

藤井進大尉（倉吉）、岩田貞德大尉（米子）、中島德夫中佐（松江）諸氏の遺品。

藤井德太郎少佐（山口）、行本勇中佐（山口）、川崎隆一少佐（山口）諸氏の遺品。

北支風雲急ヲ告グルノ秋
大命ヲ奉ジテ將ニ
征途ニ上ラントス
男子ノ本懐何ゾ
之ニ過キン
素ヨリ生還ヲ期
セズ
汝等姉弟相睦
ミテ克ク母ニ仕ヘ
父ニ代リテ祖父ニ
孝養ヲ致シ
大イニ自ラ心身ヲ
修練シテ
皇國有用ノ材タレ
父ノ靈永ヘニ汝等
ヲ護ラン

昭和十二年七月十二日
久

百合子殿
晴美殿

一、武人のあたるもの今日あるは夙くに覺悟せし事なれば夢慌てまじく候事
一、父上への孝養と兩兒の教育に全力を傾けて余念あるまじき事
一、兩兒の後見、織秋宏書類の處分等すべて重男兄上に依頼すべき事
一、部下將兵遺族への弔慰を決して忘るまじく候事

昭和十二年七月三十日
應急動員完結の日
久

みち子殿

戰死の報あらば神棚より兩兒に與ふる書を開いて懇諭あるべき事

柳川中將の書翰

杭州灣上陸軍の指揮官柳川平助中將が船中より令兄柿木志能夫氏に宛てたる陣中便り。

吉田光治少佐（大分）、鈴木鶯男少佐（大分）、濱口元吾少佐（佐賀）諸氏の遺品。

黄河の水

此の水は蒲州に於て黄河の水を採り在間喜給水班の手に依り淨水し更に曲沃に運び飛行機の便を以て御屆け致すものに候、甚だ僅少には候へ共御笑味の上山西南端黄河河畔に於ける將兵感激の狀を御想像被下候はゞ光榮之に不過候、容器は充分消毒致し置候

昭和十三年三月十日
川岸部隊長

○○部隊長閣下

（上段）二つの日章旗は上海戰線に活躍するわが部隊勇士の決意と署名をせるもの。
（中段右より）奈良縣高田小學校片上圭子さんへ出征勇士より返送して來た日章旗、柳川中將の書翰横田一等兵より大阪在鄕軍人四貫島分會へ送つて來た駐屯地の有力者が書いた書、永野修身大將書。
（下段）上海海軍陸戰隊の勇士が使用せる步兵銃、鐵兜等にて敵彈のため破損しその奮闘を物語つてゐる。

（上段右より）栗野二三三等航空兵曹署名日章旗、樫村寛一三等航空兵曹の寫眞と片翼歸還に成功せる飛行機の寫眞、大串均一等航空兵曹署名の日章旗。
（中段）田島榮次郎少將の書翰、石黑貞藏部隊長の陣中スケッチ、岡本鎭部隊長の手紙、大串兵曹の手紙。
（下段）西浦楢信伍長（奈良）の千人針と部隊長書信、安岡茂雄中尉（高知）、古谷輝實准尉（高知）兩氏の鐵兜、戰傷死者の傷口より摘出したる砲、銃彈の破片。

（上段右より）大川内海軍陸戰隊司令官署名日章旗、松井最高指揮官署名日章旗、長谷川第三艦隊司令官署名の日章旗。
（中段）上海派遣軍司令官松井石根大將より和知部隊に對する感狀松井大將より台灣軍の戰死者の靈前に供へた色紙、日露戰役に乃木大將より步兵第四十四聯隊に對する感狀。

須藤少佐の遺書

事變勃發直後出征するに當り須藤久少佐が夫人及び愛兒に宛てた遺書、盡忠報國生還を期せざる武人の確固たる決意が窺はれて誰か感泣せないものがあらうか。

南京政府華やかなりし日の
蔣介石の私室

南京軍官 後もそのまゝわが皇軍に保管されてゐます 日夜皇軍の空襲におびへたその警報器と引切りなしに軍の傳令と聯絡に使用された卓上電話又書册の書籍の一部等は今茲に出陳されて當時の思出を語つてゐます。

蔣介石の私室と所持品
南京軍官學校内に在る蔣の私邸の居室模型である。前方に陳列されてゐる警報器、電話機、防毒マスク、書籍等は蔣介石が使用したものである。

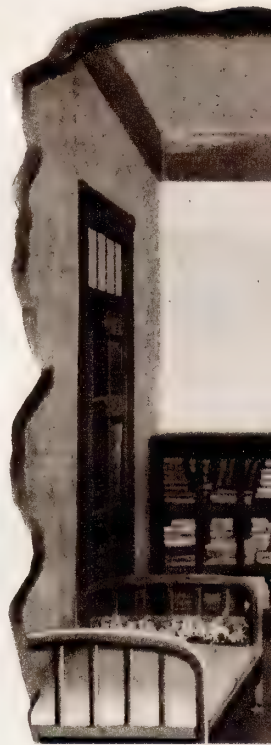
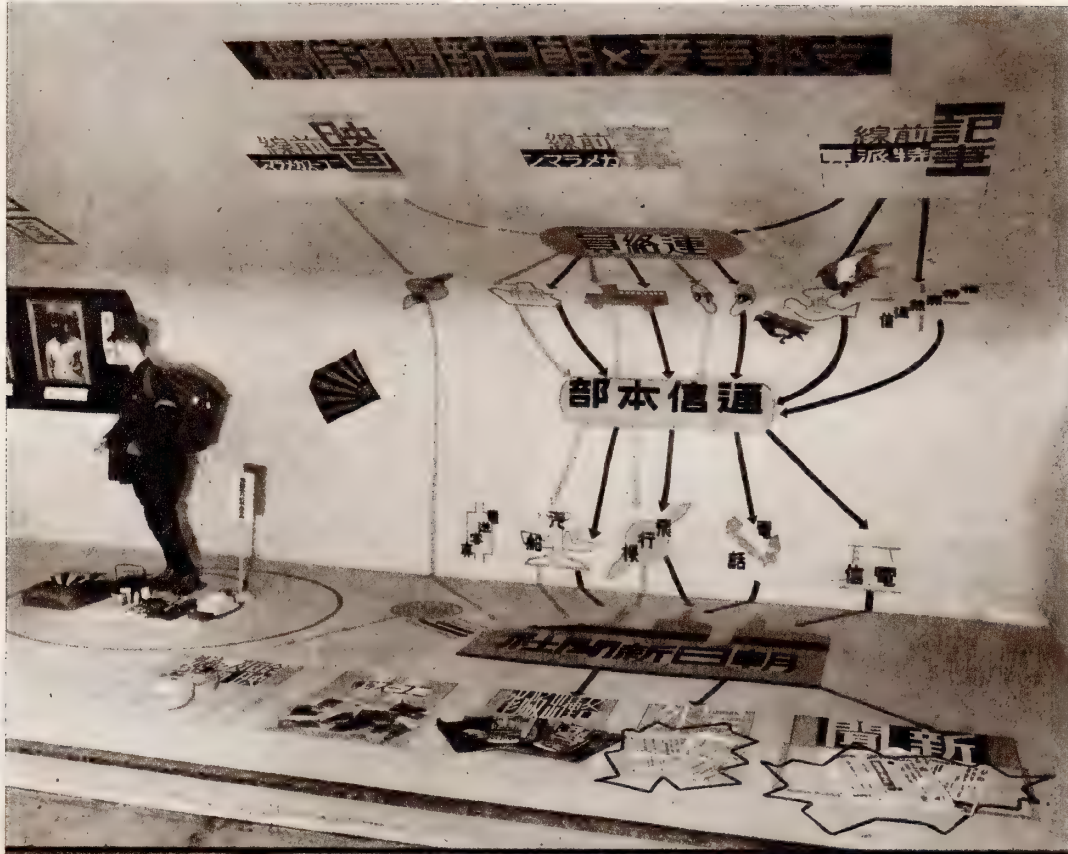
蔣介石の胸像
この胸像は南京下關の稅關にあつたもので、昭和十二年十二月〇日わが軍艦龍田の陸戰隊が獅子山砲台より浴びせる敵の彈雨を冒して決死的敵前上陸を敢行して下關一帶を占領した際押收したもので、額面に命中してゐるわが機關銃の貫通彈痕は激戰を物語つてゐる。

蔣介石の私室
南京軍官學校内の蔣介石の私邸は南京占領後もわが皇軍に保管されてゐます。これはその私室の模型で、日夜抗日の作戰を謀らしてをつたところであります。

蔣使用の電話機

南京の軍官學校内の蔣の私室にあつた電話機と防毒面。

支那事變と朝日新聞

事變勃發以來本社の記事・寫眞・映畫等は迅速に報道され銃後國民に深い感銘を與へてゐますが、これらのニュースや寫眞は如何なる方法により逸早く讀者に報道されるか、その苦心と努力を圖解をもつて示したもの。

殉職社員

事變勃發以來本社は記者、寫眞班通信士、航空員、聯絡員等常に百數十名を戰線に派遣し報道に萬全を期してをります。わが社は十三年三月までに岡部孫四郎、前田恒、猪野嘉夫、石田憲三、見須愼一、内野一三の六氏を報道戰線に失ひましたが、これはわが特派員が常に最前線に進出してわが皇軍將士と行動を共にし、その迅速正確なる報道を銃後に送らんと決死の覺悟でゐることを物語るものであります。寫眞は殉職の六社員、下は事變に當っての本社の事業を示す

北支攻略戰鬪態形圖

北支攻略戰闘態形圖

昭和十二年七月七日事變勃發後十三年三月十日までの北支におけるわが皇軍の攻略進擊狀況を示す點滅照明式圖表。

中支攻略戰鬪態形圖

中支攻略戰闘態形圖

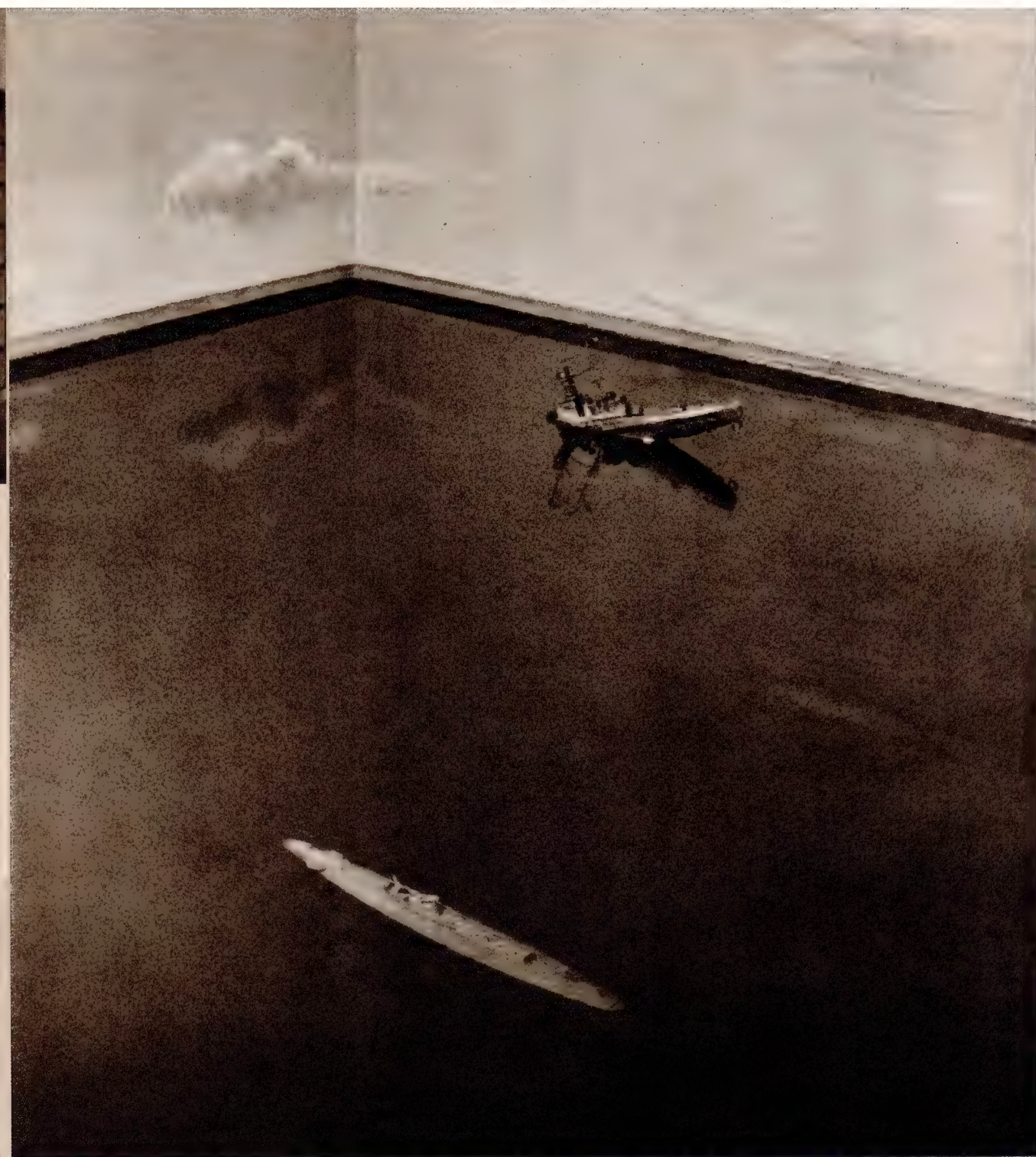
中支に戰線が擴大してより十三年一月下旬に至るわが皇軍の進擊につぐ進擊の狀態を示す點滅照明式圖表。

中支鉄道破壊修理圖

中支鐵道破壞修理圖

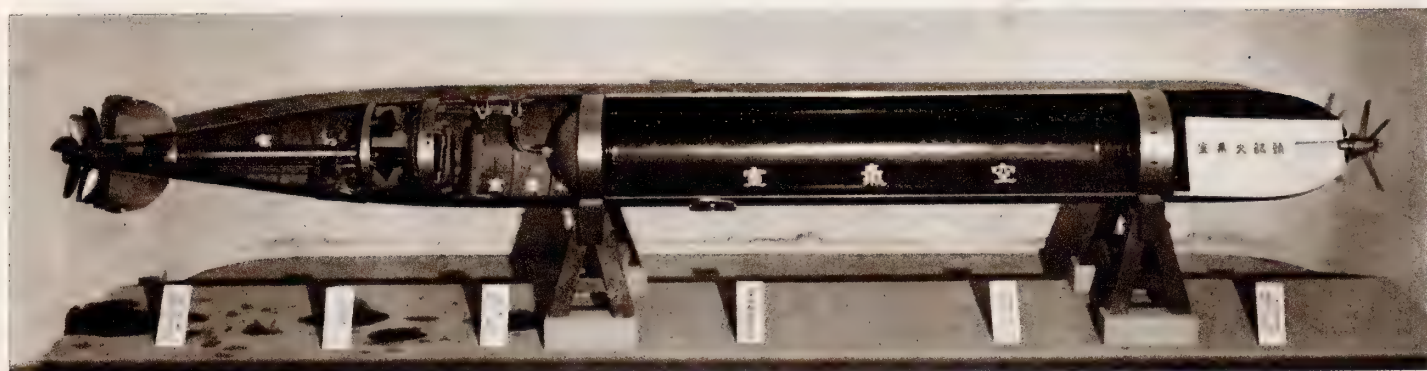
支那軍が退却に際して破壞せる京滬鐵道、滬杭兩鐵道の鐵路、鐵橋等を皇軍鐵道部隊、工兵部隊が修理してわが進軍を容易ならしめる苦心と努力の實況を圖示す。

潜水艦襲撃模型

潜水艦の進行、潜水より魚雷發射敵艦撃沈までを示す精巧なる模型

魚型水雷斷面模型

四十五糎魚型水雷を切斷しその構造を示す。

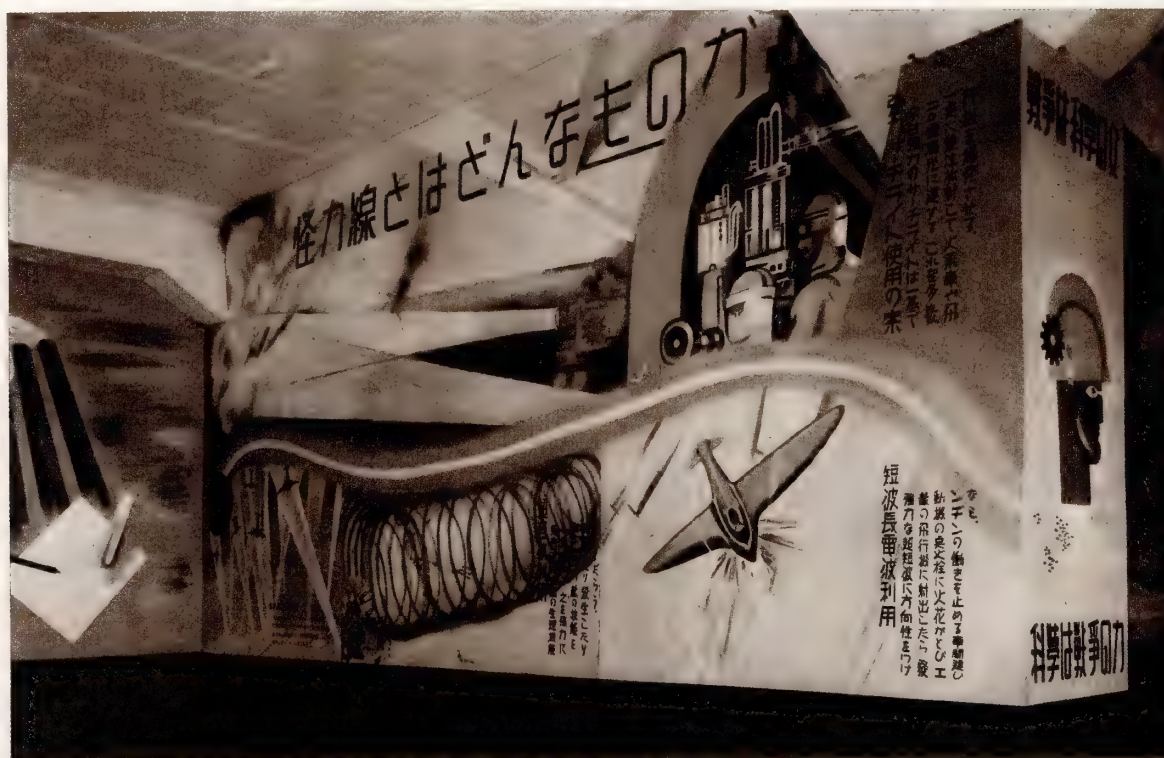
軍艦金剛模型。

潜水艦無線操縦模型。

「神風機」室

昭和十二年四月東京―ロンドン間一萬五千キロを九十四時間餘をもつて翔破世界記錄を樹立せる神風號の偉業を物語る資料室。そのコース圖示と飯沼飛行士、塚越機關士が各國にて贈呈された勲章、メダル、記念品。

本館三階大パノラマ前の觀衆。

未來戰室

人智の發達と科學の進歩は將來の戰爭に如何なる變化を與へるか、これはその想像圖の一部である。地下に設けられた司令部と堅固なる大トーチカ、裝甲飛行機、タンク等のみで防彈具なき個々の兵隊の姿は見當らない。總て機械化された兵器のみにての戰爭である。

怪力線

未來戰に活躍するであらう怪力線の想像圖。

成層圏飛行

天候に妨げられず速力が出る成層圏飛行は目下各國にて研究されてゐる。

各種軍艦模型

戰艦、巡洋艦、驅逐艦、潜水艦の精巧なる模型。

長距離砲

歐洲大戰にドイツがパリ砲撃に使用した長距離砲は既に舊聞に屬する。その後各國研究の結果はどうなつてゐるか。

八達嶺の攻撃

覧大パノラマ

太原占領

蘆溝橋畔の激戰

支那事變戰況

踏切附近の進撃

閘北の激戰

大場鎮の肉彈戰

夜の上海

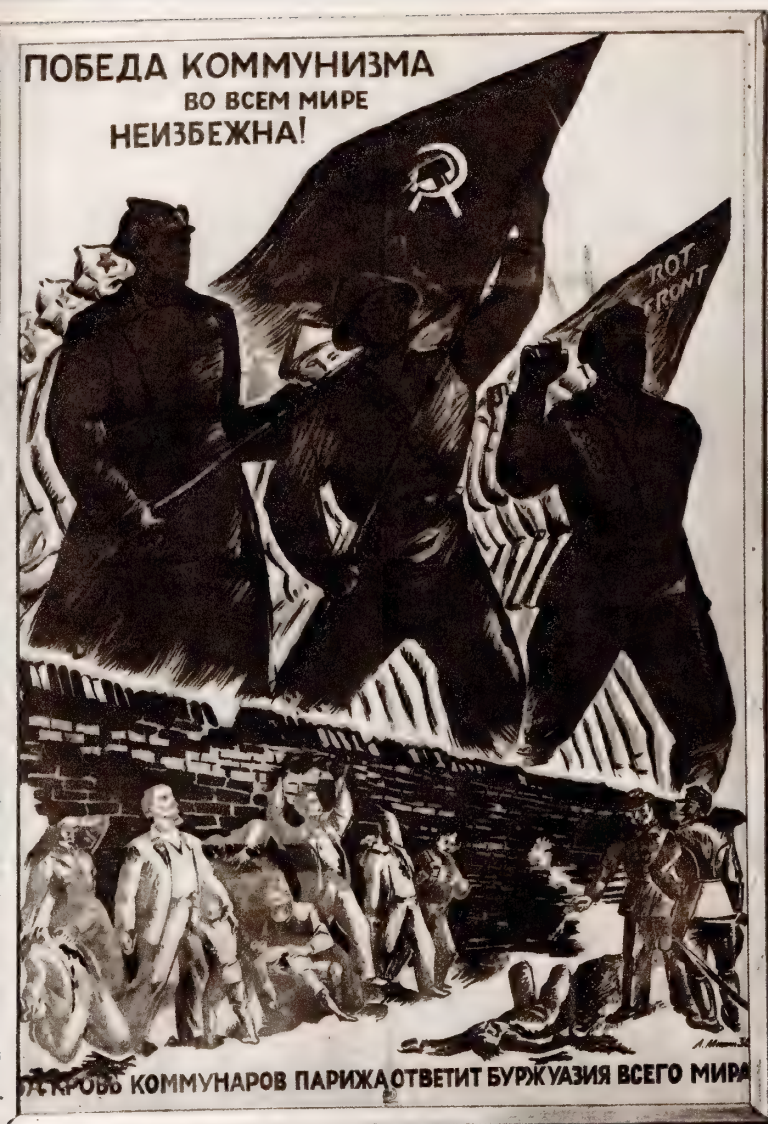
上海競馬場附近
(上海市政府を望む)

南京入城

世界戰史に燦として輝く皇軍南京入城の歷史的場面のパノラマ。

南京へ！ 南京へ！

兩指揮官の會見

徐州陷落と共に飛行機にて飛來せる寺内北支軍最高指揮官と畑中支軍最高指揮官の歴史的會見のパノラマ。

歐洲大戰當時の各國のポスター

本邦對外貿易順位による相手國狀況

代用資源室の一部

本館四階思想戰、宣傳戰資料室附近の觀衆。

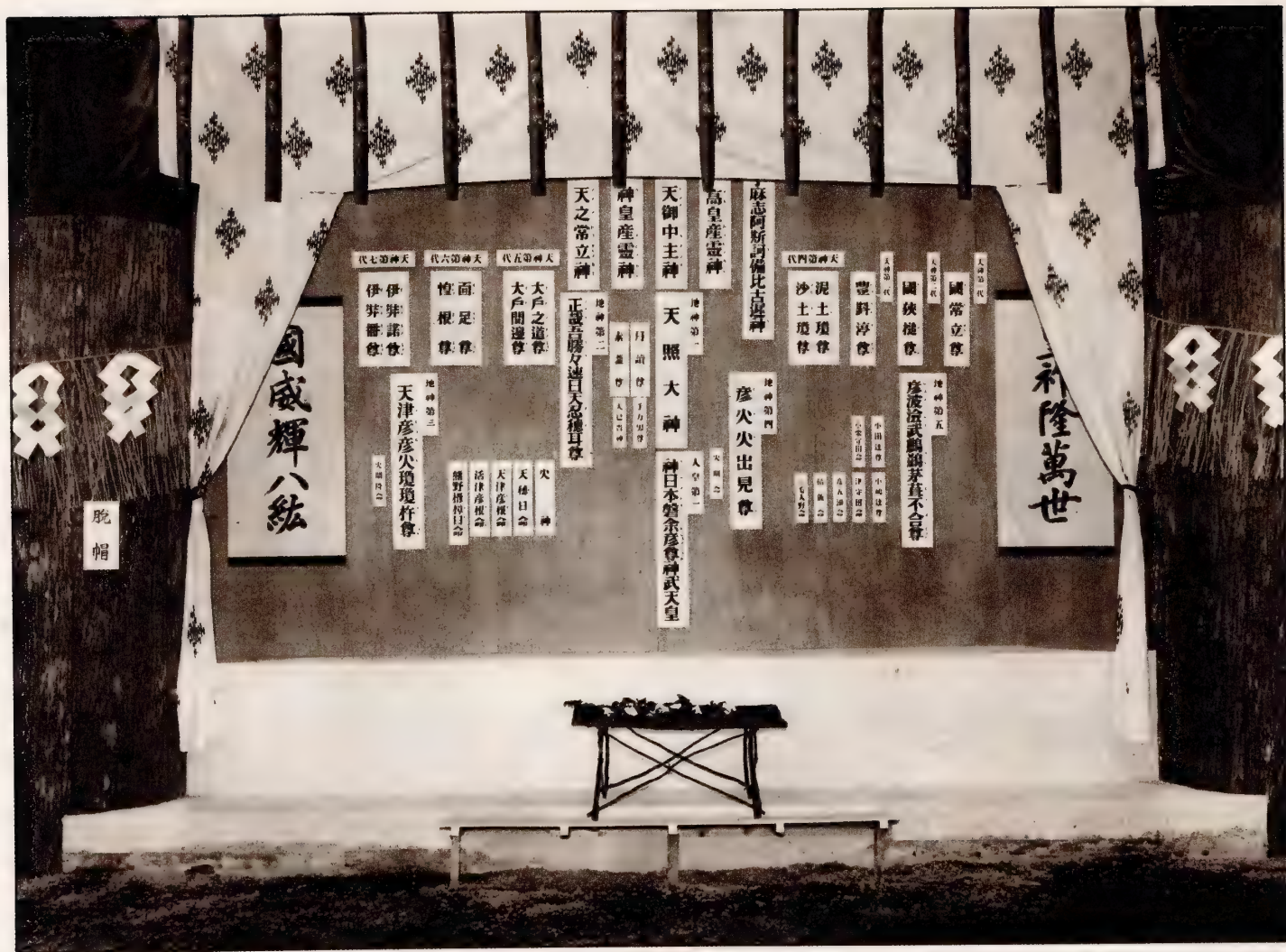
長期戰に備へる銃後の 覺悟を促すポスター

北支、中支の新支那政権を謳歌する各種ポスター。

國際關係資料室の一部。

列國の國際關係を語る漫畫（上より）スペイン戰線の展望、獨墺の合邦、英蘇支那援助。

列國の軍備

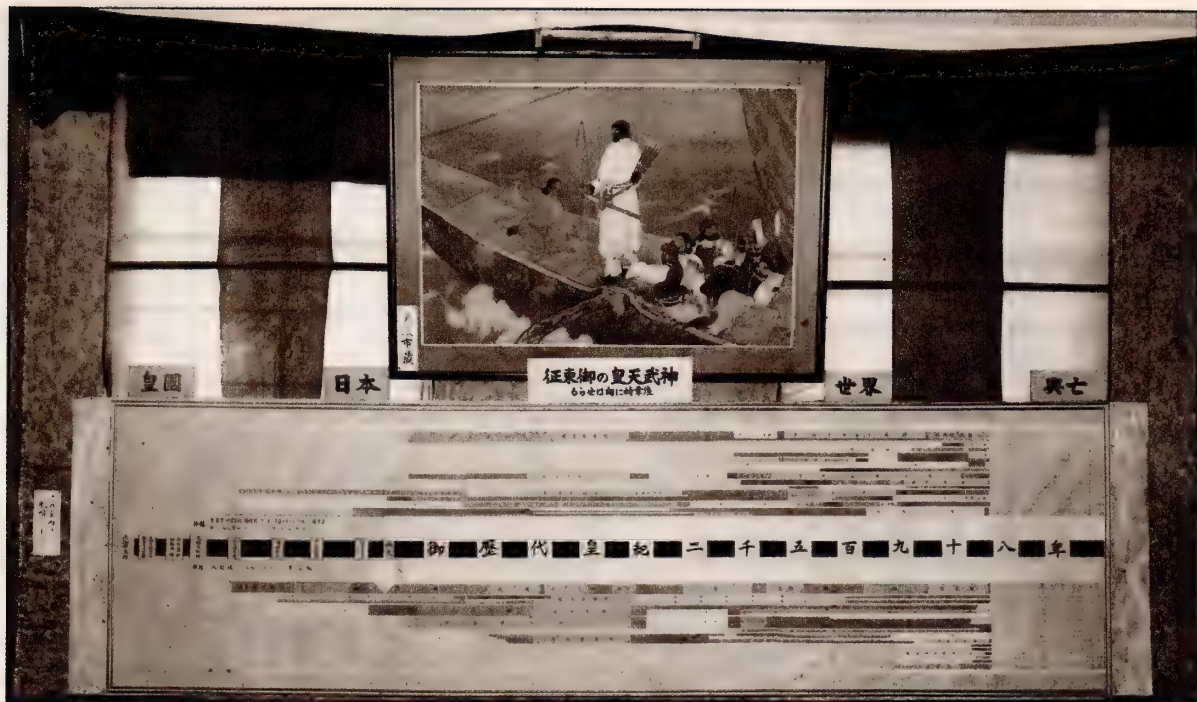
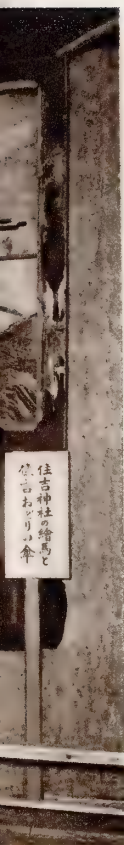
（上より）列國の陸軍軍備一覽、列國海軍の現勢、列國空軍、機械化兵器の現狀。

我國皇祖皇宗の御系圖

推古時代の對支自主的外交
小野妹子隋使を伴ひて歸る

日本精神宣揚室

神武天皇御東征圖と日本を中心とした年表。

久米舞人形

住吉神社の繪馬と住吉おどりの傘

聖徳太子御畫像と十七條憲法。

日本古代の武具

日本刀鍛錬の器具・古代の風俗等

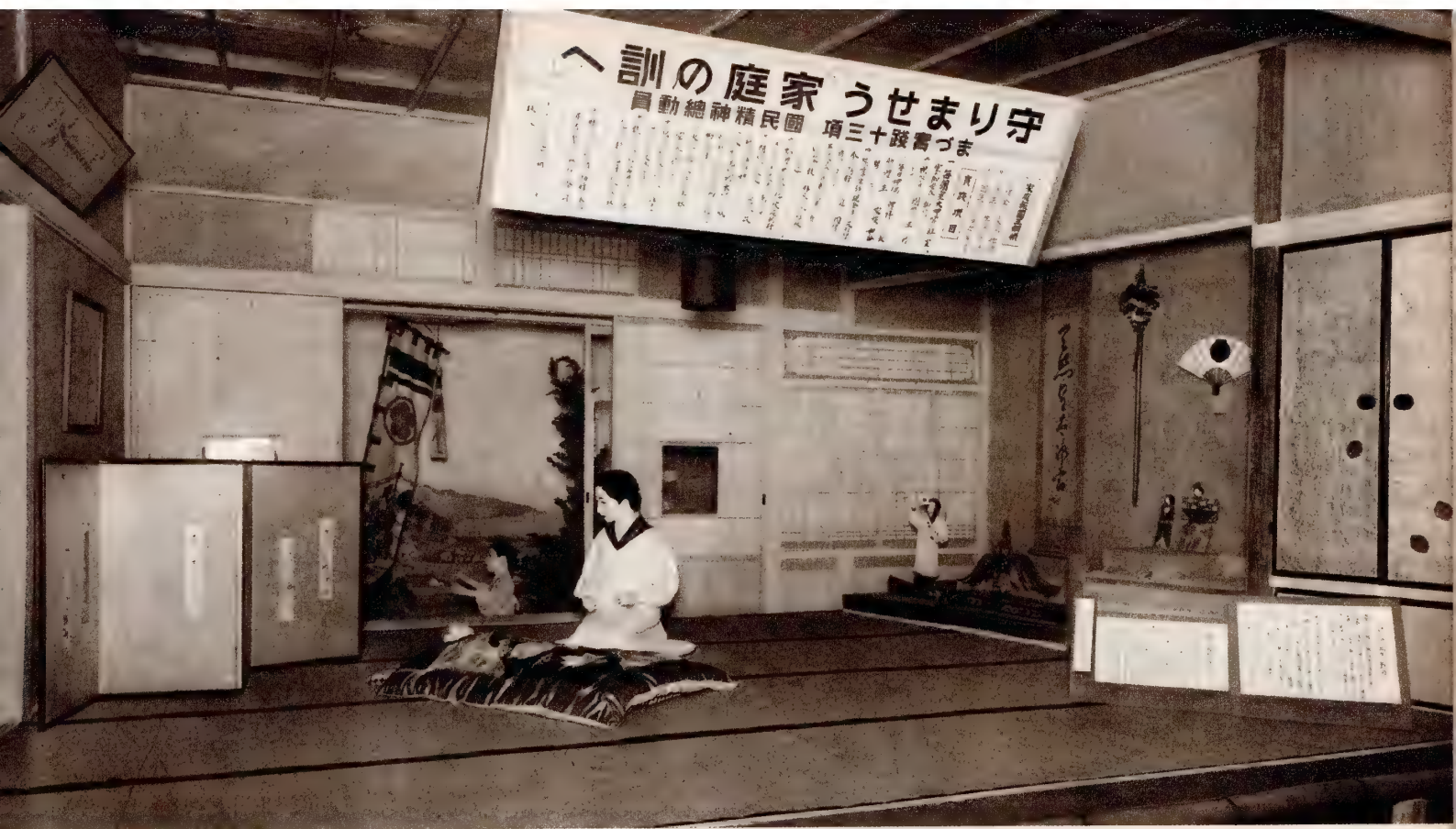
住吉神社の絵馬と住吉をどりの傘

明治時代に渙發されたる御誓文、勅語、詔書。

武將の畫像と神社寫眞。

皇威發揚に盡したる武將の畫像と神社寫眞。

勤王家、國學者の畫像とその著書

日本に來朝してその文化に貢獻せる外國人。

實践十三項

家庭報國の一部

食品廢棄物の利用

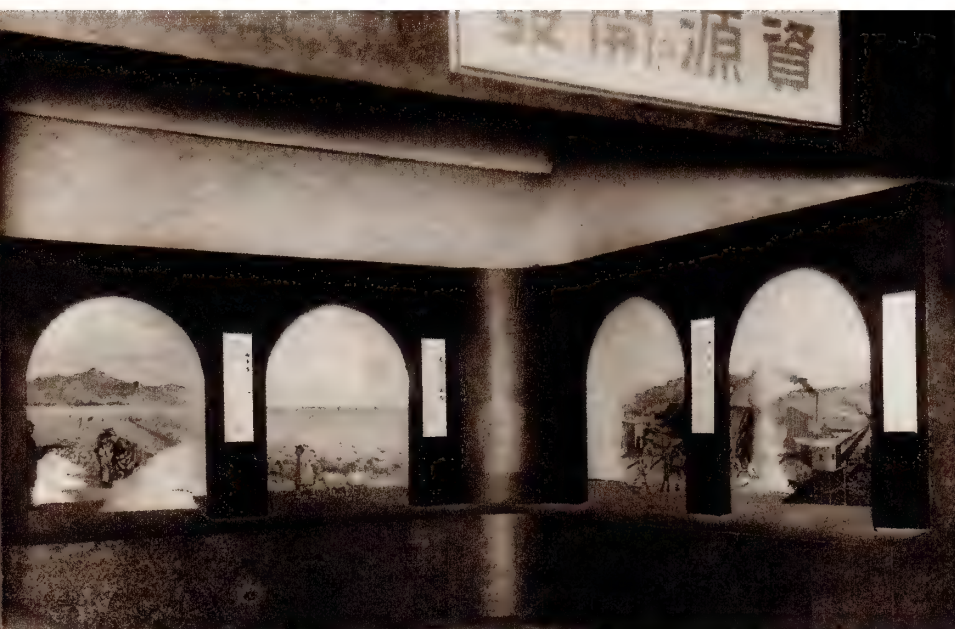
日本精神を造る能樂「小鍛冶」の場面。

文樂人形「國性爺合戰」

本館五階陳列室の一部

北支資源地理模型と大同炭の大塊

蒙古の包

蒙古人の住む包、主として毛布と木骨にて造られ、中央奥に佛壇を安置し、その左右に毛布と絨氈等を敷きたる上に座す。

北支那資源の開發パノラマ

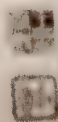
支那風俗ガラス繪と支那玩具

支那の芝居に使用する衣裳。

現代花嫁輿並
附属行列用旗

支那演劇に使用する衣裳。

西太后の使用した人力車。

現代花嫁輿と附屬行列用旗等。

北支那臨時政府王克敏氏の書

北支那臨時政府 江朝宗氏の書

日支學童作品展

西日本の學童より童心に映れる事變の圖畫を募集しその入選作品と北支那の學童の圖畫、書方、綴方手工等の陳列室。

從軍畫家作品展覽室。

支那の看板各種模型

九二式戰鬪機。

九一式戰鬪機。

九五式三型練習機。

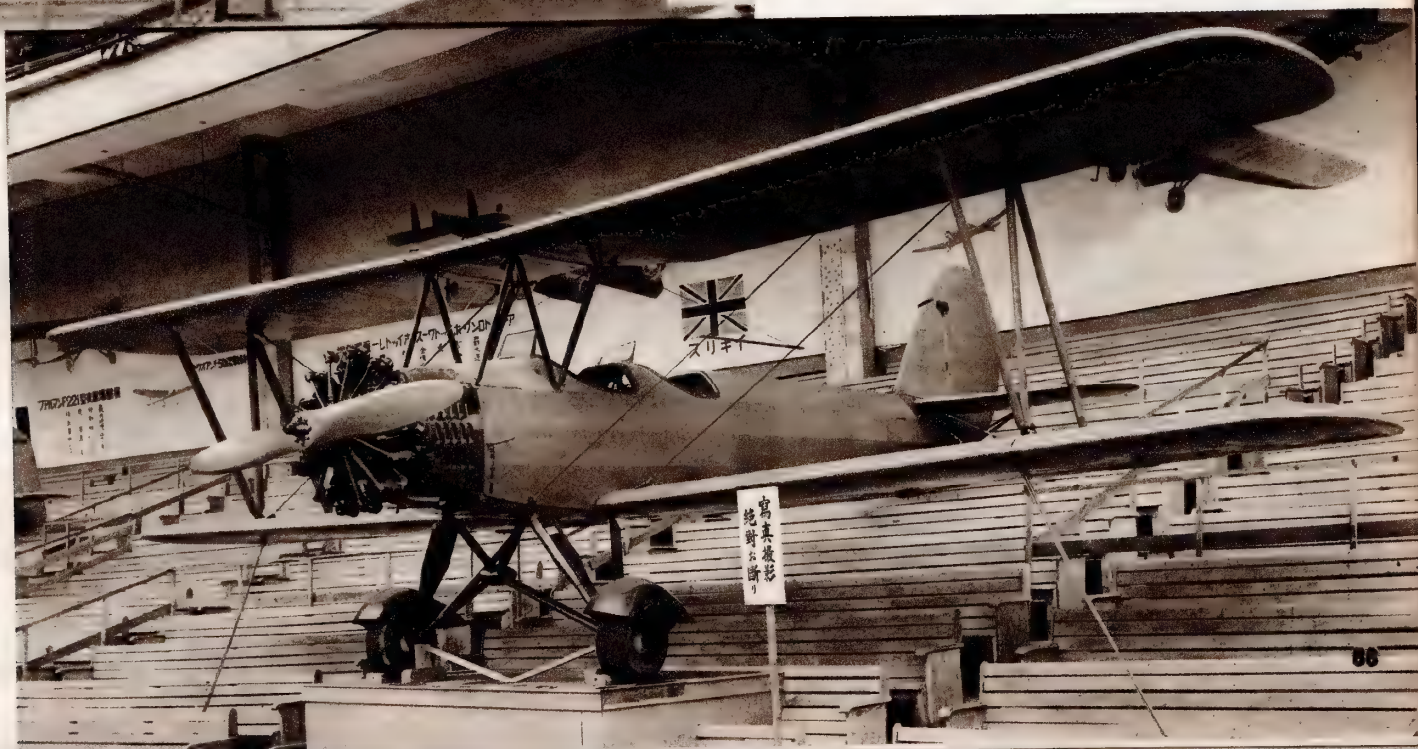
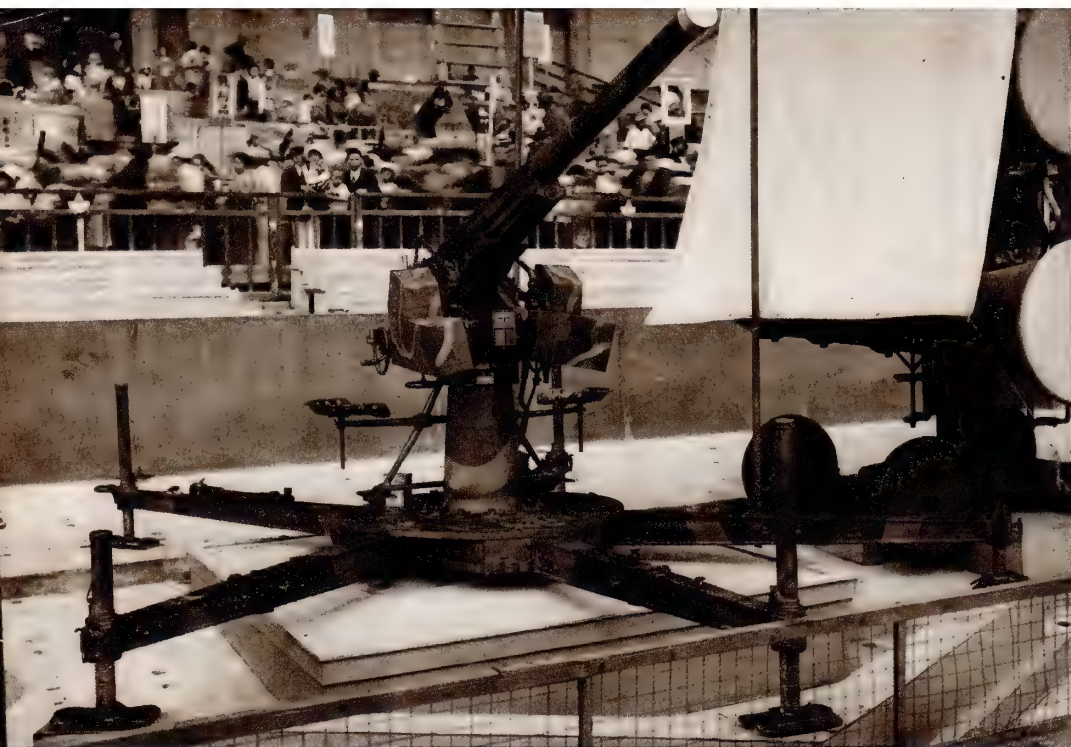
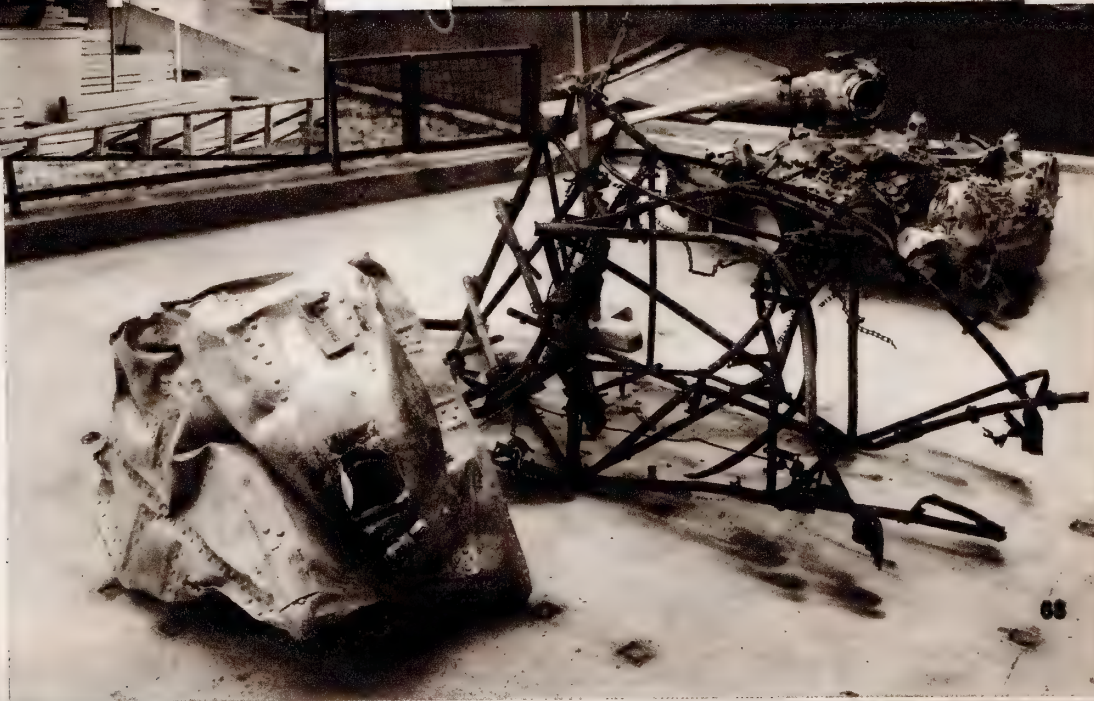
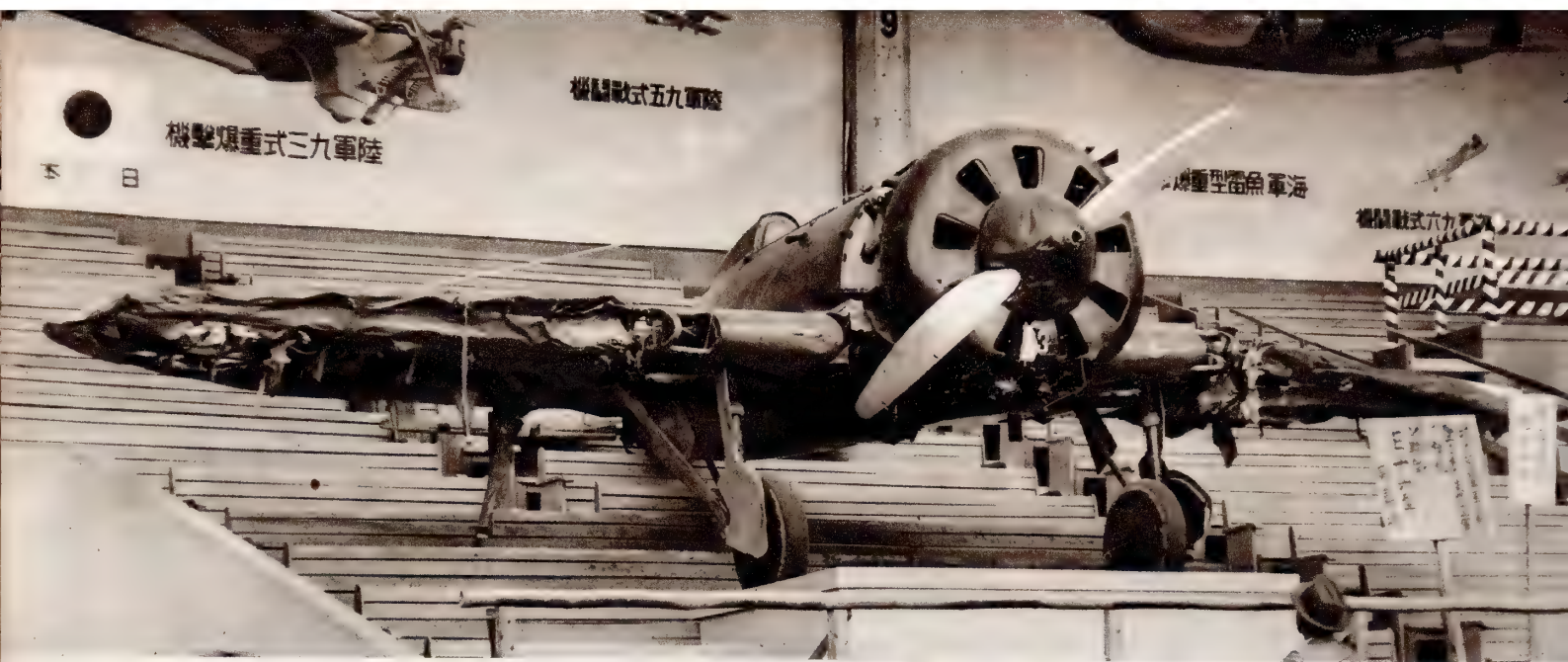
高射砲。

聴音機。

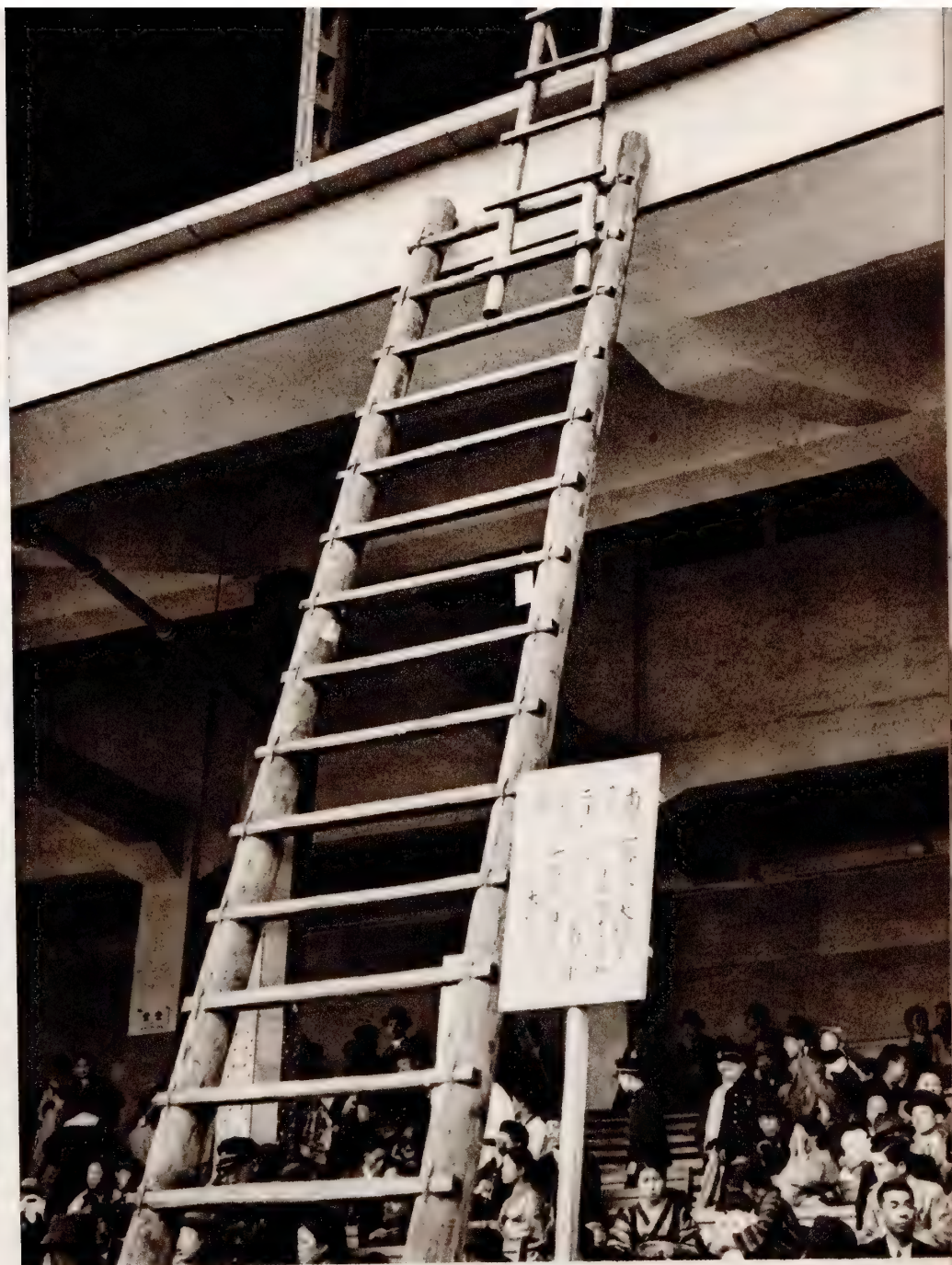
八八式偵察機。

支那軍使用のＥ十六型戦闘機。

本館スタンドの陳列鹵兵器と大観衆。

支那軍使用のサボイヤ水陸両用偵察機。

わが荒鷲に撃墜された敵機の一部と發動機とプロペラ。

軍艦出雲の艦橋模型。

南京一番乘の大梯子

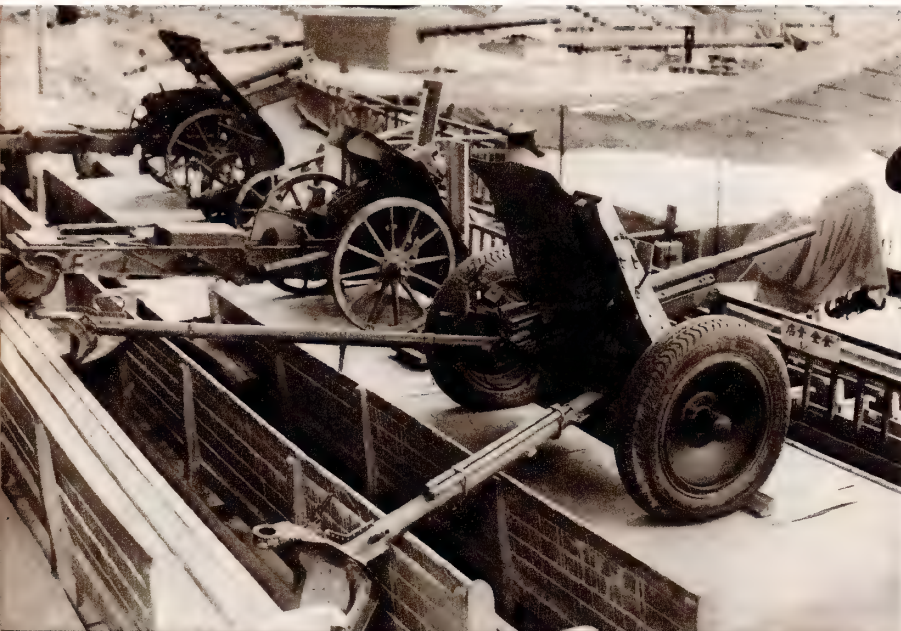
これは昭和十二年十二月十二日わが谷部隊が南京中華門に一番乘の日章旗を掲げた時の大梯子です。

支那軍の色々形の變つた地雷。

鹵獲戰利品

右より、平射歩兵砲、歩兵砲（二輛）

（右から、迫擊砲彈藥車、高射機關砲、空冷式重機關銃

我海軍の高角砲。

歩兵砲

（右より）空冷式重機銃（二梃）、擲彈筒、曲射歩兵砲、

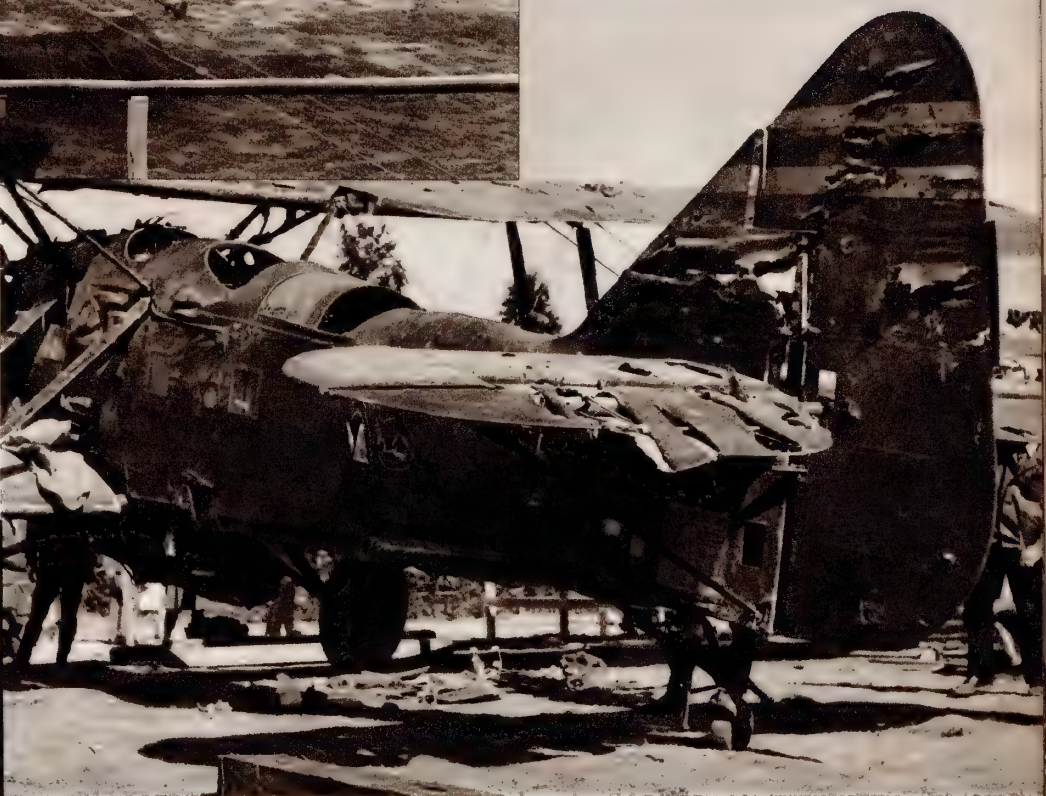
↑ 南京市政府門模型

↖ 南京市政府門の大模型とそこに掲げてあつた明遠樓及び市政府と書いた看板の實物額。

外園の鳥瞰寫眞

五月一日本社機上より撮影した外園全景（中部防衛司令部許可濟）

阪急西宮北口驛前に建てられた皇軍萬歳塔。

九〇式艦上戦闘機。

敵弾を受けた八九式艦上攻撃機。

九〇式二型水上偵察機

艦上爆撃機

本社機と見學の女學生。

靖國神社遙拜所

靖國神社遙拜所へ參拜する國防婦人會員

日支軍用トラック

上海戰線にて日支兩軍が使用せるトラツクにて兩方とも彈痕ものすごく激戰を物語つてゐる。

蒙古の天幕

屋根形、紋章入りの美麗なる蒙古の天幕。

防共道路

草花をもつて日獨伊の國旗を表はす。

大理石の狛犬

天津市政府玄關前に在つた大理石造りの狛犬、美麗なる色彩をほどこしてある。

日軍百萬上陸杭州北岸のアドバルーンと正陽橋、南京市政府門の大模型を遠望す。

南京附近のトーチカ模型
實に巧みにカムフラージユされた堅固なトーチカの一種。

上海市街戰を彷彿せしめる大模型

飛行塔とパラシュート降下練習台

上海戰線の激戰を物語る看板。

南京にある防空壕の大模型。

南京に在つた救國公債賣出しの大看板（外國野戰陣地に出陳）

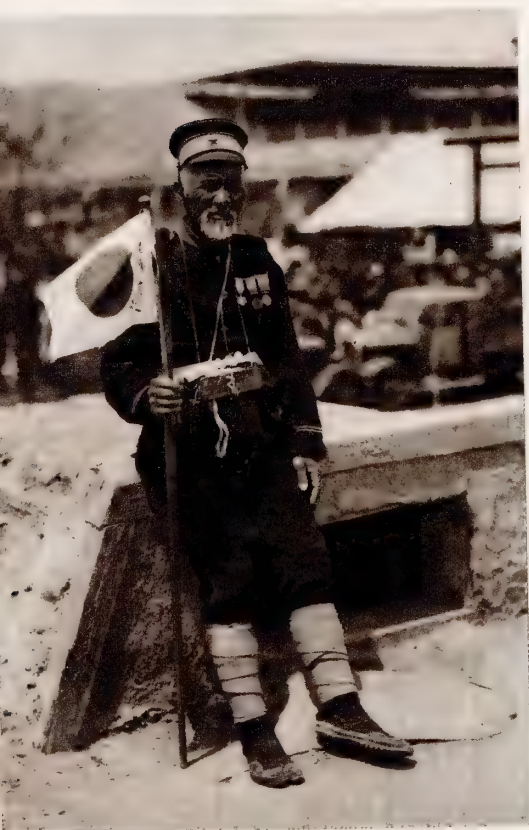
戰線に在る本社野戰支局の大模型とその内部、報道戰線に活躍する特派員の苦闘が偲ばれる。

聖戰博の會期中五月十九日遂に徐州が陥落した。見學の小學生は喜びの萬歳を絶叫する。

噴水塔附近よりニュ[illegible]會を見る

分捕りタンク

上海戰線にて鹵獲した敵タンク虎號、イギリスヴイツカース製。

イタリー巡洋艦モンテクツコリー號乗組員の見物。

半島の同胞も見物。

おぢいさんとお孫さんの見物。

子供豆戰車遊戯場と飛行塔。

會場正面入口の大觀衆。

日清、日露戰役の勇士、野戰陣地
にて感慨に耽る。

朗かなる一日、初夏の碧空に支那名物龍凧が揚がる。

外國より六甲山方面を望む。

應召の勇士出征に先ち聖戰博を參觀、入場者より萬歲の祝福を受く

外園子供體育場。

外園に飼育されてゐる緬羊。

野戦陣地大模型

上海軍工路の實測大模型

閘北の支那軍陣地を模した土嚢陣地を視察する步兵第八聯隊の將校

上海軍工路のトーチカ模型内部を通り抜ける婦人達。

野戦陣地にある防空監視所の大模型。

トーチカ及び地下要塞の大模型。

イタリー使節團歡迎のデコレーション。

靖國神社遙拜所奉納相撲
武藏山（右）と双葉山（左）兩横綱の三段構へ。

野外劇場におけるイタリー使節團の歡迎會（四月十日）團長パウリツチ侯の挨拶。

靖國神社遙拜所奉納
古武道大會
香取神刀流（長刀術）、二天一流（劍術型）、日置流弓術。

陸軍戸山學校軍樂隊の大演奏（野外劇場）

呉海軍軍樂隊の大演奏（野外劇場）

映畫演劇場における餘興漫才。

前進座の殺陣實演の會。

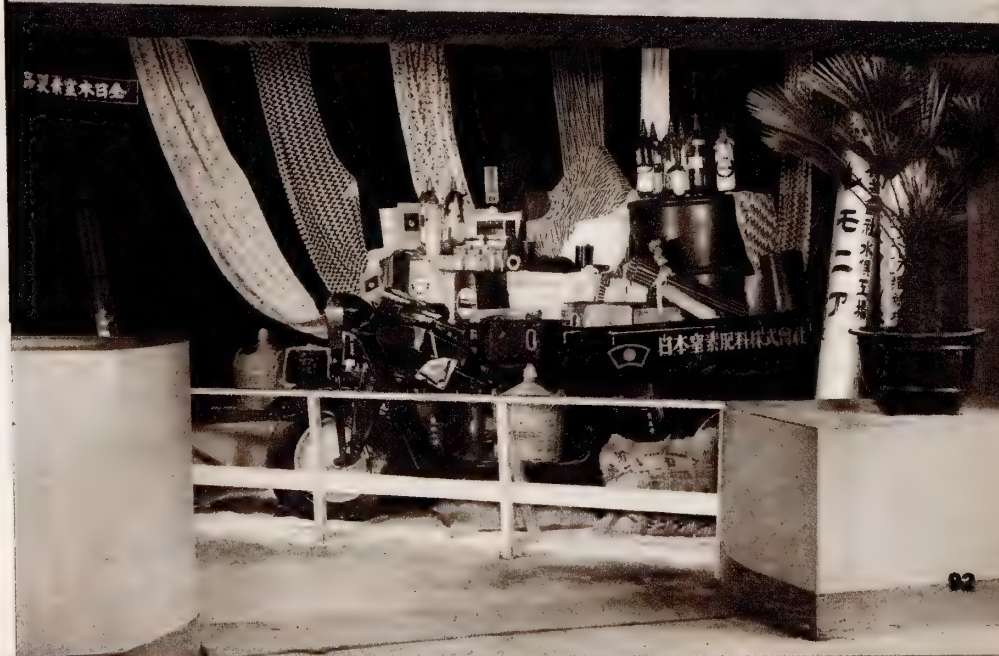
野外演練場における高射砲隊の射擊大訓練。

尙武祭、鎧着初式。

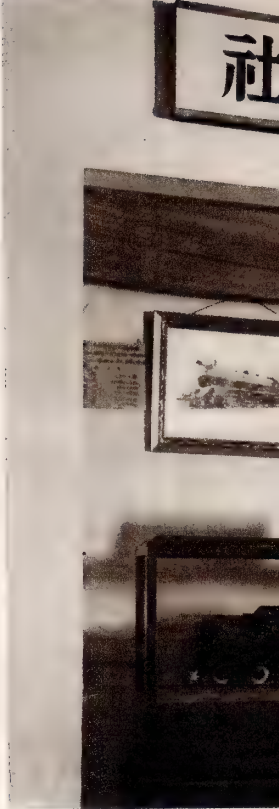
帝國人造絹糸株式會社

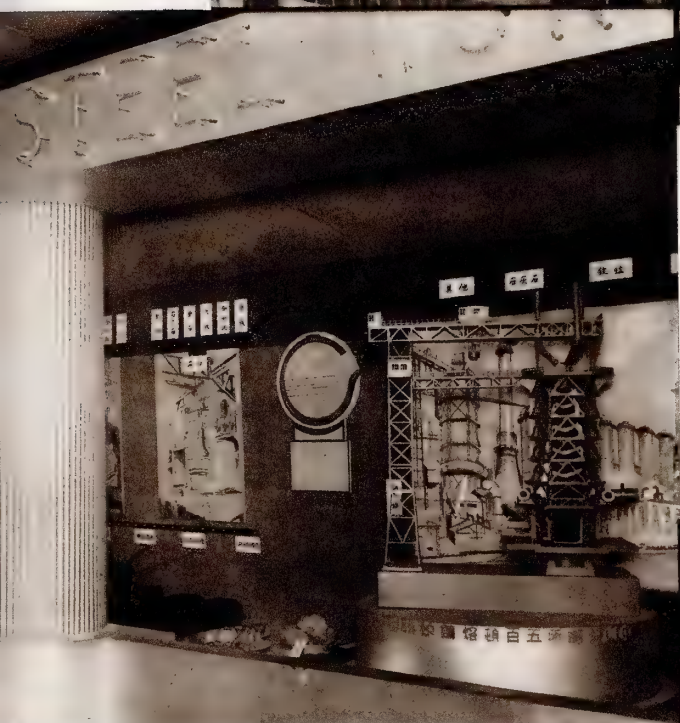
戰時重要産業

汽車製造株式會社

日本窒素肥料株式會社

鐘淵紡績株式會社

大日本紡績株式會社

日本電氣株式會社

東洋紡績株式會社

日産自動車株式會社

東洋ベアリング製造株式會社

住友金屬工業株式會社

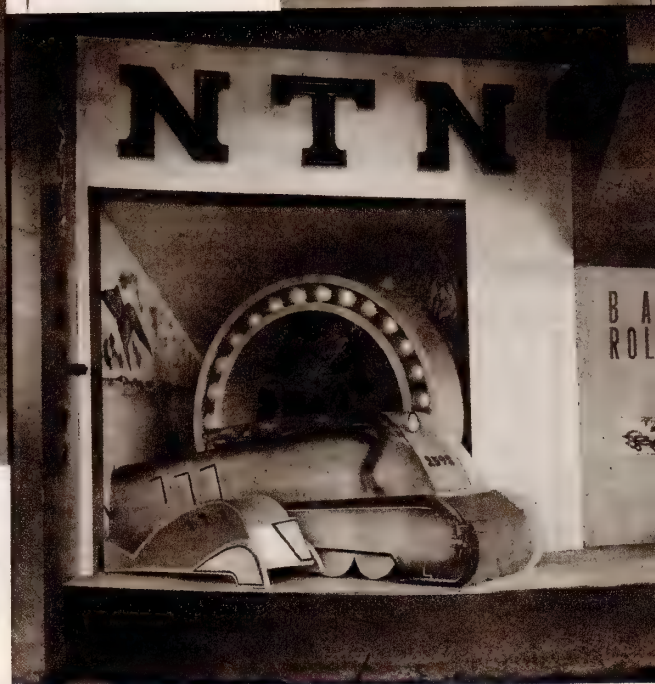
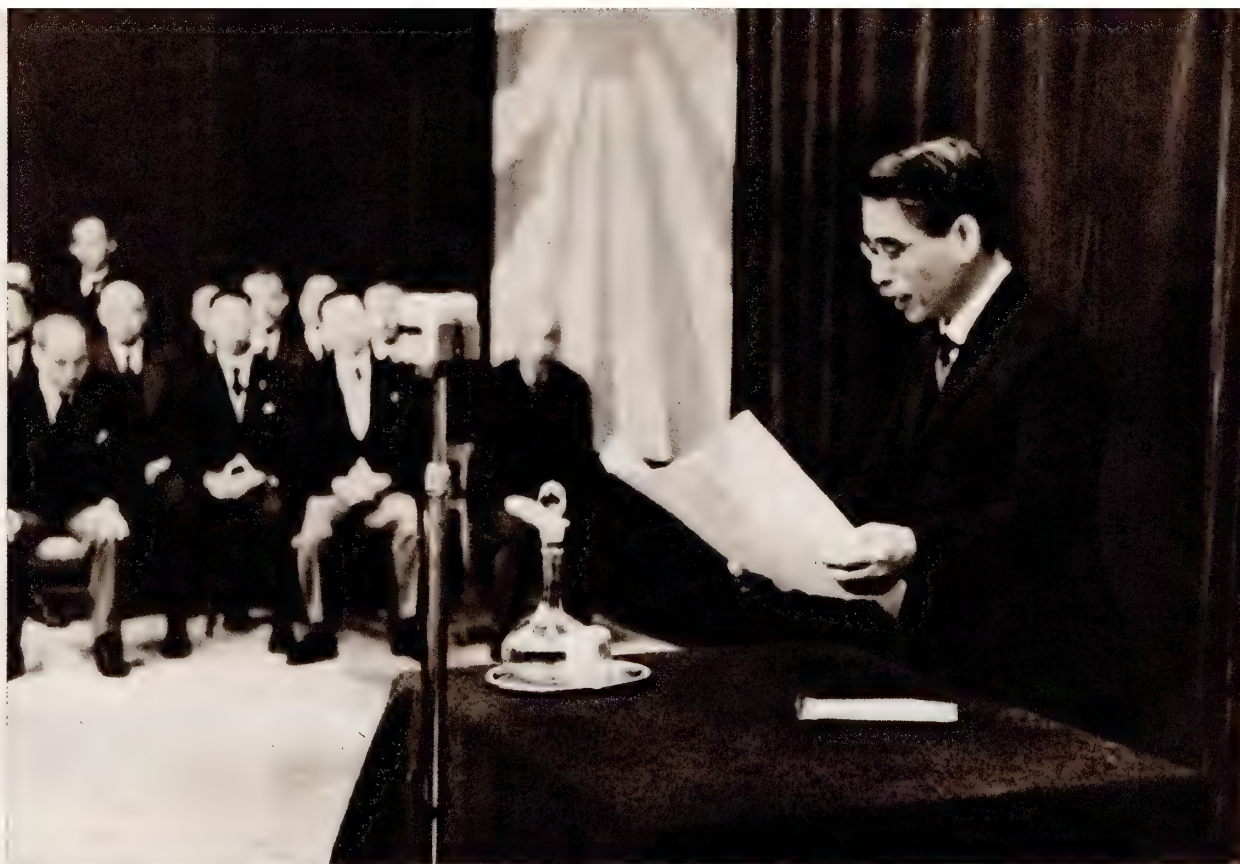
松下電器産業株式會社

株式會社中山製鋼所

ブリッヂストンタイヤ株式會社

聖戰博閉會式

佐藤阪急電鐵社長の挨拶。

村山本社會長の發聲による萬歲の三唱。

後援　陸軍省・海軍省
主催　大阪朝日新聞社

支那事變

聖戰博覽會出品目錄

會期・昭和十三年自四月一日至六月十四日（七十五日間）
會場・阪急電鐵西宮球場及外園（三萬五千坪）

輝く武勳品

故川口茂彦海軍少佐遺品

大阪 川口德松氏藏

一、夏用軍服（上下） 一着
一、冬用軍服（上下） 一着
一、飛行服 一着
一、軍帽 一個
一、長靴 一足
一、短劍及劍帶 一揃
一、軍刀（備前兼光作） 一口
一、竹刀及木刀 二點
一、寫眞其他貼まぜ 二枚
一、履歷書及筆蹟手紙寫 一枚

少佐は大阪北野中學四年生より海軍兵學校に進み、昭和七年四月少尉に任官、八年中尉に進級、十一年十一月〇〇航空隊分隊長となる。上海事變には功により勳六等單光旭日章を賜つた。昭和十二年九月十九日南京空爆に參加奮戰中遂に名譽の戰死を遂ぐ。嚴父川口德松氏は大阪金蘭會高等女學校長の職にあり。

故淺井良次伍長遺品

大阪 淺井文三郎氏藏

一、決死のハンカチーフ（額入） 一點
一、淺井伍長寫眞（額入） 一點
一、時計、錢入、鎖（額入）お守袋、ナイフ 一點

二十六勇士決死誓ひのハンカチは戰死者故淺井伍長外二十五勇士が應召し天王寺第五小學校に在宿の節各勇士が互に決死を誓ひ、七生報國の誠を顯はしたる絕筆にして故人の知己大阪市西成區梅南通一丁目一三ノ二岡本富美子さんに贈りたるもの。

故下田庄太郎上等兵遺品

大阪 下田龜之助氏藏

一、寫眞（額入） 一點
一、陣中便り（はがき） 二枚
一、同（手紙） 二通
一、戰友の手紙 二點
一、入江上等兵スケッチ（額入） 三點
一、寫眞帳 一冊
一、奉公袋 一點
一、マッチ 一個
一、財布 一個
一、手帳 一冊
一、シース 一個
一、赤襷 一本
一、遺骨風呂敷 一枚

上等兵は守口部隊として出征北支京漢線方面にて奮鬪す。昭和十二年十月九日保定―正定間の西方故部に於て遂に名譽の戰死を遂ぐ。右の戰線スケッチは戰友入江上等兵が描き下田上等兵の靈前に供へられたもの。

故富久達雄中尉遺品

大阪 富久竹郎氏藏

一、軍服（上下） 一着
一、夏外套 一着
一、雙眼鏡（ケース入） 一個
一、軍刀 一口
一、圖囊 一個
一、ノートブック 一冊
一、シース 一個
一、日章旗 一枚
一、少尉時代の寫眞 一枚
一、寫眞（小） 二枚

中尉は大阪市住吉區松田町出身、陸士卒業後間もなく今事變に助川部隊として出征、中支戰線に奮戰中昭和十二年十二月八日句容縣上鮑亭に於て遂に迫擊砲弾命中し名譽の戰死を遂ぐ（年二十一歲）。

故二ノ井重雄中尉遺品

大阪 二ノ井所七氏藏

一、軍刀 一口
一、雙眼鏡（サック入） 一個
一、水筒 一個
一、山室師團長の賞狀 一枚
一、松井司令官の感狀 一枚
一、陣中便り 一葉
一、日記 一冊
一、平野部隊長の書簡 一軸
一、寫眞 一葉

中尉は昭和十二年夏淺間部隊として上海戰線に出征劉河鎭の戰鬪に於て部下を率ゐて劉河を渡り敵左背部に進出して敵を潰走せしめ武勳を輝かした。更に十月二日羅店鎭の激戰に於ても部下と共に有力なる敵の背部に進入し力戰奮鬪中敵手榴彈を受けて遂に江南の華と散つた。右山室部隊長の賞狀がその功を稱へてゐる。

故重矢才夫歩兵伍長遺品

大阪 田中竹松氏藏

一、萬年筆 一本
一、寫眞 一枚
一、木村中尉手紙 二點
一、寫眞帳 二冊

伍長は島根縣海士郡海士村出身、數年前より大阪市港區九條中通田中竹松氏方にて勤務中應召し鯉登部隊として出征、北支戰線に奮戰中昭和十二年八月南苑の戰鬪に於て戰友九名と共に重傷を負ひ遂に北支戰線の花と散る。

故藤井勇藏輜重兵上等兵遺品

大阪 藤井源吉氏藏

一、陣中便り（はがき） 四枚
一、錢入 一個
一、時計 一個
一、寫眞 一葉

上等兵は大阪市北區天神橋筋四丁目出身、昭和十二年出征以來永定河琉璃河の敵前渡河作業に抜群の勳功を殘し同年十二月十日山東問家臺村に於て名譽の戰死を遂げ特旨に依り輜重兵特務兵より上等兵に進級す。

戰傷の久渡歩兵上等兵所持品

大阪 久渡龜太郎氏藏

一、軍服 一着
一、シャツ 一枚
一、ジバン 一枚
一、御下賜繃帶 一個
一、御下賜扇子 一本

伍長は昭和十二年八月二十五日坨里村の激戰に〇隊長として奮戰中胸部、腹部に盲管銃創を受け名譽の戰傷を負ふ。

横田一等兵作

大阪 宮本政夫氏藏

一、劉歩源書漢詩 二通

題大沽路

濁水蹣跚我膝駸車輛不進愛馬斃糧食斷絕餓將迫天津華城目前在蹣破河北大沽路

於孔子廟西揚庄狂席横田一等兵作

劉歩源書 印

四百餘洲足下踏腰間有帶三尺鐵三千年不知恥辱拔忽切斷日本刀

劉歩源書 印

この漢詩二篇は帝國在鄉軍人會四貫島分會第四班より支那事變に出征せる横田一等兵が某地に駐屯中、軍務の寸暇に作つた詩をその土地の有力者が墨痕鮮かに書いたもので、吾が兵士の風流心と日支親和の實情を物語る好個の資料である。

故中島平三郎歩兵少佐遺品

京都 中島嘉代氏藏

一、圖囊 一個
一、戰鬪帽 一個
一、袱紗 一枚

少佐は片桐部隊附として出征奮戰中、昭和十二年十月一日壯烈なる戰死を遂ぐ。

故富田仙太郎少佐遺品

京都　富田芳子氏藏

一、軍刀　一口
一、圖嚢　一個
一、戰鬪帽　一個
一、書簡　一點
一、小圖嚢　一點
一、陣中スケッチ　七枚
一、手向草（生徒作文集）　一冊
一、寫眞　一葉

少佐は京都市出身、今中部隊として出征、昭和十二年十一月二十四日無錫攻擊戰で名譽の戰死を遂ぐ。

故澤田彥次郎中尉遺品

奈良　澤田福松氏藏

一、雙眼鏡　一個
一、血染の軍服（上下）　一着
一、バンド布　一本
一、雙眼鏡ケース　一個
一、軍刀　一口
一、國旗　一枚
一、墓口　一個
一、寫眞　一葉

中尉は奈良市出身、助川部隊として江南無錫の戰鬪に勇猛果敢なる武勳を樹てたが遂に昭和十二年十一月二十四日護國の神となる。

西浦楢信伍長所持品

奈良　西浦與吉氏藏

一、敵彈を受けた千人針　一點
一、柏端隊長の手紙　一通
一、本人よりの書信　一通

伍長は奈良縣吉野郡大淀町出身、助川部隊柏端隊として活躍す。右は敵彈四發を喰ひ止めた奇蹟の千人針と右に關する柏端隊長の手紙。

故岩井廣男海軍中佐遺品

和歌山　岩井惠濟氏藏

一、中禮服（三ツ揃）　一着
一、禮帽　一個
一、幼時の寫眞　一枚
一、尺八　一本
一、幼時用ひし帽子　一個
一、短劍　一口
一、手袋　一組

中佐は和歌山市有本出身。〇〇海軍航空隊に所屬。今次事變が中支に波及するや昭和十二年八月十五日第一回渡洋爆擊に參加し、杭州上空に於て壯烈なる戰死を遂ぐ。昭和十三年四月功三級勳四等を賜はる。

故淺間長之助中佐遺品

和歌山　淺間光之助氏藏

一、圖嚢　一個
一、背像寫眞　一葉
一、竹刀　一本
一、木刀　一本

中佐は和歌山市出身、和知部隊副官として昭和十二年九月江南羅店鎭にて奮戰中壯烈なる戰死を遂ぐ。なほ中佐は劍道の達人であつた。

故貴志金吾海軍大尉遺品

和歌山　貴志德松氏藏

一、大禮服（三ツ揃）　一着
一、禮帽　一個
一、肩章　一對
一、ラケット　一本
一、履歷副本　一冊
一、寫眞　二葉

大尉は和歌山縣海草郡湊村出身、昭和十二年八月上海陸戰隊大山大尉の仇討にと上海八字橋にて部下を督勵奮戰中壯烈なる戰死を遂ぐ。昭和十三年四月功四級勳六等を賜はる。

故大前旭憲兵曹長遺品

和歌山　大前珍二氏藏

一、支那服（三ツ揃）　一着
一、軍服（上衣）　一點

曹長は和歌山市出身、上海派遣憲兵隊員として活躍中昭和十二年八月上海北停車場にて行方不明となり後死體埋葬所が發見され戰死を確認された。

故橫井喜代藏少佐遺品

桑名　橫井かづ氏藏

一、軍刀　一口
一、水筒（彈痕アリ）　一個
一、背嚢（彈痕アリ）　一個
一、呼子笛　一個
一、磁石　一個
一、寫眞　二枚
一、圖嚢　一個
一、双眼鏡（サック共）　一個

少佐は桑名市出身、山田部隊〇隊長として出征。北支より中支に轉戰、昭和十二年十月十三日白茆口に上陸、敵の左翼攻擊に奮戰し、翌十四日彈丸雨飛の中に双眼鏡にて敵狀偵察中、腹部に貫通銃創を負ひ、名譽の戰死を遂ぐ。遺族に兩親、夫人、二男あり。

故山本重藏航空兵軍曹遺品

桑名　山本孫藏氏藏

一、飛行帽　一個
一、手袋　一對
一、シャツ　一枚
一、パラシュートの破片　數個
一、木製硝子張箱　一個
一、自爆現狀寫眞　一〇枚
一、個人寫眞　一枚

軍曹は桑名市外朝日村出身、下志津飛行學校を經て昭和十二年七月航空兵伍長に任ぜらる。同年九月二十三日滄州德州方面へ退却する敵部隊を爆擊中、敵彈命中發火、同乘の澁谷隊長以下五勇士と共に壯烈なる自爆を遂ぐ。

故安藤元一中佐遺品

名古屋　安藤中佐御遺族藏

一、軍服（上下）　一着
一、戰鬪帽　一個
一、水筒　一個
一、双眼鏡　一個
一、鐵兜　一個
一、軍刀　一口
一、指揮刀　一口

中佐は神戸市出身、川並部隊として出征、上海戰線にて活躍倉永部隊長戰死後は部隊長代理として勇名を謳はれてゐたが、昭和十二年十月十七日大場鎭にて奮戰遂に江南の花と散る。

故疋田外茂海軍大尉遺品

金澤　疋田喜一郎氏藏

一、軍服　一着
一、作業服　一着
一、千田部隊長の手紙　一通
一、本人の寫眞フイルム　一枚
一、自爆地の寫眞　一葉

大尉は金澤市出身、今事變には〇〇海軍航空隊附として上海、南京方面にて活躍、昭和十二年十月十九日南翔方面にて敵裝甲車密集部隊を發見し、爆擊中不幸敵彈を受け愛機は突如火を發したので熖の愛機と共に遂に壯烈なる自爆を敢行して名譽の戰死を遂ぐ。

故河崎政一少佐遺品

金澤　河崎唯可氏藏

一、勳章　六個
一、本人寫眞　一葉
一、戰鬪帽　一個
一、軍刀　一口
一、水筒　一個

一、記念國旗　一枚
一、ハンカチ　一枚
一、肩章片方　一個
一、辨當風呂敷　一枚
一、雨合羽　一枚

少佐は石川縣江沼郡篠原村出身、伊佐部隊に屬し中支江南の戰線に活躍中昭和十二年十月七日壯烈なる戰死を遂ぐ。

故佐藤傳治郎歩兵少佐遺品

金澤　佐藤ツヱ氏藏

一、拳銃　一挺
一、双眼鏡のサック　一個
一、圖嚢　一個
一、呼び子　一個
一、錠　一個

少佐は山形縣西村山郡白岩町出身、伊佐部隊隨一の劍道の達人であつた。上海戰線にて奮戰中昭和十二年十月十一日遂に護國の神となる。

故廣川伊之助少佐遺品

富山　廣川アヤ氏藏

一、軍刀　一口
一、軍刀箱　一個
一、拳銃（サック共）　一挺

少佐は上海戰線唐北宅の戰鬪に於て富士井部隊〇隊長として奮戰中遂に壯烈なる戰死を遂ぐ。

遺族はアヤ夫人と長女幸子さん（九年）の二人。

故河合外夫歩兵少佐遺品

富山　河合良枝氏藏

一、双眼鏡（サック共）　一個
一、拳銃（サック共）　一挺
一、刀帶　一個
一、勅語書　一冊
一、寫眞　一葉

少佐は富士井部隊〇隊長として出征。昭和十二年十月六日陸家橋の戰鬪で僅かの手兵を率ゐ、軍刀を振つて敵陣に突入、後續部隊の襲擊を容易ならしめ殊勳を樹てたが遂に壯烈なる戰死をなす。

故山口巖歩兵中佐遺品

濱田　山口喜代子氏藏

一、軍刀　一口
一、略綬　一個
一、認識票　一個
一、拳銃（サック共）　一挺
一、圖嚢　一個
一、寫眞　一枚

中佐は廣島縣豐田郡出身、大正四年少尉任官先年シベリヤに出征昭和十二年粟飯原部隊〇隊長として出征十月十五日山西戰線で玉庄に於て午前零時半頃部下を率ゐて堅固な敵陣地夜襲を行ひ大隊の先頭に立つて突擊の際右大腿部に敵彈を受け壯烈なる戰死を遂ぐ。

遺族は母堂、喜代子夫人、長男澄君を頭に一男三女あり。

故藤井進歩兵大尉遺品

倉吉　藤井まつ子氏藏

一、軍刀　一口
一、拳銃（サック共）　一挺
一、圖嚢　一個
一、双眼鏡　一個
一、靴　一足

大尉は鳥取縣東伯郡社村出身、長野義部隊附として出征、昭和十二年九月二十三日東花園附近の戰線に於ける夜襲の際、大隊攻擊の中央部隊として數個の機關銃座を有する敵の最も堅固なる運河東側地區の攻擊に當り常に突擊の先頭に立ち日本刀を振り翳して敵の第一第二掩蓋銃座を奪取し第三掩蓋銃座をも陷れんとしたとき敵の手榴彈が命中壯烈なる戰死を遂ぐ。

遺族はまつ子夫人、一男一女あり。

石黒貞藏部隊長自筆

鳥取　石原峰藏氏藏

一、スケッチ（葉書）　一枚

鳥取　松田信穂氏藏

一、スケッチ（葉書）　一枚

石黒部隊長は鳥取市出身、事變勃發後北支京漢線で奮戰中で神速部隊として支那軍に恐れられてゐる。昭和十二年九月の涿州保定會戰の際には拔刀して陣頭に立ら敵陣に突入して群る敵を薙ぎ倒しその戰功によつて寺内最高指揮官から石黒部隊に對し感狀を授與された殊勳の鬼部隊長である。同部隊長は豪勇な反面に光山と號して水彩畫、墨繪、油畫等をよくし、敵彈雨飛の陣中に於いても悠々彩管を揮ひ鄕土民から寄せた慰問狀の返信には必ず決つたやうに陣中スケッチが同封されてあり風流部隊長の名を謳はれてゐる、このスケッチも鳥取市石原、松田兩氏に送つて來た部隊長の返信である。

故中島德夫歩兵中佐遺品

松江　中島あや子氏藏

一、軍刀　一口
一、双眼鏡（サック共）　一個
一、拳銃（サック共）　一挺
一、將校マント（雨具）　一枚
一、血染ガーゼ手拭　一枚
一、認印（サック共）　一個
一、寫眞　一葉

松江　松江中學校藏

一、セルロイド製メモ　一組
一、肩章　一組
一、認識章　一個

中佐は松江市出身、陸士第二十七期生、大正四年少尉任官、先にシベリヤにも出動した。今事變には粟飯原部隊〇隊長として北支に歷戰し昭和十二年九月十五日足と頭部に、其後も數度負傷したが屈せず繃帶姿で勇戰中十月十五日忻口鎭附近の戰鬪に於て順次敵陣を突破奮戰中遂に敵彈の爲に華々しく散る。

遺族はあや子夫人、長男稔君と一女あり。

故岩田貞德歩兵大尉遺品

米子　岩田はる子氏藏

一、軍刀　一口
一、鐵兜（血糊附着セルモノ）　一個
一、水筒（彈痕アルモノ）　一個

大尉は鳥取縣西伯郡大幡村出身、豫ねてより機關銃の日本一名射手として知られてゐた。柏木部隊〇隊長として出征。昭和十二年十月二十三日北支河北省肥鄕の戰鬪に於て愛刀を揮ひ敵六名を薙倒し、更らに前進突擊に移らんとする際、敵迫擊砲彈が身邊に炸裂し、遂に華々しく戰死す。

遺族は母堂、はる子夫人、二男一女あり。

故内田眞二軍醫大尉遺品

岡山　内田與六郎氏藏

一、水筒　一個

大尉は岡山縣苫田郡上加茂村出身、赤柴部隊附として出征、北支戰線の第一線を馳驅し戰傷兵から神の如く敬愛された人。昭和十二年十月三十日津浦線馬腰務附近の戰鬪で護國の華と散る。

故只友猛歩兵中佐遺品

岡山　只友壽惠子氏藏

一、血染の水筒　一個
一、只友中佐寫眞　一枚

中佐は岡山縣苫田郡上加茂村出身、滿洲事變には匪賊討伐に武勳を樹て、今事變には和知部隊麾下として上海戰線につき、昭和十二年十月十九日、羅店鎭附近の總攻擊に於て部下の先頭に立ち督勵奮戰中頭部に敵彈を受け、壯烈江南の華と散る。血染の水筒は中佐の殊勳を物語つてゐる。

故須藤久歩兵中佐遺品

廣島　須藤みち子氏藏

一、遺書（箱入）　二通
一、軍刀　一口
一、刀帶　一個
一、圖嚢　一個
一、拳銃　一挺
一、皮脚絆　一個

一、手　　帳　一冊
一、一錢銅貨　一個
一、拾錢朝鮮紙幣　四枚
一、勳　　章　二個
一、記　　章　四個
一、陣中便り　一〇通
一、寫　　眞　一葉

中佐は長野部隊附として出征、山西省忻口鎮の後方大營鎮、代州、陽明堡方面の確保と殘敵掃蕩に任じてゐたが、昭和十二年十月十六日舊河北の堅固な敵陣地攻撃に際し、部下に訓示の後率先軍刀を揮つて敵陣中に突入し獅子奮迅の奮闘中遂に胸板を打貫かれ名譽の戰死を遂ぐ。

故土岐覺次郎歩兵中佐遺品

廣島　土岐節子氏藏

一、外　　套　一枚
一、圖　　嚢　一個
一、時　　計　一個
一、戰 闘 帽　一個
一、千 人 針　一枚
一、軍　　刀（革覆共）　一口
一、刀　　帶　一個
一、地　　圖　一枚
一、寫　　眞（ケース付）　一枚
一、勳　　章（ケース共）　四個

中佐は長野部隊〇隊長として山西省忻口鎮の山岳戰に活躍、昭和十二年十月二十六日敵の第一第二陣地を抜き、第三陣地たる天然の要害に據る敵を攻撃、味方砲兵の掩護射撃の下に午前八時より數回に亘る突撃を敢行、奮戰し、正午に至るも果さず、午後一時中佐は率先陣頭に立ち敵中に突入した。敵の銃砲彈は雨の如く集中し、遂に一彈は命中せしも屈せず縱横無盡に奮戰中、更らに迫撃砲彈が中佐の直前に炸裂し凄烈なる戰死を遂ぐ。

故川崎隆一歩兵少佐遺品

山口　川崎英子氏藏

一、防彈チヨツキ　一組
一、軍 服 上 衣　一枚
一、軍　　刀　一口
一、背　　嚢　一個
一、圖　　嚢　一個
一、萬 年 筆　一本
一、勳　　章　一個

少佐は山口縣美禰郡岩永村出身、陸士二十三期卒業、先にシベリヤに出征す。今事變には昭和十二年十月十五日忻口鎮北部山岳戰に於て部下と共に最前線に出で壕中で部下に對し「出るな、のぞくとやられるぞ」と制しながら自らは敵兩側防火位置を偵察せんとして壕を出た際脚部に敵彈を受け戰死す。遺族英子夫人と三男二女あり。

故藤井德太郎歩兵少佐遺品

山口　藤井カウ氏藏

一、財　　布　一個
五十錢銀貨一、五分白銅貨一、一分銅貨一〇、砲彈破片二、二十錢紙幣一、名刺一在中
一、手　　帳（名刺一書類二）在中　一個
一、拳　　銃（サツク入）　一梃
一、戰 闘 帽　一個
一、軍　　刀　一口

少佐は德山市出身、曩にシベリヤ、滿洲事變にも出征、昭和十二年八月北支長城線方面にて奮戰後、山西省忻口鎮に於いて遂に華々しき戰死をなす。遺族養母、カウ夫人のほか三男一女あり。

故嶺村文江航空兵大尉遺品

山口　嶺村トシ氏藏

一、尺　　八（露切り共）　一點
一、樂　　譜　六冊

大尉は山口縣吉敷郡大歳村出身、神崎部隊附として出動、昭和十二年十二月二日編隊長機を操縱、南京漂水附近の敵陣地を偵察後大平江寧鎮を經て南京を空襲、大校飛行場上空にて敵大型爆撃機十機戰闘機約二十機と交戰大尉は數機を相手に入り亂れて戰ひ遂に無數の敵彈を受けて江南上空の華と散つた。

故行本勇歩兵中佐遺品

山口　行本スヱ氏藏

一、軍　　刀　一口
一、血 染 國 旗　一枚
一、血染三角巾　一枚
一、肩　　章　一組
一、戰 闘 帽　一組

中佐は山口縣佐波郡西浦村出身、陸士三十期卒業、曩にシベリヤ、滿洲事變にも出征す。今次事變には昭和十二年十月北支戰線に於て大場部隊の〇隊長として忻口鎮の激戰にて鐵兜に敵彈命中したるも無事、次いで軍刀にもカスリ彈を受けたるも無事、第三回目に左肩貫通銃創を負ひ、右出陳の三角巾にて左手を吊り、右手に軍刀を揮つて指揮を續けたるが同二十七日遂に敵彈は右眼に命中、壯烈なる戰死を遂ぐ。遺品血染の日章旗は二十年前の部下が出征の際中佐に贈つたものである。遺族、きく母堂（六十八年）、スヱ夫人、長女忠子さん（十四年）を頭に二男四女あり。

故梅林孝次郎海軍大尉遺品

德島　梅林行運氏藏

一、寫　　眞（肖像一航空寫眞一）　二葉
一、海 軍 服（上下）　一着
一、帽　　子　一個

大尉は德島市出身、昭和十二年八月十六日南京空襲に奮戰中無念敵彈により火を發したる熖の愛機より純白なハンカチを打ち振りつゝ僚機に訣別の意を示し從容として敵地に自爆名譽ある護國の鬼と化す。昭和十三年四月特に功四級勳六等を賜はる。

故水野正一歩兵少尉遺品

德島　水野永三郎氏藏

一、磁　　石（砲彈破片入り）　一個
一、「水野少尉の奮戰」歌　一枚

兵庫　水野貞一氏藏

一、軍　　刀　一口
（大和大椽菅原氏重銘）

少尉は德島縣三好郡三野町出身、昭和十二年九月陸士卒業と同時に出征。

故谷内利晴歩兵少佐遺品

德島　谷內家藏

一、軍　　服（上衣）　一着

少佐は花谷部隊として出征、昭和十二年八月三十一日劉河鎮の激戰で左胸部盲管銃創を負ひ〇〇陸軍病院で療養中人一倍元氣旺盛な少佐はこれを潔しとせず再度の御奉公を決意し十一月十二日左胸部に彈片を留むる身でありながら勇躍第一線に馳せ還り遂に二十三日無錫の激戰に壯烈な戰死を遂ぐ。

故安岡茂雄歩兵中尉遺品

歩兵第四十四聯隊藏

一、鐵　　兜　一個

中尉は高知出身、陸士四十九期卒業、和知部隊として出征、昭和十二年八月二十三日揚子江敵前上陸に成功、川沙鎮の戰闘に部隊を率ゐて先頭に立ち突撃中四圍の敵より狙撃され遂に一彈は中尉の鐵兜を貫き壯烈なる戰死を遂ぐ。

古谷輝實歩兵准尉所持品

歩兵第四十四聯隊藏

一、鐵　　兜　一個

准尉は高知縣高岡郡大野見村出身、劍道二段の猛者である、和知部隊が太倉を攻略の際挺進隊を組織し、殊勳の一番乘をした人。右鐵兜は九月十七日馬橋の戰闘で敵彈が命中して凹み、龜裂を生じ、准尉はその場に昏倒したが、大きなコブが出來たゞけで微塵の怪我もなかつた奇蹟を表はしたもの。

故堀金一一工兵少佐遺品

善通寺　堀金福一氏藏

一、故少佐寫眞　一枚
一、肩　　章　一揃
一、刀　　帶　一個
一、手　　紙　一枚

少佐は香川縣善通寺出身、昭和十二年八月二十三日上海の敵前上陸に山室部隊等と共に第一線にあつて指揮中敵彈が命中したが、自らの深傷を忘れて部下を勵まし遂に力盡きて、「天皇陛下萬歳」を奉唱して江南の華と散る。

故中村寛工兵少佐遺品

善通寺　中村智惠子氏藏

一、寫　眞（人物一八 景色二）　計二〇枚
一、飯　盒　一個
一、磁　石　一個
一、軸　一本

少佐は大正十五年陸士卒業、永山部隊附として出征、昭和十二年八月二十三日羅店鎭攻略戰に手兵三十餘名を率ゐて敵援軍の彈藥武器を滿載せるトラック十數臺中に飛込んで敵兵を斬り倒しトラックを全部クリークに投込んだとき、萬餘の敵に包圍されたので連絡兵を後退せしめた後、十八名の部下と共に決死敵中に突入し壯烈護國の人柱となり「人間タンク」の勇名を轟かした。

故西内久美大尉遺品

高知　西内貞吉氏藏

一、軍　刀（皮鞘とも）　一口
一、千人針腹卷　一本
一、寫　眞　一枚

大尉は高知縣香美郡富家村出身、陸士四十四期卒業、今事變には金谷部隊〇部隊長として北支戰線京綏線成安城の攻擊に愛刀肥前忠好を揮つて奮戰部下の大半を失ひ大尉は右脚に重傷を負ひ今や戰死を覺悟し群がる敵中に突入華々しく散つたのが昭和十二年十一月二十四日。この時金谷部隊長も遂に戰死す。

故澤本勝歩兵少佐遺品

高知　澤本倘作氏藏

一、戰線日誌（偕行社發行）　一冊
一、手　紙　三通
一、金時計　一個
（山内侯爵より寄贈のもの鎖つき）
一、目　錄　一枚
一、手　紙　二通
一、軍　刀（近江守助重作）　一口
一、寫　眞　一枚

少佐は高知縣長岡郡後免野田出身、昭和十一年陸大を第三位で卒業し、恩賜の軍刀を賜はつた秀才。軍略の研究家にして苦學力行の士であつた。和知部隊〇隊長として奮戰中、昭和十二年十月三日揚家村敵陣地攻擊戰に遂に江南の華と散る。

故池田源信歩兵中佐遺品

高知　池田登代氏藏

一、手　紙（封筒共）　一通
一、戰線スケッチ　一枚
一、旅行命令書　一枚
一、要　圖（池田中佐絶筆十月三日付）　一枚
一、額　緣　二個

中佐は高知縣香美郡德王寺村出身、和知部隊〇隊長として出征、羅店鎭西方の揚家村の激戰に腰部に迫擊砲彈を受け十月三日戰死す。中佐は發明心に富み畫才にも惠まれてゐたことは戰場スケッチによつて知られる。要圖は戰死の一時間前に記したもの。

故下坂正男歩兵中佐遺品

高知　下坂光子氏藏

一、戰鬪帽　一個
一、參謀肩章　一個

中佐は高知市出身、陸大出の逸材で〇〇部隊參謀として出征、昭和十二年八月二十三日揚子江敵前上陸に成功し重要任務を遂行中敵彈が命中したが責任感の強い中佐は重要報告を終り從容死についた勇士である。

樫村一等航空兵曹所持品

高松　樫村その氏藏

一、陣中便り　三通
一、寫　眞　三枚

兵曹は香川縣善通寺出身、昭和十二年十二月九日南昌大空爆の際空中戰に於て勇敢にも敵戰鬪機カーチス・ホークに挑みかゝり美事體當りを喰はし敵二機を擊墜し、自機は片翼を壞はしたが沈着愛機を驅つて悠々〇〇基地に歸還した海の荒鷲の殊勳者である。米内海相は片翼飛行の引伸寫眞に「至大至剛、至玄至妙」と書いて兵曹に贈り、その功を讃へた。

故吉田光治少佐遺品

大分　吉田源吉氏藏

一、軍　刀（血痕附着）　一口
一、双眼鏡（サック入）　一個
一、肩　章（大尉時代）　二個
一、圖　嚢（血痕附着）　一個

少佐は大分市出身、長谷川部隊中隊長として出征、江南の戰線を馳驅し、昭和十二年十二月十二日南京城攻擊戰に遂に華々しく散つた。

故鈴木爲男歩兵少佐遺品

大分　鈴木吉夫氏藏

一、軍　服（血染上下）　一着
一、千人針　一個
一、寫　眞　一枚
一、軍　刀　一口

少佐は大分縣杵築町出身、先に濟南、滿洲事變にも出動した。今事變には長谷川部隊附として出征保定攻略戰中昭和十二年九月二十五日遂に敵彈を受け壯烈なる戰死を遂ぐ。

故百武俊吉歩兵中佐遺品

佐賀　百武經子氏藏

一、寫眞機（サック付）　一個
一、長　靴（左）　一個
一、寫　眞　四枚
一、支那兵の信號ピストル　一梃
一、日　記　一冊

中佐は佐賀市出身、先に滿洲事變に於ては川原挺進隊快速部隊の最先頭に活躍した拔群の功により關東軍司令官より感狀を授與され功四級金鵄勳章を賜はつた。今事變には村井部隊戰車隊長としてその快速をもつて勇名を轟かせたが昭和十二年十月十五日北支錦口鎭の戰鬪で遂に戰線の華と散つた。

故溝口元吾歩兵少佐遺品

佐賀　溝口くら子氏藏

一、御下賜綢帶　一個
一、双眼鏡（サック付）　一個
一、拳　銃（サック付）　一梃
一、血染付眼鏡（ハンカチ共）　一個
一、血痕付日章旗　一枚
一、寫　眞　一葉
一、鞄　一個

少佐は佐賀縣杵島郡稻富村出身、曩に滿洲事變にも參戰、鬼中隊長の勇名を馳せた。昭和十二年十月正定城攻略に際しては惡戰苦鬪遂に大日章旗を城頭高く飜し一番乘の殊勳を樹て、更らに十二月南京城外安德門一番乘りの武名を謳歌されたが遂に壯烈なる戰死を遂ぐ。

故山内達雄海軍大尉遺品

長崎　山内母堂藏

一、複寫々眞　六枚
一、故山内大尉中學時代の圖畫　五枚
一、山内大尉から令弟禎吉君にあてた手紙　一通
一、故山内大尉寫眞　一葉
一、山内母堂の寫眞　一葉
一、山内大尉禮裝　一揃
一、山内大尉着劍　二口

大尉は〇〇海軍航空隊附として昭和十二年八月三回に亘つて渡洋爆擊に參加し、第三回目には敵六機を擊破し偉功を樹てたが遂に敵彈を受け火焰を曳きながら敵陣中に自爆し、壯烈なる戰死を遂ぐ。大尉の母堂がその直後海軍省人事局宛に送つた手紙は典型的な武人の母の眞情を披瀝し、惻々として我等の胸に迫ろ貴重なものである。昭和十三年四月功四級勳六等を賜はる。

故永田直航空兵少佐遺品

長崎　永田直之丞氏藏

一、日章旗　一枚
一、寫　眞　一葉
一、夏マント　一枚

一、書翰　一通

少佐は長崎縣諫早町出身、昨年十一月二十二日江南戰線の空中戰で壯烈なる戰死を遂ぐ。右日章旗は東京に居住の軍醫少將梶塚隆二氏の令孃が慰問袋に入れて送つたのが少佐の手に入つたもので非常に喜んで敵陣空爆の際爆彈が命中する毎に打振つてゐたさいふ。この旗は特に日の丸が紅の絹を縫ひ付けてあり少佐の武勳を物語る貴重なものである。

故木村政世騎兵少佐遺品

熊本　木村亥熊氏藏

一、軍　刀（彈痕及血痕アリ）　一口

一、日記帳（彈痕及血痕アリ）　一冊

一、人名票　一冊

少佐は熊本市出身、星部隊所屬南京東北方の仙鶴門山麓に於て敵敗殘兵の大部隊と遭遇し寡兵よくこれを殲滅したが遂に名譽の戰死を遂ぐ。

故大薗庄藏步兵少佐遺品

鹿兒島　大薗ハイ氏藏

一、軍　刀（血染）　一口

一、双眼鏡（サック入）　一個

一、拳　銃（サック入）　一挺

一、行　囊（血染）　一個

一、背　囊（血染）　一個

少佐は鹿兒島市出身、原田部隊附、昭和十二年十二月十三日南京郊外高河鎭で一萬數千の敵と遭遇し壯烈なる白兵戰を行ひ之を擊退したが遂に戰死す。

大串均一航空兵曹署名品

鹿屋　網屋袈裟太郎氏藏

一、日章旗　一枚

一、手　紙（封筒共）　一通

兵曹は昭和十二年八月十四日海軍航空隊〇〇機と共に基地を出發、筧橋、杭州、廣德飛行場を爆擊し敵飛行機數十臺、格納庫等を爆碎したが、杭州爆擊の際大串機は地上砲擊及び敵戰鬪機十數臺の爲七十發の敵彈を受け、發動機一臺と無電機を射貫かれて使用不能となつたが、勇敢にも殘りの發動機のみにて颱風中を巧みに操縱しつゝ海上を翔破し、無事夜に入つて單機基地に歸還した勇士である。當時その殊勳は銃後の國民を感泣せしめ、その所謂片肺で武勳を樹てた大串機は昭和十三年二月東京の海軍館に陳列され一般に公開されてゐる。右日章旗は出征前の寄宿先なる鹿兒島縣鹿屋町網屋袈裟太郎氏に贈つたもので渡洋爆擊に參加したる日と場所を記した陣中便りを添附されてゐる。

栗野二三、三等航空兵曹署名品

鹿屋　堀川良英氏藏

一、日の丸の旗　一枚

兵曹は〇〇海軍航空隊所屬。今事變には既に數回の渡洋爆擊に參加殊勳を表した。右日章旗は渡洋爆擊に出發の直前恩人鹿兒島縣鹿屋町堀川良英氏に贈つたもので爆擊箇所記入の心組であつたが急ぎ出發の都合上名のみ記したるもの。

中支軍〇〇部隊藏

一、南京一番乘り殊勳の梯子（木梯子一　竹梯子二）　三個

これは昭和十二年十二月十二日わが谷部隊が南京中華門に一番乘りの日章旗を揚げたさきに使用した大梯子である。

大阪陸軍兵器支廠藏

一、三八式野砲前車　一臺

右は北支戰線に於て敵彈を蒙り破損せるもの

一、九二式十糎榴彈砲彈藥車　一臺

北支戰線に於て敵彈を蒙り破損せるもの

一、自動貨車（兵中西三百十一號）　一臺

本自動貨車は中西部隊〇隊に屬して出動以來各地に轉戰數々の武勳をたて特に昭和十二年九月二十二日より同二十八日に至る間板垣兵團內長城線の戰鬪に參加し平岩部隊の急進に際し同隊と行動を共にし爾來同月二十八日に至る間長城線に於て敵の空爆並に優秀なる敵新兵團の晝夜間斷なき銃砲火の下に兵員及び軍需品の輸送に任じ幾多の敵彈を受けつゝも克くその重任を遂行した。

この彈痕は九月二十五日兵團輸送中長城線に於て受けた敵迫擊砲の彈痕である。

臺灣軍司令部藏

一、松井石根大將揮毫色紙　一枚

東京　研精社藏

一、松井大將署名日章旗　一枚

一、大川內司令官署名日章旗　一枚

一、長谷川司令官署名日章旗　一枚

一、白襷隊署名日章旗　一枚

一、瀧部隊署名日章旗　一枚

一、大山中隊署名日章旗　一枚

大阪　橋本新藏氏藏

一、松井石根大將書（七言絕句）　一幅

佐世保海軍々需部藏

一、小　銃　一挺

一、鐵　兜　一個

一、双眼鏡　一個

佐世保鎭守府藏

一、驅逐艦「栂」艦尾鐵板の切斷面　一個

大阪陸軍兵器支廠藏

一、戰死者の携帶せし小銃　一挺

姬路陸軍病院藏

一、左下顎摘出小銃彈　一個

一、腦摘出鐵兜破片　一個

一、頸部摘出砲彈破片　一個

一、左眼窩內摘出小銃彈　一個

一、左側背部及前胸部摘出砲彈破片　一個

一、左肩胛部より入り廻盲部に止まりし摘出小銃彈　一個

一、右頰部摘出小銃彈　一個

一、右顳顬部摘出迫擊砲彈破片　一個

一、右上膊部摘出迫擊砲彈破片　一個

一、背部摘出小銃彈　一個

一、左上膊部摘出砲彈破片　一個

岡山　隅本繁吉氏藏

田島榮次郞將軍より隅本第六高等學校長宛のもの

一、陣中便り　一通

少將は愛知縣渥美郡出身、陸士十八期生、大正三年陸大卒業、今事變勃發と同時に北支津浦線に出動昭和十三年二月十三日曲阜南方の戰鬪に於て左大腿部に盲管銃創を受けた。右手紙は戰線より曾つての配屬校六高校長隅本氏に宛てた同將軍の陣中便りで猛將軍の面目を語る好個のものである。なほ少將は昭和十三年春の定期異動で中將に累進下關要塞司令官に榮轉す。

宮崎　重山光子氏藏

一、岡本鎭部隊長の手紙　一通

宮崎市第二小學校四年生級長重山光子さん（十一年）はいつも先生から事變のお話や日本の兵隊さんの奮戰振りを聞きぢつとして居られず度々第一線の兵隊さんに慰問のお手紙を出し澤山のお禮の手紙も來てゐたが右は光子さんが先月思ひ切つて岡本（鎭）部隊長に出した可愛い慰問狀が同部隊長を非常に喜ばし同部隊長は砲煙彈雨の慌しい戰線から光子さんに送つた優しいお禮の手紙である。

平川時彌氏藏

一、皇軍勇士の遺品水筒　一個

北支派遣軍司令部藏

一、軍　衣　一枚

一、川岸部隊への彰德標識　四旒

一、香月司令官への感謝文（邦文釋文つき）　二袋

高田　片上圭子氏藏

一、皇軍將士署名入日章旗（額入）　一點

一、寫眞　一葉

奈良縣高田町、高田女子小學校三年生片上圭子さん（十一年）は昭和十二年の夏〇〇驛頭に於て驛を通過する軍用列車の兵隊さんを日の丸の旗を打ち振つて見送つたがその時一人の兵士が「お孃さん、その國旗を私に呉れませんか」と頼んだ。圭子さんは喜んで手にしてゐた旗を兵隊さんに贈つた。さうして圭子さんの旗は汽車の窓に飜りながら勇ましく出征した。――それから六ヶ月が經つた。昭和十三年二月中旬圭子さんのところへ戰地から軍事郵便が屆けられた。不思議に思ひながら開けて見ると、兵士の名を一杯書いた國旗が一枚現はれた。この國旗こそ圭子さんが〇〇驛頭で贈つたあの國旗だつたのである。國旗を贈られた勇士は鈴木謙部隊の田中金之助伍長だつた。田中伍長は北支に、上海に、武勳をあげ一番乘りをしては圭子さんから贈られた日章旗を城頭高く掲げ大和魂を輝やかしたが折を見ては戰捷記念に戰友に署名して貰ひ、肌身離さず携へてゐたが戰爭が一段落したので半年振りに少女の許へ送り返して來たものである。

楠本志能夫氏藏

一、柳川將軍の書翰　一通

今事變に赫々たる武勳をたて凱旋された杭州灣上陸軍司令官柳川平助中將より令兄長崎縣東彼杵郡大村町楠本志能夫氏にあてた親書である。

大阪　橋本保之助氏藏

一、永野修身大將書（軸）　一幅

皇軍兵器

名古屋陸軍兵器支廠藏

一、側車附自動二輪車　一臺

東京陸軍兵器支廠藏

一、砲隊鏡（脚共）　一個

一、九一式曳火手榴彈　一個

一、九一式榴彈（藥筒共）　一個

一、ホ式十三糎高射機關砲　一門

一、九四式一米對空測遠機　一個

大阪陸軍兵器支廠藏

一、愛國八九式擲彈筒　一個

一、九二式重機關銃　一梃

一、高射機關銃　一梃

一、八九式中戰車（乙）　一臺

一、九〇式小空中聽音機　一臺

一、九〇式大空中聽音機　一臺

一、九四式四號甲無線機　一個

一、芭斯式測遠機　一個

一、四年式十五糎榴彈砲　一門

一、八八式七糎野戰高射砲　一門

一、十一年式曲射步兵砲　一門

一、十一年式平射步兵砲　一門

一、改造三八式野砲　一門

第四師團兵器部藏

一、九三式百五十糎探照燈發電自動車　一臺

任務
射光機に對し電源を供給するもの。

主要諸元
重量　五千八百キログラム
長サ　六・五メートル
巾サ　二・一メートル
高サ　三・四五メートル
發電々壓　百十ボルト
發電々流　百六十五アンペア
操作人員　分隊長以下七名（射光機共）

第四師團獸醫部藏

一、裝蹄自動車　一臺

これは戰線を移動して隨所に馬蹄を造り得る樣車内に其裝置を施してある自動車である。

呉海軍々需部藏

一、三年式八糎高角砲　一門

呉海軍工廠藏

一、一米半測距儀（架臺共）　一個

一、六米潜望鏡　一基

潜望鏡（ペリスコープ）は潜水艦の眼である。潜水艦が敵艦を襲撃するときは艦體を水中に隱し此の潜望鏡の尖端丈を水上に現し四方を見乍ら敵艦に近づき魚形水雷を發射するのである。此の潜望鏡は彼の歐洲大戰中多くの商船を擊沈した獨逸潜水艦の持つて居たものである。

横須賀鎮守府藏

一、ガレリオ・ツアイス式七米潜望鏡　一個

一、四十五糎水上發射管　一個

一、四三式四十五糎魚雷　一個

舞鶴要港部藏

一、機雷各種　三個

一、電話浮標　一個

一、日露戰爭當時の千里鏡　一個

一、無線電信機　一組

一、機上機銃（旋回式固定式）　二個

大日本科學兵器株式會社藏

一、手動式輕機關銃　一梃

陸軍關係參考品

陸軍技術本部藏

一、ヴィッカース高射機關銃（參考出品）　一個

一、チエッコ自動小銃（同）　一個

一、ペターソン自動小銃（同）　一個

一、トムソン自動短銃（同）　一梃

一、ベルグマン自動短銃（同）　一梃

陸軍糧秣本廠藏

一、軍用食糧（各種）　一箱

〇〇部隊長藏

一、黄河の水を詰めて送つた支那壺　一個

一、大日章旗　一枚

〇〇部隊藏

一、黄河の水　二瓶

右は昭和十三年三月八日蒲州西方河岸にて汲みとつたものである。

〇〇部隊參謀部藏

一、黄河渡河戰準備の偵察寫眞　六枚

一、山西省太原附近の寫眞　七枚

一、黄河渡渉場測量地圖　六點

寶塚小學校藏

一、山嶽戰模型　一個

一、市街戰模型　一個

下仲由良氏藏

一、敵前上陸模型　一點

良元村尋常小學校藏

一、光華門模型（粘土組立細工）　一點

大阪朝日新聞社特派員藏

一、陸軍の傳單（各種）　數枚

海軍關係參考品

呉海軍々需部藏

一、將官旗（大將中將少將各一）　三枚

一、代將旗　一枚

一、先任旗　一枚

一、長旗　一枚

一、軍艦旗　一枚
一、當直旗　一枚
一、海軍信號旗　二七枚
一、外國軍艦旗（甲一八乙一七）二五枚

吳工廠造船部藏

一、軍艦縱斷模型　一揃
一、潜水艦浮沈模型　一揃

吳工廠水雷部藏

一、四十五糎切斷魚雷　一個
一、潜水艦魚雷發射模型　一揃
一、潜水艦襲撃運動模型　一揃

彼我の戰鬪は今や酣なるの時我飛行機の爆撃により操舵裝置を破壞せられ一時列外に出でたる敵の旗艦は死力をつくして故障を復舊し一刻も早く戰列に加はらんとする折しも俄然待機中の我潜水艦より發射したる魚雷は見事敵の艦腹に命中し轟然たる爆音と共に水煙高くあがつて海底深く沈みゆくのである。

吳工廠砲熕部藏

一、最近軍艦射撃裝置說明圖　一揃

吳工廠電氣部藏

一、電氣大砲模型　一個

これは火藥を用ひず電磁石の作用で彈丸を發射するもので、爆音がなく煙や火焰の出ないのが特長である。

一、潜水艦無電操縱　一組

右は短波の送信機から出た電波が潜水艦内にある同受信器に入りそれより種々の機構を經て潜水艦を操縱するものである。

佐世保海軍々需部藏

一、石投具　一組
一、弓　一組
一、火箭　一組

右三點は上海虬江路並にハスケル路の戰鬪に我が海軍陸戰隊の勇士が考案使用し多大の効果を收めたものである。

一、小銃　一梃
一、鐵兜　一個
一、望遠双眼鏡　一個

昭和十二年八月二十三日吳淞鐵道棧橋敵前上陸戰に參加し第一中隊右翼第一線小隊長として午前三時上陸を施行その直後より猛烈なる戰鬪を開始せり同十分頃小隊長先頭にありて双眼鏡を以て敵陣を偵察中偶々敵彈飛來して眼鏡を破壞し益々敵の猛射を蒙りたるも怯まず率先し敵第一陣地たる家屋を占領次いで竹垣外の敵第二陣地に突撃を令し立上りたる際頭部に敵彈を受け遂に壯烈なる戰死を遂げたり。

舞鶴要港部藏

一、艦首御紋章　四點

初代軍艦比叡、初代軍艦摩耶、初代軍艦鳥海、初代軍艦鹿島の各艦首御紋章である。

一、軍艦陸奥と大佛殿及本願寺比較圖額面　一枚
一、軍艦模型　三個

故佐久間艇長

一、遺書額面（寫）　一枚

故杉野兵曹長

一、記念品（額）　一面

鹵獲戰利品

海軍省藏

一、サヴォイヤ型水陸兩用偵察機　一臺

我が海軍が〇〇方面で鹵獲したもの。

佐世保海軍々需部藏

一、我が空軍に擊墜された敵機カーチスホークの殘骸　一組
一、魚雷　一個

この魚雷は昭和十二年八月十五日敵の水雷艇が黃浦江に碇泊中の我が旗艦出雲に向つて發射したると同樣のもので、その時右の魚雷は出雲をそれて日本總領事館前の碼頭に命中し碼頭を破壞し附近にあつた多數の支那民船を十間以上の高さに吹き飛ばした程の猛烈なものであつた。

一、戰車（虎五八號）　一臺

昭和十二年八月十六日拂曉この型の支那軍戰車三臺上海軍公路に表はれ上海に於ける日本人居留地帶である東部楊樹浦と中部虹口とを中斷する目的で殺倒し來たのを我が陸戰隊は僅か一門の步兵砲を擁してよく防ぎその先頭にありしこの「虎五八號」の頭部破壞に成功殘る二臺の敵戰車はこれを見て「虎五八號」を遺棄したまゝ慌てゝ退却し我が上海東部の戰線はこれによつて全きを得たのである。

一、消防ポンプ　一臺

閘北戰線三ヶ月對陣の猛擊を實證する逸品にて彼我陣地中間四段救火會の慘狀を物語る記念品。

一、鐵柵　一點
一、交通標識　一枚

昭和十二年八月中北部戰線の激戰の跡を物語る彼我の彈痕あり。

一、電柱の框　一個

昭和十二年八月中北部の戰線において愛國女學校方面の敵の發砲するにより受けたる彈痕を存するものにして當時の激戰を思はしめるもの。

一、防陣　一個
一、重機關銃及彈帶　一揃

沙涇口地區の戰鬪にて我陸戰隊員の鹵獲せるもの。

一、チエツコ式輕機銃　三組

昭和十二年十一月五日西北部ポケット地帶戰鬪において鹵獲せるもの。

一、小銃及銃劍　一組

沙涇口地區の戰鬪において敵の使用せるものなり。

一、長劍　二口

昭和十二年十月二十七日閘北總攻擊に際し敵が商務印書館に遺棄せるものなり。

一、靑龍刀　二口

昭和十二年八月十六日北部戰線において敵の使用せるをわが陸戰隊員の鹵獲せるものなり

一、ラツパ　一個

昭和十二年九月十六日北四川路對峙中の我を襲擊し來れる時擊滅捕獲せるもの。

一、紙幣　八枚
一、燒夷彈片　一個

昭和十二年十月二十日午後十一時頃揚樹浦水道會社附近に小癪にも支那軍より投下炸裂したるもの。

一、救護函　一個

昭和十二年十一月五日浦東殘敵掃蕩の際敵の童子軍救護隊より我陸戰隊員の鹵獲せるものなり。

一、軍服　二揃

昭和十二年八月二十四日東部公大一廠附近戰鬪において捕獲したる正規兵の服裝なり。

一、背囊　一組

昭和十二年八月二十七日北部戰線廣中路戰鬪において敵八十八師の所有せるを我が陸戰隊員が鹵獲せるものなり。

一、八糎迫擊砲彈片　一個

昭和十二年十月六日午後四時頃陸戰隊正面前に投下炸裂したるものなり。

一、鐵兜　二個

昭和十二年八月二十一日北部戰線森林陣地附近にて鹵獲せるものなり。

一、防毒マスク　一個

昭和十二年八月二十日其美路橋附近の戰鬪において我陸戰隊員の鹵獲せるものなり。

一、旗　一枚

浦東の戰鬪において我陸戰隊員が敵の旗手を刺殺し之を鹵獲せるものなり。

一、上海粵東中學門標　一枚

上海粵東中學に揭げてあつたもので無數に殘つてゐるその彈痕により戰鬪の激しかつた事が窺はれる。

一、敵塹壕內遺品　一揃

北部戰線商學院附近の陣地に遺棄されたるもの。

一、看板　一枚
一、戰車　一臺

昭和十二年八月二十五日東部公平路戰鬪において我陸戰隊の捕獲したるもの。

一、魚雷　一個

昭和十二年八月十六日浦東方面より敵水雷艇が出雲に向け發砲し領事館碼頭機橋に命中大破せしめたるものと同型の魚雷なり。

一、機械水雷　三個

佐世保鎭守府藏

一、敵部隊長の鐵兜　一個
一、モーゼル拳銃（サック付）　一個
一、支那軍の操典　一冊
一、上海市政府公報　一冊
一、財政公報　一冊
一、ソ聯製E16型戰鬪機　一臺

わが荒鷲軍に擊墜されたる支那空軍の精鋭である。

大阪航空兵器集積廠藏

一、水上機のフロート　二個

虹橋飛行場で鹵獲したものである。

東京陸軍兵器支廠藏

一、銃劍　一〇口
一、拳銃　一梃
一、長刀　一口
一、長銃　一梃
一、喇叭　一個
一、彈藥嚢　一個

〇〇部隊藏

一、支那軍旗（聯隊旗）　一旒

ゲリラ戰の基幹部隊である遊擊第一師第五團（團はわが聯隊に當る）の軍旗、津浦線の戰線で鹵獲したもの。

第十六師團第二兵站司令部藏

一、爆彈破片　三個

昭和十三年二月二十四日新鄉に敵機空爆の際拾得したるもの。

田中飛行學校藏

一、空軍訓條　一枚

一、防毒教材　二枚
一、爆彈表　二枚
一、蔣介石寫眞　三枚
一、支那度量衡圖　一枚
一、防寒氣球圖　一枚
一、倫敦防空配圖　一枚
一、都市防空配圖　二枚
一、列强空軍比較表　一枚
一、孫文像　一枚
一、支那書籍　三八冊
一、陸海軍勳賞奬勵圖案　一冊
一、書籍雜誌　二二冊
一、支那軍ベルト　一個
一、支那軍々帽　一個
一、支那軍胴着（袴付）　一枚
一、入黨申請證　四枚
一、軍隊手帳　一冊
一、手紙（國民軍用封筒に入れたもの）　一通
一、支那軍士兵健康證　一個
一、軍需人員證書　一揃
一、航行學書籍　一冊
一、軍需人員履歷書　一冊
一、航空協會々費領收證　一冊
一、公民證（馬越俊）　三枚
一、日本評論（支那製）　一冊
一、空中寫眞　一枚
一、支那航空雜誌　六冊
一、鐵兜　四個
一、小學校自由書帳　一冊
一、支那雜誌　六冊
一、航空協會領收書　一冊
一、湯呑　一個
一、錢幣革命　一枚
一、航空機青寫眞　一枚
一、航空學校課程表　一枚

一、黨國旗表解　一枚
一、國曆表解　一枚
一、訓育概況　一冊
一、航空學校成績表　三枚
一、支那製南京地圖　一枚
一、戰時巴里僞工圖　三枚
一、地雷爆彈の効果圖　一枚
一、實行法表解　一枚
一、革命記念日一覽表　一枚
一、支那カレンダー　二枚
一、高射砲圖　一枚
一、東京防空圖　一枚
一、標識　一枚
一、軍人訓讀　一枚
一、黨員守則　一枚
一、日本軍各飛行機識別表　一枚
一、支那樂譜（各種）　六點
一、支那服（部分品）　四個
一、彈藥バンド　一個
一、青天白日軍旗　三旒
一、勞働服務第二團旗　一旒
一、通信用パラシュート　一枚
一、支那看板「防空協會」　三枚
一、支那軍將校用名簿　一冊
一、支那小學生自由書　四枚
一、支那飛行機翼布　一枚
一、看板「防空壕」　一枚
一、支那軍指揮刀　一口
一、支那人笠　一個
一、揚子江の水　一瓶
一、中華門城廓煉瓦　一個
一、中山陵瓦　一個
一、寒山寺瓦　一個
一、中華門鐘ノ一片　一個
一、飯盒　一個

一、將校用帽子　一個
一、支那水筒　三個
一、支那背嚢　一個
一、擬裝網　一枚
一、練習用手榴彈　一個
一、兵卒用靴　一足
一、將校用赤襷　一個
一、支那プロペラの一部　一個
一、日本軍歡迎旗（三角旗）　一枚
一、木綿製彈入　一枚
一、支那ゲートル（上下）　三組
一、支那軍正裝（上下）　一揃
一、支那軍服（上下）　一揃
一、機關砲彈　四個
一、小銃彈（紙箱入）　三個
一、看板　八枚
一、藥莢　三個
一、砲彈破片　一個
一、迫擊砲彈　三個
一、航空機關銃　一梃
一、草鞋　二足

大阪陸軍兵器支廠藏

一、鹵獲トラック（保定第一五七號 陸軍第廿七師第七號軍用車）　一臺

右は今事變に於て昭和十二年九月わが軍が保定攻略の際敵軍廿七師より鹵獲せるもの。

一、八二ミリ迫擊砲　一門
一、四五ミリ迫擊砲　一門
一、三七ミリ步兵砲　一門
一、五二ミリ曲射砲　一門
一、七五ミリ山砲　一門
一、EE步兵砲　一門
一、三七ミリ對戰車砲　一門
一、ボッホース山砲　一門
一、馬曳機關銃　一梃

一、各種小銃　六梃
一、騎銃　二梃
一、自動小銃　一梃
一、擲彈筒　二個
一、迫擊砲彈　二個
一、槍　四本
一、長銃　二梃
一、手榴彈模型　二個
一、重機關銃　二梃
一、チエッコ輕機關銃　二梃
一、ブローニング輕機關銃　二梃
一、自動短銃　一梃
一、迫擊砲　二門
一、青龍刀　四口
一、地雷及附屬品　一九個
一、携帶電話機　一個
一、輕擲彈筒　一個
一、短銃　一梃
一、指揮刀　四口
一、青龍刀　三口
一、各種機關銃　二梃
一、槍　三本
一、各種小銃　一〇梃
一、高射砲　一門
一、一二式歩兵砲　一門
一、山砲　一門
一、重迫擊砲　一〇門
一、中迫・擊砲　二門
一、七糎半山砲　一門
一、六年式山砲　一門
一、迫擊砲彈藥車　二臺
一、機關砲　一門
一、洋砲　一梃
一、地雷彈（大二 小三）　五個
一、支那野砲　一門
一、九二式手榴彈藥車後車　一臺

一、三八式野砲前車　一臺
一、引枠　一一個
一、長柄青龍刀　二五口
一、長刀　二口
一、槍　一二本
一、水筒　五個
一、青龍刀（革嚢入）　三〇口
一、支那刀　二口
一、支那劍　二口
一、二刀差支那刀　四口
一、銃劍　五口
一、指揮刀　二口
一、輕機關銃　一梃
一、自動短銃　二梃
一、小銃各種　一〇梃
一、自動小銃　二梃
一、戰死者の携帶せし小銃　一梃
一、マキシム重機關銃用保彈帶　一個
一、布帛製彈嚢　二個
一、瓦斯マスク　二個
一、刀帶　一個
一、駄鞍　六組
一、乗鞍　一組
一、騾馬鞍　一個
一、鞍骨　一個
一、輓鞍　一個
一、鐙　二個
一、首革　一個
一、緩喉革　一個
一、籠嘴　一個
一、頭絡　一個
一、裝蹄具（鎚二、錐一、鑢一、釘壺一）　一組
一、輕迫擊砲　二門
一、中迫擊砲　一門
一、短迫擊砲　一門

一、山砲引枠　一個
一、重機關銃　四梃
一、輕機關銃　一四梃
一、重機關銃三脚架　四個
一、機關銃々身（嚢共）　一個
一、小銃　一三梃
一、拳銃　五梃
一、銃劍　一〇口
一、學生用短劍　三口
一、短指揮刀　三口
一、青龍刀　二口
一、庖丁　一個
一、ホッチキス保彈鈑（輕重各一）　二個
一、彈倉　八個
一、長銃　三梃
一、擲彈筒（長一短一）　二個
一、拳銃嚢　一個
一、喇叭　六個
一、圓匙（方匙共）　一一個
一、短十字鍬　三個
一、防彈胸當　一個
一、鐵條網鐵棒　二本
一、擔棒　一本
一、鶴嘴　一個
一、木槌　一個
一、軍旗　二旒
一、司令部門札　一枚
一、擔架　一個
一、高射機關銃　一梃
一、山砲（漢陽兵工廠製）　一門
一、高射機關砲　一門

大阪陸軍糧秣支廠藏

一、鍋　三個
一、釣瓶　一個
一、手箕　一個

一、釜　三個
一、庖丁　一個
一、杓子　三個
一、炊事器（籐製杓子一一）　二個
一、蒸器　一個
一、乾パン　一箱
一、藥草（三十七種）　四箱

一、猪苓　一、黄芪　一、甘草　一、金豆　一、升麻　一、管衆　一、枯梗　一、麻黄根　一、遠志　一、茵陳　一、生地　一、益母草　一、異形地骨地
一、五味子　一、黑白二丑　一、大魚眼釘　一、羌活　一、知母　一、防風　一、黄芩　一、細莘　一、香草　一、益母　一、管仲　一、鬼箭
一、麻黄　一、蒼求　一、平頭釘　一、甜甘草　一、柴胡　一、透骨草　一、五加皮　一、小香　一、荊芥　一、蓁先　一、薄荷　一、蒲公英

一、穀物（百廿一種）　二箱

一、稻　一、小米　一、軟米　一、小麥　一、春小麥　一、小籽麥　一、金裏銀小麥　一、紅麥　一、四月黄麥　一、黄高粱　一、倭高粱　一、扁豆　一、白豇豆　一、紫豆　一、大黄豆　一、蓁豆　一、玉蜀黍　一、大同白玉蜀黍　一、紅花籽　一、小黄穀　一、黄穀　一、白黍　一、掃帚拍種子　一、白皮松子　一、椿子　一、羊槐子　一、中槐子
一、稻米　一、黄米　一、紅袍陸稻　一、小宿麥　一、白小麥　一、白宿麥　一、枝麥　一、無芒小麥　一、高粱　一、美國白高粱　一、柴色大豆　一、白扁豆　一、紅豆　一、黑豆　一、圓黄豆　一、江豆　一、艷扁江玉蜀黍　一、美國玉蜀黍　一、硃砂穀籽　一、青穀　一、黍子　一、糜黍　一、紅黍子　一、青箱子　一、丁香子　一、樺子　一、杏子
一、白米　一、早陸稻　一、硬稻　一、宿麥　一、春麥　一、有毛宿麥　一、黍麥　一、雪麥　一、二帽盔高粱　一、坑搭穗高粱　一、大豆　一、白玉扁豆　一、黄豆　一、豌豆　一、菜豆　一、硃砂豌豆　一、黄色玉蜀黍　一、硃砂江穀　一、柏樹籽　一、周穀　一、軟黍子　一、泌州黄穀子　一、松子　一、黑葉子　一、洋槐種子　一、椿樹子　一、德國槐子

一、黒棗子
一、松樹子
一、黒欒子
一、蒼耳子
一、天冬
一、菖蒲
一、大黄
一、香附
一、毛榛
一、硫黄
一、郁李仁
一、款冬花
一、扁蓄咀
一、茯苓

一、桃子
一、漆子
一、谷子
一、樗臭椿子
一、止痛鋤積丸
一、冬花
一、側柏
一、連翹
一、樹花
一、獨活
一、西茜草
一、具母
一、粉葛根

一、油松種子
一、拍子
一、茄子
一、半夏
一、馬鞭谷
一、鳥靈脂
一、黒茶
一、蕙荚
一、花椒
一、地骨皮
一、前胡
一、甘遂
一、臺黨参

大阪陸軍被服支廠藏

一、綿入軍衣袴　四着
一、夏衣袴　五着
一、將校用外套（毛皮）　一着
一、白作業衣　一着
一、夏襦袢袴下　一着
一、冬外套　一着
一、夏外套　一着
一、天幕外套　一着
一、防寒帽　四個
一、防寒耳覆　二個
一、軍帽　九個
一、防寒手袋　三組
一、靴下　四足
一、卷脚絆　三組
一、防毒衣　一着
一、防毒面　四個
一、雜嚢　二個
一、衛生隊雜嚢　一個
一、馬用雜嚢　一個
一、彈藥雜嚢　二個
一、飼與嚢　一個
一、タオル　一枚
一、水筒　三個
一、整頓袋　一個
一、腕章　四個
一、旗　一七枚

一、偽用日本國旗　五枚
一、防彈チョッキ　二種
一、携帶馬糧袋　一個
一、水嚢　一個
一、毛布　一枚
一、防塵眼鏡　一個
一、マスク　一個
一、鐵兜　三個
一、襟章　三〇個
一、肩章　二〇個
一、飯盒　二個
一、藥盒　一個
一、長靴　四足
一、短靴　四足
一、麥藁帽　三個
一、秤　一個
一、撒水器　一個
一、噴霧器　一個
一、食器　一揃
一、ランプ　一個
一、メガホン　一個
一、提燈　二個
一、洋傘　二個
一、バンド　四個
一、紙　四種
一、カンテラ　一個
一、ローソク立　一本
一、鐵瓶　一個
一、煉瓦　一個
一、煉炭　二個
一、香爐　一個
一、糸　三種
一、鋏　二個
一、痰壺　一個
一、屋根瓦　三個
一、防具　一組

一、將校禮服　一揃
一、ベルト　三本
一、ベルト　一本
一、ステッキ　九本
一、鋸歯　一束
一、合羽　一枚
一、皮革　一枚
一、馬具　一組

井上文成氏藏

一、砲彈縦斷面　一個
一、紅槍　一本
一、長刀　一口
一、青龍双刀　一口
一、指揮刀型大刀　一口
一、輕便防毒マスク　一個
一、信號ピストル　一梃
一、海軍將校用小劍　二口
一、歩兵用銃劍　三口
一、青龍刀型大劍　二口

○○部隊藏

一、支那兵用雨傘　一本
一、カーキ色軍服（上下）　一着
一、戰鬪用支那服（上衣）　三着
一、病兵用支那服（上衣）　四着
一、支那兵用軍袴　八枚
一、支那兵の軍帽　五個
一、學生軍の軍帽　一個
一、鐵兜　七個
一、防寒用帽子　四個
一、偽裝用鐵兜　一個
一、空襲報知器　一個
一、乾麵包　三袋
一、軍用チューインガム　一箱
一、軍用蠟燭　一箱

一、青天白日旗　五旒
一、手榴彈入れ籠　二個
一、背負籠　一個
一、迫撃砲彈　二個
一、藥莢　二個
一、青龍刀　五口
一、銃劍　一口
一、長刀　一口
一、軍政部航空署訓令　一綴
一、公共防空壕立札　一枚
一、司機防空壕立札　一枚
一、二噸爆彈の説明立札　一枚
一、カーチスホーク機プロペラの破片　一個
一、茶褐色軍衣　一着
一、彈藥帶　一連
一、支那金陵兵工廠の未完成爆彈　一個
一、支那軍用笠　一個
一、敵司令部職員表　五枚
一、敵軍情報綴　一綴
一、馮師團長邸の標札　一枚
一、蔣中正の寫眞　一葉
一、支那機から投下爆彈破片　七個
一、看板（トタン製抗日用）　六卷
一、皇軍將士の筆蹟の跡が多く殘つてゐる看板（南京市政府用）　一枚
一、看板（明遠樓）　一枚
一、プロペラ　二片
一、青龍刀　三口
一、鐵兜　四個
一、飛行機模型　一個
一、國民政府標語　一枚
一、兵書　一冊
一、地雷（大小）　一〇個
一、地雷附屬品　一揃

一、地雷信管　二個
一、爆彈　一個
　團野特派員藏
一、旗　三旒
　藏居特派員藏
一、第二十二軍長の名刺　一枚
一、第二十二軍長の寫眞　一枚
　白髪藤四郎氏藏
一、第三路軍官兵信條　一冊

蔣介石室

大阪朝日新聞社出陳

一、南京政府花やかなりし日の蔣介石私室　一室
　南京軍官學校内蔣私邸は南京占領後もそのまゝわが皇軍に保管されてゐます。日夜皇軍の空襲におびえたその警報器と引切りなしに軍の傳令と聯絡に使用された卓上電話、又書棚の書籍の一部は今茲に出陳されて當時の思出を語つてゐます。
　○○艦隊司令長官藏
一、蔣介石の胸像（ブロンズ）　一個
　この胸像は南京下關（シャーカン）の税關にあつたもので、昭和十二年十二月○日わが軍艦龍田の陸戰隊が獅子山要塞から浴びせる彈雨を冒して決死的敵前上陸を敢行して下關（シャーカン）一帶を占領した際押收したもので、顏面に命中してゐる我が機關銃の貫通彈痕は激戰の如何に猛烈だつたかを示して居る。
　佐世保鎭守府藏
一、蔣介石室備付の防毒マスク　一個
一、同卓上電話機　一個
一、同商務印書館名入電氣スタンドセード　一個

　久琢磨氏藏
一、蔣介石愛藏の中央陸軍軍官學校史稿（帙入）　五冊
一、同中央軍官學校々史初稿　三冊
一、同人生哲學（巻上）　一冊
一、同最近日人研究中國學術之一班　一冊
　大阪朝日新聞社福岡支局藏
一、蔣介石愛藏の飛行機標識圖　一枚
一、同兵學辭典粹編 防空研究班（一）（二）　二冊
一、蔣介石像レリーフ　一個
　守山特派員藏
一、蔣介石自筆の名刺　一枚
　蔣が私室を逸走したあとの床上に散亂してゐたものを皇軍入城の第一日に我社特派員が入手した、彼れが遁げ際の狼狽ぶりが想像されます。

事變と朝日新聞

大阪トヨタ自動車株式會社藏

一、大阪朝日新聞社野戰移動通信班用自動車　一臺
　アサヒビル事務所藏
一、九州支社模型　一個
　大阪朝日新聞社藏
一、朝日新聞社特派員の制服　一着
一、同特派員携帶品（サック入）　一式
一、同殉職特派員寫眞　六枚
一、傳書鳩（剝製）　二羽

一、ニュース寫眞　五枚
一、號外　三枚
一、事變關係の朝日新聞社出版物　五種
一、映畫フキルム罐　二個
一、朝日新聞通信網圖　一枚
一、同社寫眞　二枚
一、同社特派員圖表　一枚
一、事變に關する朝日新聞の催し物　八面
一、わらわし隊を笑ふ寫眞　一枚
一、同隊寫眞　十二枚
　林田特派員藏
一、特派員携帶社旗　一旒

資源愛護

企畫院藏

一、久慈砂鐵　一瓶
一、鑛滓バラス　一瓶
一、鑛滓綿　二瓶
一、國家總動員解説圖　一枚
一、世界における重要資源生産圖　一枚
一、産業の發達と貿易の變遷圖　一枚
一、資源回收概要圖　一枚
一、代用資源一覽圖　一枚
一、資源活用概説圖　一枚
　日本再生ゴム株式會社藏
一、再生ゴム　三枚
　大阪製煉株式會社藏
一、素硫化鐵鑛　一瓶
一、紫鑛　一瓶

　日本水産皮革株式會社藏
一、鮭革　一〇枚
一、鯨革　一片
一、鮫革　三枚
一、靴　一足
一、下駄　一足
一、ハンドバッグ　一個
　東京秩父セメント株式會社藏
一、セメントダスト　一瓶
　帝國人造肥料株式會社藏
一、人造クリオリット　一瓶
一、珪弗化曹達　一瓶
　堺化學工業株式會社藏
一、リトホン　一瓶
一、二酸化チタニウム　一瓶
　日本ステンレス株式會社藏
一、ステンレス器具と材料　數種
　エタニットパイプ株式會社藏
一、エタニットパイプ（各種）　四本
　同大宮工場藏
一、同　二本
　昭和國産工業會社藏
一、硝子綿　一瓶
　三菱鑛業大阪製錬所藏
一、丹礬　二瓶
一、カトミウム棒　五本
一、セレニウム　一瓶
一、硫酸ニッケル　一瓶
一、蒼鉛　一塊

昭和産業組合藏

一、蛋白質沈澱　一瓶
一、シルクウール　ファイバー　一瓶
一、同　紡絲　數種
一、同　服地　數種
一、滿洲大豆　一瓶
一、同　豆粕　一瓶

日本染料株式會社藏

一、フイキゾール　二瓶

日本化學工業株式會社藏

一、硬質抗火石　一個

旭電化工業株式會社尾久工場藏

一、パルプ　數枚

大阪朝日新聞社出品

一、國家總動員解說（圖表）
イ、精神動員
ロ、物資動員
ハ、勞務動員
ニ、財政金融動員
ホ、運輸動員
ヘ、通信動員
ト、救護衞生動員
チ、科學動員
リ、總動員警備

一、世界に於ける重要資源（圖表）
一、農産及食糧資源
小麥、砂糖、食鹽、生ゴム、棉花、羊毛、パルプ、生糸
二、鑛物及金屬資源
鐵鑛、銑鐵、鋼塊、金、銅、鉛、亞鉛錫、白金、ニッケル、アルミニユム、マグネシウム
三、燃料及動力資源
石炭、石油、電氣
四、化學資源
硫酸、ソーダ灰、苛性ソーダ、硫酸アンモン、合成染料、固定窒素

一、産業の發達と貿易の變遷（圖表）
イ、國内産業躍進過程
ロ、貿易構成と其の變遷

一、資源回收概觀（圖表）
A、再生回收
一、鉛　二、亞鉛
三、錫　四、屑鐵
五、銅　六、アルミニウム
七、ガラス　八、生ゴム
九、纖維材料
B、副産回收
一、銅製錬に於ける副産物
二、亞鉛製錬に於ける副産物
三、硫酸製造に於ける副産物
四、濕式銅製錬に於ける副産物
五、製鐵副産物
六、明礬石よりアルミナ製造に於ける副産物
七、魚粕製造に於ける副産物
八、食鹽電解苛性ソーダ製造に於ける副産物
九、コークス及びガス製造に於ける副産物
一〇、過燐酸石灰製造に於ける副産物

一、代用資源一覽（圖表）
一、皮革代用＝鮭、鮫、鯨等の皮
二、生ゴム代用＝人造ゴム類
三、木材パルプ代用＝紙、藁、桑皮、大豆殼籾殼、高粱稈等
四、羊毛代用＝大豆カゼイン、羊毛、鯨皮等
五、タンニン材料代用＝合成タンニン、パルプの廢液等
六、グリセリン代用＝合成グリコール、醱酵グリコール等
七、カゼイン代用＝大豆カゼイン、海草糊等
八、石油代用＝無水アルコールの混用、石炭液化揮發油、水性ガス合成揮發油、天然ガス合成揮發油、低温タール揮發油、薪炭ガス等
九、カリ鹽類代用＝セメントダスト、苦汁副産カリ鹽等
一〇、雲母代用＝エボニー、アスベストファイバー等
一一、石綿代用＝鑛滓綿、硝子綿等
一二、水銀代用＝窒化鉛、シアン化合物等
一三、白金代用＝過酸化鉛等
一四、銅代用＝ステンレス鋼
一五、亞鉛代用＝リトポン、チタン白等
一六、鉛代用＝抗火石
一七、錫代用＝紙器、陶磁器、硝子壜等
一八、鐵鑛石代用＝素硫化鐵滓、砂鐵等
一九、鐵鋼代用＝エタニツトパイプ

一、代用資源の變遷（圖表）
一、ゴム　二、固體脂肪
三、紡織纖維　四、固定窒素
五、砂糖　六、木材パルプ
七、洋毛　八、生ゴム
九、石油　一〇、獸皮
等の生産額の變遷を詳述す。

一、資源活用概說（圖表）
一、資源の開發
二、消費の合理化
三、科學研究の奬勵

航空關係

各務原陸軍航空支廠藏

一、九一式戰鬪機　一臺
本機は高翼單葉の單座機で大部分は輕金屬を以て作られて主に制空及び地上戰鬪の掩護に使用されます
一、全巾　約一二米
一、全長　約八米
一、全高　約三米
一、速度　約三〇〇粁
一、重量　約一五〇〇瓩
一、發動機　空冷式四五〇馬力
一、プロペラ　金屬製
一、價格　約八萬圓

一、九二式戰鬪機　一臺
本機は複葉の單座機で大部分は輕金屬でありまず主に制空並に地上戰鬪の掩護に使用されます
一、全巾　十米
一、全高　三米
一、全長　七米
一、速度　二八〇粁
一、重量　一七〇〇瓩
一、發動機　水冷式五〇〇馬力
一、プロペラ　木製
一、價格　約八萬圓

一、八八式輕爆撃機　一臺
本機は複葉の單座機で輕金屬と羽布をもつて製作されてゐる。大なる威力を要せぬ各種目標の破壞及び地上戰鬪の掩護並に狀況の遠距離搜索に使用されます
一、全巾　一六米
一、全長　一二米

一、落下傘　一個
一、旋回銃架　一個
一、旋回機關銃　一個
一、計器　一式
一、爆彈模型（五〇〇瓩）　一個
一、全高　四米
一、速度　二〇〇粁
一、重量　三〇〇〇瓩
一、發動機　水冷式四〇〇馬力
一、プロペラ　木製
一、價格　約十萬圓

立川陸軍航空支廠藏

一、L・V・G・P一型（ドイツ製飛行機）　一臺
一、航空寫眞機　二臺
一、九五式百五十馬力發動機　一基
一、九五式三型練習機　一臺
これは陸軍少年航空兵が最初に同乘飛行訓練を受ける練習機です
一、全巾　十米
一、全長　八米
一、全高　三米
一、速度　一七〇粁
一、重量　九〇〇瓩

陸軍士官學校分校藏

一、一七式飛行機々體　一臺
一、ライト式發動機　一臺
一、飛行機附屬品　五點
一、各種航空機寫眞　八四面

呉鎭守府藏

一、九〇式水上偵察機　一臺
座席　二
全長　九米
全幅　十一米
全高　四米

一、九〇式艦上戰鬪機　一臺
座席　一
全長　六米

一、九四式艦上爆撃機　一臺

全幅　九・五米
全高　三米
座席　二
全幅　十一米
全長　九・五米
全高　四米

この爆撃機は海の荒鷲軍の精鋭で航空母艦搭載機中の花形です。

佐世保鎮守府藏

一、八九式艦上攻撃機　一臺

支那事變勃發以來南京空爆をはじめ中南支各地の爆撃に數十回にわたり參加、敵彈を受けたまゝなほも勇敢に奮戰し機關に數十の彈丸を數へるに至り遂に後送された武勳輝く軍艦〇〇搭載の艦上攻撃機である。

一、海軍機空襲油書（各説明書付）　四面

佐世保海軍人事部藏

一、我が空軍の活躍及び日本側ポスター　二枚

內閣情報部藏

一、グライダー初等練習機　一臺

本機の操縱は老若男女を問はず地上に在て研究され、而も空を飛翔するあらゆる航空機と少しの變りもなく飛行概念を修得し得る安全操縱器である自由迴轉の模型を目前に見ながら實物操縱桿直結の掌鋼によつて動く可變動の主翼、尾翼、方向舵を背後に完全に裝備せる實習教導器であります。

アカシヤ木工株式會社藏

一、グライダ部分品各種　一揃

一、室內練習機　三臺

一、各國航空機引伸寫眞（全紙）　二六九枚

大阪朝日新聞社藏

一、「愛國義勇號」機　一臺

神風記念室

飯沼正明氏
塚越賢爾氏藏

一、閑院宮殿下御下賜三重銀盃　一組
一、陸軍大臣日本刀　一口
一、海軍大臣カップ　一個
一、勳六等旭日章　一個
一、東京府煙草セット　一組
一、カラチ日本人會金メダル　一個
一、帝國飛行協會白色有功章　一個
一、神戸日印協會神風型カップ　一個
一、遞信省金杯　一個
一、星空會地球儀　一個
一、英國日本人會銀煙草入　一個
一、カルカッタ日本人協會銀盃　一個
一、日英協會（ロンドン）銀カップ　一個
一、フランス飛行クラブ銀メダル　一個
一、ベルギー飛行クラブ銅メダル　一個
一、ベルギー新聞協會金メダル　一個
一、ブラッセル航空奬勵銅メダル　一個
一、フランス・ジュナール社金メダル　一個
一、イタリー十字架章　一個
一、フランス・レヂョンドノール勳章　一個
一、ベルギー勳章　一個
一、イタリー名譽飛行士章　一個
一、ラングーン日本人協會盛花器　一個

戰爭と科學

住友金屬工業株式會社藏

一、輕金屬合金　三點

この輕金屬合金は重さは木材に近く强さは鋼鐵に匹敵します、各種航空機の製作材料として重要缺くべからざるものであります。

大阪工業試驗所藏

一、光學硝子　四個

右は世界に誇るべき國產光學硝子で、望遠鏡測距儀、潛望鏡など精密光學兵器の製作は悉くこれに依るものである。

大阪帝國大學金屬研究所藏

一、特殊鋼　數種

特殊鋼
不銹鋼―海水や酸で銹びない。
防陣鋼―ねばくて硬い。
工具鋼―硬くて熱してもにぶらない。
磁石鋼―永久磁性が强い。
バルブ鋼―高溫度で弱らない。

同じ鋼鐵でも操作一つによつて著るしく特殊の性質をもたせることが出來ます。出陳されたものはその數例でありますが、何れも兵器の製作に重要な性能を具へて居ます。

川本八郎氏藏

一、模型軍艦　五隻

アマチュアー川本八郎氏の製作にかゝる水雷艇初雁、二等巡洋艦夕張、一等潛水艦伊號第六二、一等巡洋艦愛宕、驅逐艦曙の模型である。

大阪朝日新聞社出品

一、怪力線とはどんなものか（壁畫）

A、强力サーチライト使用
B、短波長電波利用
C、超音波利用
D、紫外線應用
E、アルフアービーター、ガンマー線や宇宙線

一、最新の火力兵器（壁畫）

小は口徑六ミリ半の小銃より大は口徑五〇センチに及ぶ列車砲まで各種の火力兵器の性能を解說す。

一、成層圈飛行と將來戰（壁畫）

成層圈とは―地上十キロ內外の上空
成層圈には―一年中雨も風もない
成層圈の｛氣壓は―四分一氣壓　氣溫は―零下五十度位｝
こゝを飛ぶ飛行機は―時速千五百キロ位の見込。
其の實用飛行が何時成功するか。

一、長距離砲の威力（壁畫）

歐洲大戰で獨逸が使つた長距離砲は射程百二十キロ、口徑二十一センチ。米國の設計に依ると傳ふるもの、射程三百十四キロ、口徑二十五センチ。

一、現代兵器總覽（壁畫）

步兵々器―十一種
騎兵々器―十一種
砲兵々器―十六種
工兵々器―十二種
輜重兵々器―八種
海軍艦上兵々器―十六種
海軍上陸兵々器―八種
航空兵々器―十八種

一、兵器まんだら（壁畫）

イ、測距儀の誤差
ロ、ロケツトの速力
ハ、無煙無音砲
ニ、小銃の射程
ホ、最新式の探照燈
ヘ、高射砲の命中率
ト、萬能飛行機
チ、トーチカの語源
リ、無線操縱兵器
ヌ、測距儀の發達極限
ル、巨砲の壽命
ヲ、航空兵士の無火煙草
ワ、兵器の値段

一、超音波と水中戰（壁畫）

一、潛水艦と母艦との通信聯絡に利用
二、潛水艦より敵艦の位置標定に利用
三、潛水艦と潛水艦との通信聯絡に利用
四、軍艦より潛水艦の接近する方向や距離を

（一）**ステープル・ファイバー及び應用製品**

當社のステープル製品は原料より製品に至る迄所謂一貫作業に依るものにして完備せる設備と卓越せる技術を以て特に研鑽を重ねたる優秀製品を提供し以て國策代用纖維としての使命を果さんとせるものなり。

出品の內サージは何れも商工省標準組織にして厚地、中肉、薄地の三種及び女子中等學校制服地は全ス・フ製品にして斯界に壓倒的勢力を示し好評を博しつゝあるものなり。毛織物代用として全ス・フのオーバー地並に北歐輸出向き捺染クレープ・アムセン及びモスリンは漸次其の需要を博し男子中等學校制服地並に霜降夏制服地は1/3ス・フ混紡品にして耐久力に富み好評なり。

（二）**綿　製　品**

當社が世界に誇る最高級製品にして晒ブロードクロス、捺染ボイル、縞クリンプは歐洲品を凌駕し、各市場より注文多し亦テーブルクロスは試驗品なるも既に北米より引合あり、なほ軍用カーキ地は礦物カーキ染にて傍系東洋染色株式會社製品にして夙に陸軍被服廠に納入せるものなり。

（三）**毛　製　品**

海軍毛布、ネル外套地は當社傍系大阪毛織株式社製品にして永年海軍々需部より御用あり、原料より製品迄一貫作業にして各二種共嚴選の上仕上す

（四）**カ　タ　ン　糸**

日常の必需品たるカタン糸は優良なる國產品なり、一般家庭は勿論陸海軍用縫糸に至る迄輸入品又は輸入原糸を使用したるものなるを遺憾とし弊社は之が輸入防遏の目的を以て製造を企圖したるものにして東洋標、並に鷹標は其品質に於て優に輸入品を凌駕し、弊社が內外に誇り得る高級綿製品の一なり。

株式會社　中山製鋼所

非常時鐵鋼飢饉の叫ばれること已に久しく其後現戰時體制下に入りて鐵鋼自給設備充實の必要愈々急を告ぐる秋、弊社にあつては曩に製鋼及壓延設備の完成によつて一大飛躍を試みることゝなり熔鑛爐建設の認可を申請しありしところ一昨昭和十一年末商工省より之が認可の指令下附されたるを以つて十二年初頭より直ちに建設工事に着手營々孜々として竣成の日の一日も速かならんことを期しつゝあり。

彪大豪壯なる製銑設備の威容は皇國無限の進展世紀の驚異を表象するに充分なる迫力をもつて生產都大阪の空に關西最初の雄姿を一頭地を拔きて現はし火入出銑の日の壯觀を偲ばしめつゝあり。

而も引續き第二號熔鑛爐建設認可の指令七月末に下附さるゝに及び弊社が鐵鋼報國の微衷は愈々其の實を擧げ得べきに至り弊社の欣幸之に過ぎるものなきと共にその責務の倍々重大なるを自覺するものなり。

東洋ベアリング製造株式會社

弊社創業以來茲に十有五年其の間一意專心微力をも顧みず優良製品の製作に盡瘁したる結果漸く世界標準型ベアリングとして遜色無き製品を產出し得るに及び一般工業界に其の聲價を認識せらるゝに至りたるは一つに國產品愛用家諸賢の御愛顧の賜物に外ならず依つて弊社は益々刻苦精勵し其の鴻恩に酬いんとす。然れ共製品の向上發展は只弊社の硏究努力のみにては達成し得られず需要家各位の御愛用と御鞭撻に俟たざるべからざるものなれば弊社の微衷を諒とせられ絕大の御後援御指導あらん事を希ふ次第なり。

ベアリング工業の軍需產業平和產業としての兩樣性

ベアリングは凡ゆる回轉機構に使用され機械の高速度化を圖るものでありますからその需要範圍は極めて廣く且つその將來に於ける需要の增加性も亦大なるものであります。

ベアリングの軍需品としての地位は船舶、自動車貨車等の運轉機關を初め航空機、戰車、軍用自動車艦艇其の他各種兵器等直接戰鬪に使用されるものに多數要するものでありますから軍需品としての重要性は極めて大なるものであります。

翻つて平和時に於ては各種產業に廣汎なる需要があり而も國內に於ける之が供給は現今その需要の半ばに充たざるの狀態でありますから弊社は時局に鑑み夙に增產設備に着手、着々その實を擧げて居ります。將來共積極的に設備の擴充を圖り昭和十五年末に於ては自給自足の域に達し得るの設備を完了の豫定、昭和十六年より國內需要を完全に充足し以て微力乍ら產業報國の實を擧げんことを期し專ら努力邁進して居る次第であります。

松下電器產業株式會社

今回當博覽會に參加出品させて頂きました弊社の出品も松下電器產業本社が各全社を通じその代表的製品を出品陳列致しましたもので、全社の製品種目は現在二千數百種の多きに上つてをります。

この中ナショナル受信機は月產實に三萬臺の彪大に達しナショナル各種乾電池、ナショナルランプに至つてはその年生產額、約八百五十萬圓餘にして悠悠全國を風靡しつゝあります。

この外ナショナル電熱器としてはアイロン、電氣炬燵、電氣ストーブを初め家庭用、工業用等電熱器具の製造を續け倘電氣器具に於ては各種配線器具、電器計器類、照明器具、コンヂットチューブ等に亘つて實に五百有餘種の製品を出し、更に全松下電器諸事業の裡に最も新しい事業として優良純國產電球の製作を企圖し、ナショナル電球株式會社を興し各種電球を製造發賣致すやうになりました。

斯くして弊社は產業報國のもとに今後は更に全從業員の眞摯なる協力一致を根柢として事業の基礎愈愈鞏固に將來への發展を期すべく合理的に、科學的に經營の運行を進めつゝあります。

帝國人造絹絲株式會社

久しく世界の王座に君臨してゐた米國をKOして現在世界一を誇る我が人絹界の歷史は卽我が帝國人絹の歷史であると云つても過言でない、これ程に帝國人絹の存在は我が人絹界の巨星として、指導的立場にあつて常に我が人絹界躍進の爲に偉大なる貢獻をなして來た。帝人は實に堂々たる大資本のもとに昭和十三年度に於ては人絹生產高五千萬封度に達し我が國人絹總生產高の二割弱に及び其の上ステープル・ファイバーに於ても實に七百二十萬封度の生產高を見せて居る。特に近時ス・フの生產設備の擴大強化をはかり國策の線に沿つて愈々飛躍せんとしてゐる。

今や帝國人絹は世界の帝國人絹として世界に比類のない文字通りの大人絹王國を形成してゐる。

鐘淵紡績株式會社

現在の鐘淵紡績株式會社は最早單なる紡績會社や纖維工業會社としてゞはなく、堂々たる國策會社として非常時國策の線に沿つて、重工業、化學工業、拓植事業等凡ゆる事業に對して觸手を延ばし特に大陸には素晴しいその事業網を張りめぐらしてゐる。

鐘紡產業株式會社なる超巨大ホールディング・カンパニーを創設して現在の鐘紡の各事業を統制分離して右新會社の支配下に置き新事態に處してゆかうと云ふのである。

鐘紡は我が國の紡績事業を代表したるカネボーから今や新しき時代に處して、その最古の歷史も現在の陣容と實力を基礎として愈々新しき鐘紡の出現を見つゝある。

津田社長の遠大なる理想の下に大鐘紡は一路飛躍！發展へと驀進をつゞけてゆく洵に我が國產業界の力強い大存在である。

日本窒素肥料株式會社

當社の事業は發電事業、肥料事業、工業藥品事業人造絹絲事業、油脂事業、火藥事業、石炭液化事業鑛業等に及ぶ。而して各部門とも夫々に其派生的又は從屬的諸事業を有し、それのみで一個の堂々たる企業として遇されねばならぬものも尠くないが大別して上記の八部門に要約する事が出來る。

而して之れが經營に從事してゐる會社は二十有餘に及んでゐる。

當社事業の發展は近代經濟に於ける資本の魔力を巧みに利用した事に依つて持ち來されたものといふ可きではなく、個々の事業其者の內部的發展に依つて自然に齎されたもので何等不自然なる他資本の合同合併に依つたものではない。當社のモットーは事業を事業として發展せしめる事に存し資本的或は政治的威力を用ひて徒らに大を致さんとするのではない。此等諸會社の一億圓に及ぶ製品の販賣は一二の特殊關係の會社を除いては全部日本窒素肥料株式會社が之に當つてゐる。又此等各事業部門の統制指導は社長の指揮の下に之亦日本窒素本社が其中心をなしてゐる。

各會社の決算利益の分配及び多額の所要資金の運轉金融も亦日本窒素本社が擔當してゐる。かくして當社の各事業は甚だ廣汎な範圍に涉つてゐるにも係はらず各社一心同體一絲亂れず事業に邁進して行く姿は他に見られざる壯觀であり、且つ當社の事業に從事する者の職工から重役に到るまでの最大の誇りである。

ブリヂストンタイヤ株式會社

ブリッヂストンタイヤ株式會社の社史は明治廿九年に遡る、先代石橋德次郞氏久留米市苧扱川町に島屋と號し「志まやたび」なる商號の下に仕立物兼足袋製造業を創めたのが輝かしき同社の歷史の第一頁である、爾來社業隆々として發展し昭和六年以來自動車タイヤ界に純國產品として出現した。昭和十二年五月同社は資本金一千萬圓となし、本社を東京に移轉した、支店を大阪、名古屋の二大產業都に擁し出張所は京城大連に走り、本社工場は久留米市に在る。

住友金屬工業株式會社

伸銅所は舊住友伸銅鋼管株式會社櫻島工場で明治三十年四月、當時大阪市安治川上通一丁目の日本製銅株式會社を住友家に於て買收し住友伸銅場と稱し銅、眞鍮の板、棒、線等の製造を開始したのに創ります。

爾來設備の充實と製品の改良とに依り漸次事業の進展を見、亞鉛、白銅、アルミニウム等の製品を加へると共に明治四十二年より、銅、眞鍮引拔管の製造をも開始致しました。之は我が國に於ける引拔管の製造の最初で、當工場の主要製品の一たる復水器管の製造は既に此の時より硏究し來つたものであります。

又航空機の機體材料たる輕合金デュラルミンの硏究は歐洲大戰當時より着手し大正八年遂に之を完成し、以來絕えず製法の改善と品質の向上とに努め、

「住友のデュラルミン」として絶大の信用を得、飛行機用板、管、棒、鍛造品、プロペラ等のみならず造艦、造船其の他特殊品に迄利用せられて居ります。

デュラルミンの完成と共に更に新輕合金の創製に努め大正十四年、高級輕合金鑄物の製造を開始し、次いでS・A・1、S・A・2、S・A・3、S・A・4、S・S・A其の他各種の輕合金を加へ、昭和三年よりは超輕合金とも云ふべきマグネシウム合金製品の製造をなすに至りました。更に近年その機械的性質に於てデュラルミンをも凌ぐ優秀なる輕合金、超デュラルミン及超々デュラルミンを完成致しました。

他方伸銅品方面に於ても復水器管として世界的優秀品たる特許復水器管アルブラックを初め、特許耐酸性銅合金AR、建築用高級ブロンズ類、水道管として從來の鉛管に代るべき水道用銅管等の新製品を創製する等不斷の努力、研究を續けて居ります。

斯様に弊所は輕合金界に獨歩の地位を占め、銅及銅合金屬の製造に就ても亦斯界の王座を占めて居ります。

日本電氣株式會社

本博覽會に出品したロボット自動交換機は日本電氣株式會社の製作にかゝるもので一般世人が自動交換裝置に關する使用方法及一通りの知識を得さしむるためストロージャー式自動交換機の接續概念を本出品物により容易に理解に資せんとするのであります。

『私はロボット自動交換機であります。

私は今回幸に朝日新聞社主催支那事變聖戰博覽會に出品の光榮にあづかりましたNE式ロボット自動電話交換機でございます、從來交換手が取扱ひました電話交換は逐次自働化され今後皆様の所にある電話機のダイヤルを御自身で廻されることに依り私が自働的に交換働作をなすものでありまして私の身體は巧妙なる機械を以て組織されて居りますから何卒御愛顧の程を願上ます。

就きましては電話サービスの良否は日常皆様の事務能率に直接多大の影響を與へます故、私は私の責任の重且大なる事を感ぜずには居られません私は今後忠實に皆様の爲めに働かうと思びますが豫め一寸皆様に御了解を願つて置き度いと思ふことが御座います、實は極く正直な否愚直な一コク者でありまして何處へ掛けたいとか如何したい等と云ふ貴下方の胸の内迄御察しする樣な悧巧な事は出來ません、只正直に貴下方の電話機から送られる電氣の來やう一つで上つたり廻つたり下つたりするのでありますから若し不幸にして使用法を誤まられて電氣の送り方が正しくないと私は見當違ひの働き方をしまして其のやうな御方には善良なるサービスを捧げる事が出來ないのを遺憾に存ずる次第であります、それで之から如何すれば御希望通りに働くかと云ふ私の使用法を少し申上げ度いと思ひます。』

一、**發　信**

發信者が受話器をお外づしになりますと局外線點火し矢印は最終迄廻轉して最終の矢印點火し次いで局内線一次セレクター及度數計の各ランプが點火します、同時に着信者空き或は話中の各ランプ點火し發信音（ダイヤルトーン）を擴大放送しますと共に發信音及只今の放送の各ランプも點火致します。

二、**呼　出**

ダイヤルに對應しセレクターの上昇ランプ次いで廻轉ランプ順次點火し而して次位セレクターを補捉しますれば中繼線或は局内線及びセレクター表示の各ランプが點火致します。斯くの如くにして全過程を表示し了れば各ランプは呼出音（リングバックトーン）或は話中音（ビジートーン）と同一歩調にて明暗し各音を擴大放送致します。

三、**應　答**

應答致しますと各ランプは一齊に暗くなり兩者の通話を擴大放送致します。

四、**登　算**

應答と同時に度數計登算ランプ點火し數字ランプは一數字進みます。

日産自動車株式會社

日産自動車の社史は昭和八年十二月に創まる、續いてその工場の大部分が完成しダットサンの製作が進捗し、社會の盛んなる歡迎を受け爲めに本邦の生産立數が一躍數千臺に增加したる昭和九、十年より斯業が愈々本格的に軌道に乘つてきた、今や待望の大型大衆車ニッサンの發賣をみると共にダットサンに對する社會の認識は愈々深くなり、かくて同社及びダットサン並びにニッサンの平行方針をとり斯業界に破竹の勢を以て勇往邁進し、社業は爲めに殷盛を極めてゐる。

大日本紡績株式會社

無敵皇軍の向ふ所南京も徐州も瞬く間に落ちて御稜威四海に輝く時、銃後の守り雄々しく産業第一線に活躍を續けてゐるのがわが大日本紡績株式會社であります。茲に陳列されてゐる銃後國民の衣服に就て弊社が研究した成果を聊か説明して見たいと思ひます。

躍進日本の姿も其の儘に麗朗富士を壁面に寫し爛漫と咲き匂ふ八重櫻を配したのは忠勇無比の皇軍の心を象徴したのであります。

左正面の廻り舞臺は防共スクラムも頼もしきドイツ、イタリー、及び日本の少國民の黨服姿、陸軍服姿でありまして、三國々際親善の喜びを示したものであります。

其の足元にはわが大日本紡績が、斯界に誇るステープル・ファイバーの原料から製品に至る行程を示してあります。

中央正面の一家族は非常時服裝に身を包んだ模型であります。何れもわが大日本紡績が多年の研究の成果たる、ステープル・ファイバーを使用して作られた衣服及附屬品であります。

右正面は弊社が衣服界に贈る優秀なる製品の數々であります。今其れ〱に就き説明致しますと

一、**レヨネット**（チーズ二十番手双糸）

ステープル・ファイバーの糸にて鶴鹿なる商標にて賣出されて居ります。

一、**オパール**

毛糸の代用品として人絹に特殊の加工を加へて毛糸の樣にしたものです。

一、**レヨネックス**

全部ステープル・ファイバーの織物であります。

一、**人絹織物**

人絹のみで織つた織物であります。

一、**不二絹**

絹紡糸で織つた織物であります。

一、**レース**

最近流行の機械製のレースであります。

ネット側壁面は弊社の規模概要と、工場所在地及ステープル・ファイバーの原料及製品の輸出入關係を示したものであります。

弊社の沿革の概略を記しますと、明治二十二年六月設立された尼崎紡績會社が現在の大日本紡績株式會社の前身で、大正七年六月攝津紡績株式會社を合併して現社名になつたものであります。創立以來增資すること前後十二回、此の間には前記攝津紡績以外にも、東京紡績、日本紡績、日本絹毛紡績、鹿兒島紡績等の諸會社を合併して今日に及んでゐます。

更に營業方面では日清戰役後の活況からついで、臥薪嘗膽の不況時代、日露戰役の財界活躍期、それに續く大反動時代を經て歐洲大戰の大好況時代に際會し、會社の基礎は愈々鞏固となり其後の大恐慌、昭和初期の不況時代も堅實方針を堅持して搖がず、着々と確實なる發展を續けて今日に至つて居ります。今や光輝ある傳統と歷史は益々輝きを增して、近來の積極的方針は斯界に驚異の眼を瞠らしめてゐる次第であります。

昭和十四年三月十三日　印刷
昭和十四年三月十八日　發行

『支那事變 聖戰博覽會大觀』
（非賣品）

大阪市北區中之島三丁目三番地
株式會社朝日新聞社
編輯兼發行兼印刷人　樋口正德

大阪市北區中之島三丁目三番地
株式會社朝日新聞社
印刷所　大阪朝日新聞發行所

大阪市北區中之島三丁目三番地
發行所　株式會社朝日新聞社